

生齒及ビ言語ノ發達モ甚ダ遲ク步行ハ第六年ニ至リテ漸ク爲スヲ得爾后少シク健康トナリシモ不幸ニシテ呼吸困難ノ一症ニ犯サレ頗ル重態ニシテ死ニ瀕セシコト數回ナルヲ知ラズ如斯ニシテ大約五ヶ月ヲ經過シ漸ク輕快ニ趣キ萬死ヲ出デ、一生ヲ得シモ爾來一層脆弱ノ度ヲ加ヘタリト云フ

第五 少年期 身体漸ク健康トナリシモ氣質小膽トナリ事物ニ對シ恐怖心ヲ抱クヲ多ク我儘利己ノ性質萌生シ兩親ノ訓誨ニ從ハズ意ニ反スルキハ忽然周圍物品ヲ抛擲シ或ハ破却スルヲアリ九歲頃ヨリ小學校ニ入り十五歲ノ頃迄修學ス初メヨリ成績等他學生ニ劣ルヲ著シク及第セザルコトアリ後ニ至リテハ記憶力大ニ乏弱シ思考力甚ダ减小シ自己ノ慾意ヲ抑制スルノ力ニ乏シク時々無用ノ辨論前后矛盾スル爭論等ヲナセシト云フ家居自己ノ意ニ戻ルキハ兩親

々戚ノ差別ナク之レヲ苦責シ或ハ罵詈訛訛スルコト屢ナリト云フ而シテ非常ニ憤怒ノ際ニハ物品ヲ破壊スルニアラザレバ沈靜セズト云フ故ニ兩親ハ心痛ノ余リ學事ヲ廢止シテ專ラ農業ニ從業セシムルモ被告ハ農事ヲ嫌忌シ乘馬ヲ事トシテ無上ノ快トナス兩親益々憂苦措ク能ハス其行爲ヲ矯正セシガ爲メ明治廿三年十二月十九日妻ヲ迎ヘシム爾來少シク謹填ノ狀ヲナシ農事ニ從事セリ然ルニ翌二十四年五月八日插秧ノ際偶然夫婦間ニ爭論ヲ惹起シ爲メニ妻ハ斷然去テ郷家ニ至ル故ニ被告ハ屢々歸宅ヲ促スト雖モ更ニ肯スル氣色ナキニ由リ被告ハ精神違和時々暴行發作ヲ來スニ由リ兩親謀テ遂ニ倉中ニ鎖錮セリト云フ

暴行前後ノ狀態

明治二十四年舊五月廿四日鎖錮シタル倉中ヨリ遁走セシト雖モ數日

ニシテ歸宅シ農事ヲ營ムハ稀ニシテ嘗ニ紙片ニ落書或ハ紙片ヲ破碎
 シ以テ樂トナス又タ時トシテハ妻ニ對シ自己ノ非ヲ悔ユル如キ謝狀
 ナ送リシコアリシト雖モ文意更ニ解スル不能サリシト云フ同年六月
 十三日最早妻ノ歸宅セサルヲ傳聞シ頓ニ逆上シ剃髮シテ成田不動尊
 ニ詣テ斷食スルコト一週間然レモ斷食中堂近隣ヲ逍遙シ時々間食爲メ
 ニ菓子類ヲ食リ奇異ノ舉動ヲナセリト云フ舊六月廿日歸宅スルヤ直
 コ父ニ向ヒ妻ノ歸宅ノ有無ヲ尋チシニ妻ノ歸ラザルヲ聞キ忽チ兩眼
 赤色顔貌憤怒ノ狀ヲ呈シ斷食祈願ノ無効ナルヲ痛嘆シテ止マズ故ニ
 兩親交々慰ムルニ至リ少シク精神沈靜スルト雖モ更ニ業務ニ付カス
 頻リニ憂慮スルノ狀態ナリシト云フ母ハ被告ヲ苦慮スルノ余リ病床
 ニ臥シタリ同年舊六月廿八日妻父及ビ二三ノ親戚來訪シ談妻ニ涉リ
 歸宅ヲ請求スルモ容易ニ承諾ノ模様ナキニ由リ被告再ヒ逆上シ粗暴

ノ舉動ヲナセシモ母ノ病症危篤ニ由リ父ハ之ヲ省ミルノ暇ナク我意
 ニ抛擲セシト云フ同年舊七月六日午后三時被告ハ自宅ノ鎗ヲ携帯シ
 妻ノ農業中突然背部ヨリ刺衝シ縛セラレ、ニ至ル

〇〇〇〇監獄中ニ於ケル狀態

被告(T.i)ハ親戚ヨリ差入タル衣服又ハ書類等ヲ汚漬シ若シクハ破壊シ
 衣類二枚ヲ細碎シテ紐狀物ヲ作り日夜安眠セズシテ妻ノ名ヲ呼ビ猥
 褻ノ所業ヲ爲スコ數回之レヲ制止スルモ肯セズ醫藥ニ由リ催眠スル
 ナ得テ爾來精神沈靜セリト雖モ行爲ハ普通ノ人ト異ナルコト多カリ
 シト云フ

〇〇監獄署入監當時狀態

被告(T.i)ハ八日市場監獄ヨリ移リシ以來被告行爲少シク普通人ト異ナ
 ル点ハ時々監内掲示條目ニ抵觸スルコトアルニ由リ警邏ノ看守之ヲ説

諭スルモ其際ハ服從セシモノ、如キモ直ニ之レヲ忘却シ再ビ抵觸スルコアリ又タ故ナクシテ突然嗤笑スルコアリ其他行爲上普通人ト異ナル舉動アルモ顯著ナラスト云フ

現在症

第一 應答要領

問 汝ノ姓名ハ何ト云フヤ

答 (T.i.)

問 汝ノ年齢ハ

答 十八歳

問 出生年月日ハ如何

答 何年ナルカ覺ヘス

問 本年ハ何年何月ナルヤ

答 明治二十四年ナリ

問 本年明治二十四年ナレバ算術上ニテ自分ノ出生年月ヲ割出スコガ出來ルダロウ

答 出來マセン

問 汝ノ兩親ハ今尙健全ナルヤ

答 父ハ健全ナリ母ハ病氣テ在タ故ニ死ダカモ知レス

問 汝ノ血族中發狂セシモノアルヤ又タ中氣ノ如キ病ニ罹レル者アルヤ

答 知ラナイ

問 兄弟姉妹アルヤ

答 妹アリ

問 妹ノ姓名年齢ハ如何

答 ○○○○ト云フ年齢ハ知ラナイ

問 汝ハ曾テ大病ニ罹リシコアルヤ

答 幼年ニハ多病ニテアリシト父母カ言ヒタリシ

問 汝ハ酒ヲ飲ムヤ

答 酒ハ嫌イダ

問 學校ヘ行キシヤ

答 行タ

問 何年ノ頃ニ行キシヤ

答 十歳頃

問 何年間通學セシヤ

答 四年シテヒ然シ委シキコトハ忘レタ

問 通學ノ初メ何ト云フ本ヲ讀ミシヤ

答 忘レタ然シ猿ノ様ナ繪ガ書キテアリシ本ヲ讀ミタリ

問 其他ニ讀ミタル本ニテ覺エナキヤ

答 讀ミシ本モアリシガ皆ナ忘レタ

問 退學スル時分ニハ何ト云フ本ヲ讀ミシヤ

答 忘レタ

問 千葉ノ監獄ニ入りタルハ何年何月頃ナルヤ

答 去年十月頃ト覺ユ

問 何故ニ八日市場監獄エ入りシヤ

答 ○○ヲ殺シタカラデアロウ

問 ○○ハ汝ノ知リ人ナルカ

答 私ノ女房ナリ

問 何故女房ヲ殺セシヤ

不完全白痴ノ刑法ニ關スル實驗

答 家ニ歸ラサル故ニ殺シタ

問 ○○ト婚姻セシハ何年何月頃ナルヤ

答 忘レタ

問 汝カ何歳ノ時婚姻セシヤ

答 十六歳ノトキ

問 女房ヲ殺サントセシハ眞實心ヨリ出テタルヤ

答 ホントウニ殺ソウト思タ

問 何故ニ女房ヲ殺サントマデニ決心シタカ

答 女房ハ家ニアリテ自分ヲ時々馬鹿ニシ又自分ヲ打チシカドモ女

房ノ事ダカラ常ニ堪忍シテイタ女房ハ郷里ニ至リテ度々使ヲヤリ

タルモ歸リ來タラス故ニ歸ラサルモノナレバ殺シテシマウ方がヨ

イ

問 汝ハ女房ガ歸ラザリシ時ニ自分ニテ迎ヒニ行キシコアルヤ

答 二ヶ月許毎夜女房ノ床ノ下ニ潜テ眠リタリソウスル時ハ女房ト

同床ニ眠タノト同シキ故ニ

問 汝ハ成田山ニ行キシコアリヤ

答 アリ

問 何月頃ナルヤ

答 忘レタ

問 其目的ハ如何

答 女房ノ家ニ歸ルヲ願フ爲メナリ

問 汝ハ斷食中菓子類ヲ喰フタト云ガ如何

答 笑テ答ヘス——食ヲ腹ガ減タカラ食タ

問 斷食中如何ナルコトナシタルヤ

不完全白痴ノ刑法ニ關スル實驗

答 不動堂ニアリタル緝錢ヲ取り其爲メ番人ニ毆打セラレタリ彼ノ番人ハ惡人ナリ

問 女房ニ害ヲ加エタル場所ハ何處ナルヤ

答 畑ナリ

問 如何ナル方法ニテ害ヲ加エタルヤ

答 女房が畑へ耕スニ行クヲ知リタルヲ以テ跡カラ見エサル様ニツイテ行キ畑ノ中デ手鎗ヲ以テ女房ノ背部ニ近接シ鎗ヲナゲタリ其時女房ハ甚シク泣キタリ然ルニ同業セル雇人が鋏ヲ以テ自分ニ打ちカ、リタル故ニ其所ヲ遁ゲ自殺セシモ遂ニ縛セラレ醫者ノ爲メニ助ケラレタリ若シ醫者が療治セザリシナラバ自分モ死セシモノナルベシ故ニ醫者ハ惡ムベキ者故ニ醫者モ亦殺ス氣ナリ

問 自殺ニ用ヒシモノハ如何ナルモノナルヤ

答 小刃ナリ

問 何處ヨリ持チ來ルヤ

答 手鎗ト共ニ家ヨリ持チ來リタリ

問 醫士ガ療治スルキ如何

答 療治ヲ受ケザル心ナレバ醫士ヲ打チ毆キタリ

問 汝カ女房ヲ殺サントスル目的ハ女房ヲ殺シ自分モ死スルノ覺悟ナルヤ

答 然リ

問 女房ト共ニ死シ何ノ益アルヤ

答 共ニ死ネバ女房ノ傍ニ居ルトカ出來ル故ニ自分ノ望チ達スルトカ出來ルト考エタカラナリ

問 汝ハ兩親ニ不孝ニシテ命令等ヲ用イス我儘デアリシト云フカ如

何

答 知ナイ

問 女房ト兩親トハ何レガ良イカ

答 女房ノ方餘程良イ

問 汝ハ人命ノ貴キト云フヲ知ルヤ

答 知ラナイ

問 盜賊ト人ヲ殺スト何レガ悪キヤ

答 盜賊ハ人ヲ殺スヨリ悪シ

問 何故ニ盜賊ノ方カ悪キヤ

答 自分が樂ヲシテ人ノ物ヲ取ル故ニ人ヲ殺スハ自分モ亦タ死スル故ニ人ヲ殺ス方良シ

問 汝ハ監獄中父ト面會セシコアルヤ

答 アリ

問 如何ナル咄ヲナシタルヤ

答 話ハシナイ只タ女房ノコヲ問ヒシノミナリ

問 母ノ病氣ノ様子ヲ尋ネシヤ

答 尋チズシテ女房ノコバカリ尋ネタリ

問 父ハ女房ノコニ付テ何か言ヒシヤ

答 女房ハ死ンダト言ヒシ故オレモ殺スナラ早ク死テ見タイモノダ

第二 身体的診査

(a)他覺的症狀

年齢十八歳ノ一男子体格榮養共ニ中等ニシテ全身皮膚ノ榮養佳良ナラスト雖モ一定ノ彈力及ヒ光澤ヲ備エ淡白色ニシテ皮下脂肪層ニ乏シカラス身長四尺九寸体重十二貫四百九十目体温三十七度一分脈搏

強實ニノ八十至ヲ算ス呼吸二十四

(顔貌) 痴呆狀ヲ呈シ時々茫乎タル狀態ニシテ言語甚ダ不明對話ノ際殊ニ奇異ト認知スルハ上肢ニ於テ (Automatische Bewegung) 自發的運動ヲ營ミ強テ抑制スルモ亦々直ニ同様ノ運動ヲ營ム上肢ヲ禁ズレバ下肢ニ於テ之レヲ爲ス該運動ハ或ハ手拭ヲ以テ種々捻轉シ周圍ノ物品ヲ弄玩シ若シ周圍ニ一物ダモナキハ自己ノ手ヲ以テ種々ノ擬似ヲ爲ス其ノ他人ヲ見テ笑フノ僻アリ對話ノ際滿面笑ヲ含ムニアラザレバ一言ダモ發スルナシ

(頭部) 畸形ヲ認知セザルモ左側顳額部ニ於テ長徑四cm横徑三cmノ癩痕アリ左側乳頭突起ノ上部ニ於テ長徑二cm横徑三cmノ癩痕アリ矢狀線ヲ去ル三cm左方ニ於テ長徑三cm横徑四cmノ癩痕アリ前頭部ニ於テ蠶豆大ノ癩痕アリ總テ此等ノ癩痕ハ移動シ易キヲ以テ骨膜ト癒着セ

ザルモノナリ然レモ按壓ニ由テ輕易ノ疼痛ヲ訴フ特ニ前頭部ノ癩痕ハ按壓ニ堪ヘ難キノ疼痛アリテ尚ホ之レヲ劇歴スレバ一時顔面蒼白ノ狀ヲ呈シ精神違和ノ感アリテ眩暈ヲ催スモ他ニハ認ムベキ變狀ヲ起サズ之レ小兒期ニ於テ發生シタル濕疹ノ治癒セシ形跡ナリ

眼 眼瞼破裂ハ左右同一結膜少シク充血シ瞳孔稍ヤ縮少光線ニ對スル反應微弱ナリ視力ハ左右輕度ノ近視ニノスネルレル氏表ヲ以テ視力ヲ檢スルニ左右共ニ $\frac{3}{8}$ ヲ有ス

鼻 形狀少シク畸形ヲ呈シ中央部稍陷凹シテ扁平上向シ所謂鞍欄狀ヲ爲ス時々衄血アリト云フ嗅覺機能ハ鈍麻ニシテ惡臭ヲ嗅グモ意トセズ

口 口唇少シク蒼白色ヲ呈シ舌輕易ノ浮腫薄苔ヲ認ム味覺機能尋常ナリ齒列少シク不正ナリ

音聲異常ナキモ時トスルト音聲ノ變スルコアリ口腔内ノ粘膜炎認ム可
キ變狀アラズ

耳 外耳形狀敢テ畸形ヲ呈セザルモ顔面ニ比シテ小ナリトス聽覺機
能ハ鈍シ

(頸部) 短大頸動脈搏動ヲ認ム頸部ノ正中ニ當テ大小二個ノ創痕アリ
之レ犯罪ノ當時自殺ヲ企テ遂ゲスシテ醫治ニ由テ治癒シタル瘡痕ナ
リトス

胸廓理學的調査

(視診) 胸筋發育中等呼吸的運動左右共ニ同一ナリ

(觸診) 胸振顫並心悸動異狀ナシ

(打診) 肺尖ハ左右兩側共ニ鎖骨ヨリ三指廣肺下緣ハ右側ハ第六肋骨
ヨリ肝臟濁音部ニ移リ左側ハ第五肋間ヨリ心濁音部ニ移行ス打響ノ

性質異狀アラズ

(聽診) 肺胞呼吸音ハ稍ヤ弱ナリト雖モ異常ナシ

(心臟部) 理學的診斷異常アラズ時々神經性心悸亢進アルノ

(背部) 診査上異狀アラズ

(腹部) 腹筋緊張シ按壓ニ由リ輕易ノ疼痛ヲ訴フ

(陰部) 發育年齡ニ比シテ比較的發育良ニシテ鼠蹊腺等ニモ變化アラ
ズ

(泌尿器) 尿量比重尿色ニ變アラズ

(四肢) 上肢ニ於テ一種ノ自發的運動ヲ營ム握力減弱ス下肢膝蓋隄反
射左右共ニ少シク亢進ス一般皮膚ノ知覺甚ダ不定或時ハ過敏或時ハ
鈍麻ス部位神ハ頗ル不充分ナリ

(b) 自覺的症候

頭重頭痛眩暈等ヲ訴フ左右肩胛部時々疼痛發作アリ夜間安眠セス睡眠ニ際シテ時トシテ女房〇〇ヲ幻視スルヲアリ而シテ又夢想多シ(夢想ハ多クハ女房ノ)食慾不振時々嘔心便通常ニ秘結ス尿利ニ變化アラス

(態度) 怠懶ニシテ奇異ナリ

(歩行) 歩調少シク踟躕狀ヲ爲シ運動急或ハ緩意識的ニ矯正セントスシモ能ハスシテ願所常ナラス

第三 精神狀態診査

(言語) 不明了ニシテ曖昧失言等多シ且ツ對話中不遜ノ舉動ヲナシ懲戒スルモ恬トシテ顧ミズ常ニ自發的運動ヲ營ムニアラザレバ發言スルヲ能ワズ

感觸ノ起動 何事ニモ頓着セズシテ親戚朋友父母又目上ノ人ニ對シ

毫モ敬スルヲナク所謂禮狀ヲ知ラズ頻リニ他人ヲ譏謗罵詈ス物事ニ對シ自己ヨリ談スルヲナク問テ起スニアラザレバ答エズ然シ答フルニ當リ思慮スル如ク又言極メテ短ニシテ語ノ連續ヲ欠クノミナラズ甚ダ野鄙ナリ加之談話誤リ易クシテ其要領ヲ欠ク多シ

記憶力 甚ダシク乏弱シ二三日前ノ事ヲ忘却スル點多シ

思考力 久時ヲ費シテ不充分ナリ

理解力 不完全假令ハ殺人罪ト竊盜罪ノ輕重ヲ判別スルヲ能ハザル

カ如シ

精神一般ノ感覺 特ニ道德上感覺ハ著シク缺損セルモノナリ假令ハ父母ノ訓戒ハ意ニ介セス己レヲ訓誨セル師ニ對シテ譏謗罵詈ヲナシ利己又情慾ヲ逞フスル爲メニハ時々暴行ヲ爲シ父母ヲ苦責シテ更ニ意トセザルガ如シ

鑑定

以上列記スル處ノ既往症並ニ現在症ヲ總括スルニ被告(T.)ハ左ノ病歴ヲ有スルモノナリ

第一 被告ハ神經及ヒ精神病ノ著明ナル遺傳ヲ有スル

第二 被告ハ早産ニシテ充分ナル身体ノ發育ヲ遂ゲザル内ニ種々ナル疾病ノ爲メニ身体精神ノ發育ヲ妨ゲラレ生齒言語歩行等ノ發達尋常ノ小兒ニ比シテ遅延セシ

第三 徳道感覺ノ欠損少年期ニシテ其萌芽ヲ發生シ年長スルニ及ビテ益々顯著トナリシ

第四 記憶力减退著シキ

第五 思考力精密ナラザル

第六 被告ヲシテ犯罪行爲ニ陥ラシメタルキノ感動ハ特ニ色情的ノ

感動ニ因ルモノニシテ被告畢生ノ願望ハ只ダ肉体上ノ快樂ヲ得ントノ一點ニ集合シタルヲ假令ハ情慾ヲ遂ケンガ爲メニ神佛ニ祈願シ又タ被告ハ自分ノ妻ノ床下ニ起臥スルヲ二ヶ月間ニシテ當時恰モ同衾シタル感覺ヲ有シタルガ如シ

第七 自分ノ生命ヲ救ヒタル醫士ヲ憾ミ反テ害ヲ加エントスル感念ヲ有スル

第八 顔貌痴呆狀鼻形外耳ノ異狀アル

第九 自發的運動及ビ滿面笑ヲ含ムニアラザレバ言語ヲ發セサル

第十 歩行變調アル

第十一 法律上ノ能力不完全ナル

前記ノ諸症ニ依リ之ヲ診定スルニ被告(T.)ハ不完全白痴症ニシテ犯罪ノ當時ニアリテハ其犯罪的所行ヲ辨識スルノ能力ハ殆ント欠乏スル者

ナリ
右及鑑定候也

年 月 日 醫學士 大西 克孝 印

狸憑病者ノ一實驗

醫學士 大西 鍛述

一寡婦アリ明治廿二年十一月大坂醫學校ニ投ズ本咲某ト云ヒ齡四十七年兵庫縣ノ産ナリ父ハ其性活潑ニシテ酒ヲ嗜ミシガ腦出血症ニ罹リテ死シ母ハ亢奮刺戟性ニシテ事物ニ感シ易ク頗ル閑居ヲ好ミ狐疑スルノ癖アリシガ難産ニテ死シ其他血族中ニ神經病及ヒ精神病ノ遺傳ナシト云フ

既往症 患者ハ孖ニシテ對兒ハ精神錯亂シ痴呆ニ陥リ身神衰弱ノ死セ

リト云フ

患者幼時性頗ル温良身体發育等ニ於テ異常ナク十四歲月花肇メテ開キ翌年三月頃ヨリ十八歳ノ頃迄多量ノ子宮出血三四回アリシガ醫療ニ依リテ治シ爾來經水少量ナルモ妊娠セルト二回曾テ流産セシトナク一回ハ分娩頗ル平易ナリシモ一回ハ産後第七日劇甚ナル腹痛薦骨痛及高热ヲ發シ爲メニ輕度ノ腦症ヲ起セシガ醫治ニヨリ數週ヲ出スノ治セリト云フ天資頗ル鋭敏ニシテ事物ニ感シ易キモ敢テ背徳ノ念ヲ起セシトナク愛情ニ富ミ氣質ハ小膽ニシテ狐疑スルノ癖アリト雖モ智力發達尋常ニシテ事ヲ處スルニ當リ我意ヲ挾マズ偏癩スルトナク三十歳ノ時良人死シ爾後能ク家事ヲ處理シ交際場裡ニアリテ巧ニ人心ヲ得タリト

平素酒ヲ嗜メ且其量多カラス喫烟茶等尋常ナリ曾テ身体及ヒ精神ヲ

過勞セシヲナシト雖モ寡婦トナリテヨリ以來精神ヲ勞スルコト多ク殊ニ田地小作米等ノ事ニ付日夜心痛憂苦シ兼テ其姑ノ意ニ適セザルヨリ痛ク精神ヲ衝動シ終ニ本病ヲ誘發セリト云フ明治廿一年五月頃ヨリ記憶力ヲ失ヒ勞働ヲ厭ヒ時々異様ノ言語ヲ發シ意志變ノ或ハ笑ヒ或ハ喜ビ夜間安眠セス或ハ深夜突然高聲ヲ發シ家人ノ眠ヲ破リシコト數回或ハ事ヲ家人ニ命ズルニ其言フ處條理ニ戻ル然レモ時アツテ言語正確ナルコトアリ爾後病勢愈増惡シ時トノ深夜戶外ニ跳走セントシ之ヲ止ムルコトハ忿怒暴行極リナク甘言以テ之レヲ臥床ニ誘ハント欲スレモ敢テ之ニ從ハズ却テ不快ノ感ヲ起スノミ或ハ閑室ニ蟄居メ沈思默考シ或ハ壁ニ向テ喃々獨語シテ恰カモ對話ズルガ如ク人其室ニ入ラントスル時ハ直ニ之レヲ叱咤シ夜間全ク就眠セス或ハ寢具ヲ抱キテ戶外ニ出ントシ或ハ之レヲ展テ臥セントシ舉動躁々毫モ秩序アリ

トナシ九月以後ハ頻リニ怪物アリテ身邊ニ纏ヒ諸事ヲ命ズト云ヒ其無稽ヲ説クモ悟ルコトナク食ヲ進ムレバ黒色ノ妖魔窓前ニ出沒シ口ヲ開テ笑ヒ食物中ニ毒物アリ喰フ可カラスト云ヒ或ハ妖魔腹内ニアリテ食事ヲ禁スト云ヒ或ハ潜然涙ヲ流シ妖魔床下ニアリテ已レテ衝キ或ハ顔ヲ擦スルト或ハ腹内ニ占居シ跳ツテ我ヲ嘲笑スト或ハ椽側ニ佇ミ垣ヲ盼視シ彼處ニ妖魔潜伏スト云ヒ或ハ睡中蹶然起ツテ枕子ヲ投シ其狀恰カモ何物カニ向テ抛ツガ如シ傍人其幻夢ナルコトヲ論スモ却テ反目ノ無稽ノ言ヲ喋々シ毫モ悟ルコトナシ斯クノ如ク或ハ笑ヒ或ハ怒リ喋々辨スト雖モ語次條理ナク喜怒定マラス言語ノ調子音聲ノ呂律人ノ口頭ヨリ發セシモノトハ見ヘス正ニ怪魔ノ所爲ナラントシ終ニ大坂醫學校病院ニ來ルニ至リシト云フ

現在症 身體的徵候 體格中等營養不良皮膚輕度ノ蒼白ヲ呈シ頭部

少シク小ニシテ齒列正シク齒牙稍少ナリ頭髮ハ細ク疎ナルモ卷縮セズ体温三十七度脈搏六十六至左側撓骨動脈轉位シ呼吸淺表ニノ二十四ヲ算ス瞳孔中等大ニノ反應ヲ呈セス舌白苔ヲ被ムリ舌尖震顫シ懸攤垂ニ異常ナク咽頭及口腔粘膜炎少シク潮紅シ膝臄反射右側ニ於テ亢進シ左側ニ於テハ全ク缺損ス足痙攣ヲ認メス右膝蓋痙攣ヲ呈シ腹壁臀部及ビ肩胛部ノ反射機亢進シ左右耳輪頸部周圍左右上膊及ビ上下腿左右蹠前半部左右足背ニ於テ皮膚ノ知覺異常ヲ認ム

精神的徵候 神識溷濁認識想像及ビ記憶力共ニ減退シ往事ヲ語ラズ低聲獨語シ其内情ヲ穿タントスレバ逃ゲ去ラントシテ少シモ應ズル色ナシ病院ノ階段ヲ登ルニ當リ「ナンヤラ、クダイノモノガ、アンナコト、セナンダラ、ヨカッタ」ノ言ヲ數回反復シ毫モ禮節ナク顔貌恐怖驚愕ノ狀ヲ呈シ錯誤ノ想像ヲ爲ス試ニ無害ノ丸劑ヲ與フルニ嫌厭ス可キ臭

氣アリ必ズ毒藥ヲ混ジタルモノナルベシト掌中ニ弄ノ内服セズ依リテ臭剝阿片ヲ處シ兼テ「ヒヨスチン」〇、〇〇ニテ頓服セクメ毒ニ就カシム

經過 廿八日 妄想甚シク興奮ノ狀アリ廻診ノ際臥床ノ下ニ逃躲シ少時コシテ床下ヨリ出デ寢具ヲ疊ム何レニ行クヤト問ヘバ怪物ノ命ニ從フト怪物何レニアリト問ヘバ二階ニアリト答フ藥餌ヲ與フルモ服用セズ或ハ火鉢ノ傍ニ坐ノ喫烟シ或ハ沈黙シ或ハ獨語ノ看護人ノ命ニ從ハザルヲ怒ル廻診後仍靜穩ナラズ頻リニ看護人ノ去テシコトヲ望ミ去レバ再ビ來ラザルヲ懺ユ同夜安眠セス依テ催眠劑ヲ與フ

廿九日 煩悶ノ狀少シク減退セシト雖モ五官ノ錯誤及妄想去テス臥床ノ下ニ逃躲シ或ハ寢具ヲ疊ム等前日ノ如シ大喝一聲跪座セシノ説諭スレバ怪物已チ捕セントスルニヨリ避ゲザルヲ得スト藥餌ヲ嫌厭

スルヲ以テ強制的ニ之ハ服ヒシム鼠糞堆積シテ喰フニ耐ヘストテ喫飯セヌ此夜「ヒヨスチン」〇〇〇ニテ與フ安眠ス

三十日 神識稍明瞭トナリ能ク靜坐シ能ク食事シ看護人ノ懇切ヲ謝ス五官ノ錯誤及妄想ハ制剋ノ表ハサス同夜服藥セス安眠ス

十二月一日 精神沈淪喋々獨語シ或ハ窓下ニ佇ミ空天ヲ仰デ狸アリ名ヲ呼デ我ヲ招クト或ハ黑色ノ怪物階上ニ來リテ我ヲ罵詈訾嘲笑シ或ハ胸内ニ入りテ命ヲ奪ハントスト或ハ圃ニ入ルニ有毛ノ手ヲ以テ臂部ヲ撫スルモノアリト同夜安眠セス「ヒヨスチン」〇〇〇ニテ投メ就眠セシム

二日 精神沈靜シ談話スルニ語調正シク異狀ナシ亦毒物ノ妄想ナシト雖モ食氣振ハス便秘ヲ訴フ依テ「コロシント」ヒヨス丸ヲ與ヘ快通ヲ得タリ

三日 精神煩躁或ハ臥上ニ獨語シ或ハ忽然起立シテ異狀ノ擬似ヲナシ或ハ壁間ヨリ命令ヲ下スモノアリト喋々辨ノ止マス言語澁滯條理ヲ失シ試ニ中央神經ノ交通ヲ取ラント欲シ患者ノ左掌ヲ上方ニ向ケ上部ノ中線部ニ拇指球ヲ以テ輕壓ヲ加ヘ同時ニ兩眼ヲ閉鎖セシメ數回眼瞼ヲ撫スルニ睡眠狀ニ陥リ暫時ノ后醒覺セシノシカ此夜ハ安眠セリ

四日 心痛狀ノ感覺少シク減退シテ從テ亦五官ノ錯誤モ甚シカラス爾來神氣大ニ復シ頗ル輕快ニ赴キシガ月末ニ至リ再ビ恐怖悲哀ノ狀ヲ現シ無聲ノ言ヲ發シ食餌ヲ嫌ヒ容貌悲慘神識溷濁夢裡ニ在ルモノ、如ク瞳孔散大ノ反應鈍ク歩行蹣跚行爲凡テ穩靜ナラス大便秘結ス此夜「ヒヨスチン」〇〇〇ニテ與ヘ就眠セシメ翌朝「ズルホナール」一、五ヲ投メ熟眠セシメシニ苦悶ノ狀大ニ消退シテ漸次快方ニ赴キシガ廿三

年一月八日頭痛眩暈眼火閃發耳鳴ヲ訴へ自ラ不安ノ狀ヲ表徴セシモ
妄想ヲ醸出セス一月中旬ニ至リ神氣大ニ快復シ妄想及精神的知覺異
常ハ頓ニ消散シ神識明晰トナリ敢テ醫ノ命ニ逆フナカリシガ憾ヲ
クハ事故ニヨリ退院セリ

(考案) 我國古來狸憑病ト稱スル者ハ畢竟精神病ノ一徵候ニメ特異病
ニ非ザルナリ其發現スルヤ或ハ幻覺トナリ追跡スルモノアリ或ハ錯
知トナリ体腔ニ闖入占居スル者アリ或ハ妄想トナリ化身セシムル者
アリト雖モ要スルニ一徵候ニ過ギザルナリ其來ルヤヒステリー狂錯
迷狂躁狂鬱憂狂等ニ多シトス

今本患者病症ヲ案スレバ精神機能ハ苦痛的感覺ノ爲メ壓抑セラレ亦
他事ヲ顧ルノ暇ナク想像力版圖ハ頗ル狹隘ニノ頑乎ナル追跡思想其
中樞ヲ占メ身外事物ノ刺戟ニ遭遇スル時ハ直ニ苦悶憂愁ニ沈淪シ意
思大ニ減退シ飲食ヲ嫌厭セスト雖モ忘想ノ爲メニ抑制セラレ爲メニ
輒ク之レヲ取ル能ハザルニ至リシナリ是ヲ以テ之レヲ觀レバ本患者
ハ陰性鬱憂狂ニ罹リシモノニシテ其狸憑忘想ハ唯一ノ徵候ニ過ザリ
シナランカ

編者曰ク此寡婦ハ治チ大坂病院ニ請ヒタルヲ以テ殆ント快復ノ好
結果ヲ得テ幸ヒニ裁判醫事ニ關係ナキモ世間此種ノ疾病ニ罹リタ
ルキハ禁厭祈禱ノ爲メ動モスレハ虐待事件ニ關シ刑法ノ制裁ヲ受
クル實例尠トセス故ニ大西醫學士ニ請ヒ茲ニ掲出シテ同好諸士ノ
參考ニ資ス

放火犯大久保榮吉精神症狀鑑定書

明治廿〇年三月廿六日東京輕罪裁判所豫審判事山川德治ノ命ニ依リ

放火犯大久保榮吉ハ精神病者ナルヤ否ヤ鑑定スル爲メ同年四月九日同十六日鍛冶橋監獄本署ニ就テ右榮吉ヲ診査シ且ツ同人ニ係ル豫審調書ヲ閱フルニ其經歷及現時ノ状態ヲ約言スレバ左ノ如シ

第一經歷

一大久保榮吉ハ幼ニシテ兩親ニ別レ且現時近親ナキヲ以テ精神病ノ遺傳素因ヲ有スルモノナルヤ否ヲ判然スル克ハス
一大久保榮吉ハ生來智育ヲ受ケタルコトナク曾テ他人ニ雇使セラレ、モ常ニ其用ヲ辨スル克ハサルヲ以テ屢放遣セラレ居常路頭ニ於テ舞蹈ヲナシ或ハ演劇ノ真似ヲナシ或ハ竊カニ他人ノ家ニ宿泊シ或ハ近隣ノ家ニ至テ食ヲ求メ毫モ他人ノ嘲笑ヲ耻チズ近來ハ家ニ在ルモ唯水汲ノ業ヲナスノ外肯テ他事ヲ辨スル克ハスト云フ

第二現症

一 体格ハ稍々適宜ノ發育ヲ爲スモ榮養ハ稍不良ナリ体温及脈搏ニ異條ナク其他植物性機能ニ異條ヲ認メス人ト對話スルニ方テハ常ニ其眼ヲ閉チ應答甚ダ澁滯シテ其始メ幾回トナシ同一ノ語ヲ反復シテ然ル後漸ク辨シ來ルモ談事混合錯亂シテ殆ント事理ノ連綴ナク反覆シテ一事ヲ問フモ答辨屢他事ニ流レ年月及金錢ノ計算ノ如キハ十數以下ハ數回指チ屈スル後僅ニ計算シ得ルモ十數以上ニ至テハ毫モ其計算ヲ爲ス克ハス而シテ自ラ曰予ノ父ハ年月及金錢ノ計算ヲ知ラサル者ナリ故ニ予モ亦之ニ似テ計算ヲ爲ス克ハスト又放火ノ事實ヲ尋問スルニ其當時ノ所爲ハ追想シ得ルモ其放火ニ由テ自ラ得ヘキ所ノ結果如何ニ至テハ毫モ判斷スルノ力ナク尙ホ之ヲ説示スルモ了解スル克ハス

審明

放火犯大久保榮吉精神症狀鑑定書

右ノ發顯ヲ學理ニ徴スルニ被告大久保榮吉ハ精神欲損症ノ一ニシテ精神ノ發育低度ニ止マリ其機能缺損スル處アリテ單簡ノ想像力ヲ有スルモ事理ノ結果ヲ判斷スルノ智力ヲ欲キ責任負擔力ヲ具有セサルモノナリ
上記ノ理由ナルヲ以テ被告大久保榮吉ハ一ノ精神病即チ痴呆症ニ罹ル者トス
右之通及鑑定候也

明治廿〇年四月十八日

東京始審裁判所醫務委員

警察醫 石川 清 忠
同 川 俣 英 夫

余ハ本年ニ至リ某地方裁判所ヨリ精神病鑑定ノ命令書ヲ受領セリ
余ハ元來山陬僻地ニ人トナリ加フルニ淺學非才ニメ法醫學中殊ニ至難ナル精神病ノ鑑定ヲ能クスヘキニアラス故ニ再應之ヲ辭セシト欲セシモ奈セン我法律ハ淺學非才ヲ以テ正當ノ事故ト認メサレハ之ヲ辭スルニ由ナク遂ニ精神病ノ鑑定ニ從事スルコト前後四回ニ及ベリ依テ余ハ本誌ノ紹介ヲ得テ斯道先輩諸君ノ是正ヲ仰カント欲シ茲ニ該鑑定書ヲ郵遞ニ附セリ若シ本誌ニ於テ餘白ヲ割愛セラレハノ日アラハ先輩諸君冀クハ高教ヲ垂示セラレンコトヲ
(本件ハ甲女が先妻某女ノ物置へ放火セシ事件ニ本誌鑑定書ヲ出セシ翌日豫審免訴トナレリ)

籤 井 雀 庵拜識

鑑定書

明治某年某月某日某地方裁判所ニ於テ某豫審判事ヨリ被告人甲女放

鑑定書

火被告事件ニ付甲女ノ知覺精神ニ變調ノ有無ヲ精密ニ鑑定スヘキヲ
 ナ命セラル依テ某月某日ヨリ某月某日ニ至ル間某縣監獄署物置監ニ
 於テ甲女ニ就キ身体及ヒ精神的檢査ヲ行ヒ某月某日某地方裁判所ニ
 於テ參考人甲女ノ生母乙女証人丙某及ヒ丁某ノ陳述ヲ聽キ其他監獄
 醫女監取締同房セル被告人等ノ所說ヲ參酌シ鑑定スルヲ左ノ如シ
 被告人甲女年齡二十有八其現在症ハ赫格營養共ニ中等ニシテ脈搏七
 十二至呼吸數二十二體溫三十七度二分乃至六分ヲ算ス頭首ハ多ク下
 垂シテ頤部ヲ襟中ニ置キ顔面ハ少シク痲呆狀ヲ呈シ且ツ稍ヤ潮紅ス
 瞳孔ハ左右同大ニシテ反應アリ齒列犬牙シ聽覺稍ヤ鈍ナリ右上肢ハ
 上膊ニ於テ癩痕性癒着ニヨリテ右脇胸ニ接着スルヲ以テ同肢ノ機能
 ニ著ク障礙ヲ與ヘ僅カニ手首ヲ運動シ得ルニ過キス其他身軀各部異
 狀ナシ而シテ時々大聲ヲ放チテ号泣シしやうがないなあト云ヒテ頻

リニ流涕ス就テ其故ヲ問ヘハ或ハ自己財産ヲ他人ニ押領セララルト
 云ヒ或ハ自己ガ賞ヒ子食物ナキ爲メニ昨夜死亡セリト訴フ夜間ハ常
 ニ安眠ヲ得サルカ如ク又屢々夢魔ニ墜ハレテ絶叫シ時々枕子ヲ取テ
 床板ヲ叩ク其理由ヲ問フニ身邊ニ白狐或ハ蛇等來ルヲ以テ之レヲ驅
 逐スルナリト云ヒ或ハ室内ニ人ノ頭首蟬集シ恐懼ニ堪ヘサルヲ以テ
 同房セル被告人ニ同衾センヲ求メ又或ル時ハ戸障ノ風ノ爲メニ動
 搖スル響キヲ聞キテ只今白狐入り來レリト云ヒ又タ自己ノ亡父亡夫
 ト毎宵來ルト述フ而シテ其白狐ト云ヒ蛇ト云ヒ或ハ人類ト云ヒ亡父亡
 夫ノ來ルト云フモ果シテ其形影ヲ目視スル歟幻覺若クハ夢中ニ現ハル
 ヲモノナル歟ハ被告自身ニ於テモ之ヲ判ツ能ハス他ヨリ注意スルモ
 其境界甚ダ分明ナラスト雖モ恐ラクハ幻視ナラン其他食飼便通及ヒ
 月經等ニ異狀ナシ

既性症ニ就キ被告甲女自カラ陳述スル所ハ次ノ如シ
 父ハ飲酒セス四十一才ニノ熱性病ニテ斃レ母モ亦タ飲酒ノ僻ナキモ
 身体甚タ虚弱ナリ兄妹ナク親戚間ニ於ケル系統不明ナリ被告ハ東京
 ニ生レ六才ニノ現住地ニ來ル幼時ハ虫持ニシテ屢々「ひきつけ」タリ七
 才ノ時野火ノ衣袂ニ移リシ爲メ右上肢ニ大火傷ヲ蒙リ現時ノ如ク同
 肢ニ機能障礙ヲ貽殘セリ十一才ノ時替女ノ手引コ雇ハレ各所ニ流寓
 シ十五才ニノ月花開キ十七才ノ比ヨリ每春季ニ氣分鬱キテ諸事氣ニ
 懸リ物躰ヲ破毀スルトキハ大ニ快ヲ覺ヘリ此比ヨリ亡父來リテ地獄
 ～連レ行クト云ヒ或ハ又蠅トナリテ尋子來ルコアリ廿一才ニノK某
 ニ嫁セリ

是ヨリ先キK某ハ近隣ナル某女ヲ娶リシモ數日ニノ離縁セリ當時某
 女ノ爲メニ新裁セル衣服アリシモ之レヲ與ヘスシテ離縁セリ其後一
 年程ヲ經テ被告ハ同家ヘ嫁シ爾來無異ニ夫妻農事ニ出精セリ然ルニ
 被告ガ夫K某客歲八月比疾病ノ爲メニ卒然氣絶セシ際隣保ナル祈禱
 者某妻ノ介抱ヲ受ケテ蘇生スルヲ得タリ當時祈禱者ノ言ニ據レハK
 某ガ疾病ハ女子ノ生靈ノ崇ナリ全体被告ニ崇ルヘキ筈ナルモ健康ナ
 ルガ故ニ先ツ其夫某ニ就キテ之ヲ取殺サント欲スルナリト茲ニ於テ
 被告ハ始メテ前妻某女ノ自己ニ怨恨ヲ抱クコヲ知レリト
 某年春季被告ハ熱性病ニ罹リ自己僅ニ快癒スルヤK某亦タ熱性病ノ
 襲フ所トナレリ某祈禱者ハ云フK某ノ疾病ハ去年ノ祈禱者ニ謝禮ス
 ルコト少ナカリシヲ以テ狐三疋置キタルト及ヒ女子ノ生靈ノ崇リナリ
 ト
 K某ハ病襄羸弱ナル身躰ヲ以テ屢々燈火若クハ火奴ヲ取リテ自己ノ
 家屋ヲ燒カンコト企テ被告ハ之ヲ以テ生靈カK某ヲノ被告ヲ焚殺

鑑定書

サシメソカ爲メト思料セリ又タK某ハ病初ヨリ氣分常ト異ナリテ晝夜ノ別ナク布團ヲ携ヘテ戶外ヲ歩行セリ之レハ狐ノ所爲ナリ而ノ其狐ノ名ハ「どう」カマ「はつ」ト云フK某ノ屢々其名ヲ呼ブニ據リテ知レリ依テ被告ハ之レヲ驅逐セント欲シ萬年青及ヒ「くんろく」ハ狐ノ嫌忌スル所ノモノナリト人ノ教ユルニ從ヒ竊カニ之ヲ調理メK某ニ薦ムルモ每常ニ此内ニ萬年青若クハ「くんろく」アリト稱シテ喰ハス折角ノ苦心モ水泡ニ屬セリ又其狐ノ憑キタル確徴ト云フヘキハ毎朝病人ノ枕頭ニ狐毛アリ又タ坐敷中屢々狐ノ足跡ヲ見ルヲ以テ明了ナリトス而シテ其狐カK某ノ躰中ニ出入スル門戸ハ股ノ「くるり」(股關節)ノ上ニシテ其部ニ孔ヲ生セリ(蓋シ痔瘡ナラン)K某ハ遂ニ同年八月十日其取リ殺ス所トナレリ當時被告ハ先妻某女ノ被告ニ怨恨ヲ抱クハ被告ガ未婚前新調セル衣服ヲ與ヘサレニ基因スト聞キ其怨恨ヲ解カント欲シK

某死去ノ際該衣ニ添ユルニ若干品ヲ以テシ之ヲ某女ニ贈リシニ某女ハ尙ホ飽カスシテ今回ハ被告ニ崇ラントスト聞キ實ニ憤懣ニ堪ヘサル旨頻リニ慨嘆セリ其犯罪時ノ狀況ニ就キテハ被告所有ノ芋畑アリ其芋毎夜竊取セラル、ヲ以テ一夜十時比見廻リニ行キタルニ畑中ニ火奴二本落チ居リタルヲ以テ之レヲ路傍ノ藪中ニ打棄テ歸家就蓐セルニ須臾ニ出火ノ報アリシモノニ決メ放火セシメナシト
 參考人被告生母乙女ヲ尋問スルニ自己ノ年齢ヲ知ラス(五十才許)又其實子タル被告カ幼時ノ模様ニ就キ頻リニ喋々スルモ前後矛盾話次錯綜ノ毫モ取ルモノナク他ノ證人等ノ言ニ據ルモ皆ナ其心口足ラスト云ヘリ蓋シ殆ント完全白痴症ナリ
 証人丙某云フ被告等夫婦ハ丙某ノ物置キニ住居セリ被告ハ心口足ラサルヲ以テ之レカ對手タルモノナケレハ別ニ他人ト口論等ヲナヒシ

丁ヲ聞カサルモ其生母トハ屢々喧嘩セリ又々農業ヲナスニ不具ナル
 ナ以テ其動作他人ニ及ハズ而シテ仕事上打負ケルキハ口惜シトテ涕泣
 或時ハ家雞ガ塵溜ヲ散ラスヲ憤リ其隻手ニ二間餘ノ棒ヲ取リテ殿シ
 ク追ヒ廻ス等常人ト異ナル舉動ナキニアラス八月十日ニ其死去ノ后
 ハ丙某ノ住宅ニ同居セリ然ルニ毎夜恐夢ニ魘ハレ亡夫來レリ神來レ
 リト叫ヘリ其后三十日許ニ再ヒ物置ニ歸住セリ夫レヨリ一ヶ月余
 ナ經テ村内ニ出火アリ出火后被告ノ舉動平常ニ殊ナラス巡查來リテ
 某警察署ヘ同行スヘシト陳ヘタルニ被告ハ單衣ヲ着セル儘之レニ赴
 カントセリ丙某傍ラニ在リテ衣服ヲ着換可シト注意セシモ本日歸村
 セサレハ仕事ノ都合惡ルシ然ルニ衣ヲ襲タルハ裾重クノ歩行ニ便
 ナラスト述フル様子別ニ他意ナキガ如シ然レモ丙某及ヒ巡查ノ勸誘
 ニ依リ遂ニ衣ヲ更メタリ

証人丁某云ク被告ハ馬鹿ナリ然レモ意地張ニシテ片腕ナルモ麥蒔キチナ
 シ枯草ノ肥料ヲ切ル等ノ作業ヲ爲セリ嘗テ被告ハ先妻某女ハK某ヲ
 取殺シ次ニ被告ヲ取殺スト云フカラ業腹ナリト述ヘタルヲ以テ丁某
 ハ之ヲ慰諭セリト

説明

上來記載事項ニ就キ説明ヲ下ス左ノ如シ

第一 被告甲女ハ白痴ノ遺傳アリ且ツ自己モ亦不全白痴症ナリ

第二 被告甲女ハ十七八才ノ比ヨリ精神變調ノ萌芽アリ而シテ其夫K
 某カ疾病ノ爲メ心痛ノ際偶々祈禱者ノ蠱言ヲ聞キ元來無教育且ツ
 不完全ノ精神ナルヲ以テ頑然其言ヲ迷信シ百方其禍害ヲ避防セン
 ト欲シ苦慮ノ餘リ遂ニ錯迷狂ニ陥リ一種ノ被害妄想ヲ來スニ至レ
 ルモノト認ム

鑑定

以上説明セル理由ニ依リ被告甲女ハ不全白痴兼錯迷狂ト鑑定ス
右及鑑定候也

某年 月 日 鑑定人 鐵井 雀庵

鑑定書

明治廿五年某月某日甲府地方裁判所ヨリ被告ひすノ謀殺未遂事件ニ
付被告ハ其犯罪ノ當時知覺精神ヲ喪失シタル者ナリヤ否ノ鑑定ヲ依
囑セラレ再三診査ノ上之カ鑑定ヲ下ス左ノ如シ

第一 既往症

被告ひすノ實兄ひすノ陳述ニ據ルニ實父ハ十八九年前四十二才ニシ
テ某病ニ因テ死シ實母ハ本年七十三才ニシテ健存シ二兄アリ共ニ健

存ス又血族中ニハ精神病其他遺傳性ノ疾病ニ罹リタルモノ無シ
被告ハ本年二十七才幼時ハ強健ナリモ只十二才ノ頃或ル大患ニ罹
リタルト有リ十一才ノ時ヨリ小學校ニ入り勉學衆ニ拔ンデ學力常ニ
優等ナリシモ十六才ノ時家事上ノ都合ニ由テ退校シ爾來專ラ馬車別
當ヲ業トシ又農業ニ從事セシト有リ而シテ被告ハ資性機敏ニシテ至テ
謹直ナリシモ稍性急ニシテ忿怒シ易ク又幼時ヨリ飲酒ヲ嗜ソリ然レ
モ酩酊スルモ敢テ粗暴ノ舉動無ク却テ精神沈鬱シ就眠スルト多カリ
シト年廿ニノ甫メテ妻ヲ娶リ一女アリ本年三才夫妻ノ間常ニ能ク和
合シ嘗テ喧嘩口論セシ等ノ事ヲ聞カズ然ルニ本年七月五日被告ひす
ハ突然上野原警察署ニ到リテ何事ヲカ訴ヘ出デシニ人皆ひすノ舉動
常態ナラザルヲ見警察署ハ直ニ二人ノ兄ヲ呼出セリ二人ハ警察署ニ
出頭ノ始メテ被告ノ精神常ナラザルヲ知リ被告ニ就キ出訴ノ事由ヲ

詰問セシニ被告ノ陳辨スル所頗ル曖昧ニシテ或ハ自分ハ今迄他人ニ信
 チ缺クガ如キ所爲ナキモ他人トハ被告ノ家主某ヲラント云フハ
 自分ヲ誹謗スト云ヒテ切りニ之ヲ愁嘆シ又憤慨シ或ハ他人ノ信義無
 ナキヲ恨ミ又自分ハ到底此世ニ生存スルノ望無シト云ヒ而シテ稍々
 粗暴ノ舉動アリタリ因テ其日ハ被告ヲ自宅ニ引取り翌六日上野原ノ
 醫師某ノ診察ヲ受ケ次テ七日再ヒ上野原病院ノ診察ヲ受ケシニ共ニ
 發狂ノ態ナリト診断セラレタリ厥後被告ノ言語舉動日ニ粗暴ヲ加ヘ
 七月十一日ニ至リ家人ノ慮ヲ窺ヒ入水自殺セシト企テタレモ幸ニ
 人ノ爲メニ救助セラレタリ因テ同日ヨリ兩足ニ「ほだし」ヲ拵メ身体ノ
 自由ヲ制シタルニ被告ハ頻リニ自分ノ狂人ニ非サルヲ陳辨シ爲メ
 ニ舌暴増々甚シキヲ以テ五日ノ後只偏足ニ「ほだし」ヲ拵メタレモ
 屢々外出スルヲ以テ止テ得ス軀體ヲ柱ニ縛シタルヲ有リ然レモ被告

ノ暴行日ニ增長スルヲ以テ他人ノ勸告ニ因リ治療ノ爲メ或ル瀧ニ連
 レ行カンヲ計畫セシモ二兄等自己ノ家業ニ逐ハレ未タ其目的ヲ果
 スニ違アラザリシニ七月十八日ノ夜ニ至リ亂暴殊ニ甚ク時々大
 聲モテ「火事シヤ、火事シヤ」ト連呼シ戸障子等ヲ亂打シタリ然レモ家人
 ハ例ノ事トテ敢テ意ニ介セザリシガ同夜午前二時頃ニ至リ俄カニ悲
 鳴救助ヲ求ムルノ聲ヲ聞キタルヲ以テ直ニ現場ニ至リ見レバ被告ハ
 蚊帳ノ裡ニ在リテ妻某ノ頸部手掌等ニ負傷セシメタルナリ然レモ其
 何物ヲ用キテ負傷セシメタルヤハ知ルトコロニ非ス時アリテ精神大
 ニ沈靜シ又安臥シテ新聞ヲ讀ミタル等ノヲアリタリト云フ

第二 現症

体格中等ノ一男子全身ノ榮養不良ナラス皮膚淡褐色ヲ呈シ頭部ニ毫
 モ變常ト認ムヘキモノ無ク毛髮尋常ニ發生眼耳鼻等ニモ異常ナク舌

僅ニ白苔ヲ被ムリ食慾常ノ如ク体温三十七度三分脈搏七十四至呼吸
數二十一至ニ至コノ兩肺心臟等亦常態ヲ失ハス左上臍ノ前外側ニ當リ一
婦人ノ文身アリ其他生殖器ニ於テモ變常ト認ムベキモノ無シ
精神狀態ヲ觀察スルニ面貌稍々遲鈍恍惚ノ狀ヲ呈シ人ニ接スルニ恐
怖ノ念慮ヲ懷ケル者ノ如ク應答速カナラス問ヲ發スルニ暫ク默考ノ
後低聲モテ漸ク答辨ス而シテ其舉動ハ慇懃ニシテ殆ンド平人ト異ナル
所ナク當所(監獄署)ニ來リテヨリ以來神氣大ニ爽快ニ復セリト云フ

被告答辨書某月某日ノ調査

問 汝ノ姓名ハ

答 ヲ、すト申シマス

問 年齢ハ如何

答 本年二十七歳ナリ

問 何年ニ生レタリヤ

答 慶應二年三月ノ誕生ナリ

問 汝ニ両親アリヤ

答 母アルノミ

問 父ハ何時死シタリヤ

答 父ハ私ノ幼少ノ頃死シタリ厄年ニテ死シタリト聞ク

問 母ハ何才ナリヤ

答 六七十才ノ間位ナリト覺ユ

問 兄弟アリヤ

答 …… 兄二人アリ

問 其姓名年齢ヲ知ルヤ

答 一人ノ兄ノ名ハん、まト云ヒ一人ハけ、ト云フハ私ヨリ四ツ許リ

年長ナリ

問 汝ハ幼時ヨリ病ニ罹リタルコト有リヤ

答 病氣ニ罹リタルコト有レモ醫者ノ診察ヲ受ケタルコト少ク三度ハ

カリモ病メリト思フ

問 汝ハ學校ニ入リタルコト有リヤ

答 有リ、八歳位ノ頃ヨリ十六歳ノ時マデナリ

問 學校ヲ止メタル後汝ハ何ヲ業トセシヤ

答 學校ヲ止メテヨリハ馬方トナリ又農業ヲナレ夫ヨリ馬車別當ト

ナリ井タレモ病氣ノ爲メニ休業スルコトナレリ

問 其病氣ト云フハ如何ナル病氣ナリシヤ

答 私ハ無性ニテ覺ナシ

問 何月頃ヨリ病氣トナリシヤ

答 能ク知ラズ

問 汝ハ妻ヲ持テリヤ

答 ……有リ

問 名ハ

答 某ト云フ

問 某年齢ハ

答 二十四五才ナリ

問 子アリヤ

答 一子アリ女子ナリ

問 子ノ年齢ヲ知ルヤ

答 當年二才ナリ

問 汝ハ病氣ノ起ルコト何事カ心配セシコトナキヤ

答 全ク無性ニテ覺ヘナシ當所(監獄署ヲ云フ)ニ來リテヨリ氣分ハ遂ニ宜シクナリ晴々シタリ

問 汝ハ何故ニ當所ニ來リ居ルヤ何か犯罪セシ覺ナキヤ汝ハ妻ヲ殺シタリト聞ク如何ニ

答 私ハ何事モ覺ナシ左様ナ罪ヲ犯シタルヲ更ニナシ御上様ノ思召ハ知ラサレヒ私ハ無性ニテ何事ヲモ覺ヘオラズ

問 汝ハ或時自ラ溺死セントセシコトナキヤ
答 一向ニ知ラス

第三 診案

上記ケテノ陳述ニ係ル既往症其他現症及ヒ被告答辨書ニ徴スルニ血族中ニハ神経系統ノ遺傳性素因ヲ有セザル者ノ如シト雖モ被告ハ生來機敏ニシテ性急些少ノ事ニテモ忿怒シ易キ性質ヲ有スルモノ、如

シ而シテ被告ハ當初何事ニカ深ク感動スルトコロアリテ漸ク精神病ノ苦痛ヲ喚起シ悲哀ノ感覺増々進ムニ從ヒ終ニ自己ノ苦痛ヲ身外ノ事物ニ歸シ以テ或ハ被告ノ信義ナキコトヲ恨ミ或ハ自ラ不良ノ人タルコトヲ悲ミ漸ク幻覺錯知ヲ發來シ遂ニ一種ノ妄想ヲ生シ以テ自ラ入水溺死センコトヲ企テ又他殺ヲ企ツルニ至リタル者ナラン是レ屢々鬱憂狂患者ニ觀ル所ナリ

第四 鑑定

以上ノ所見ニ由テ之ヲ觀ルニ被告ハ嘗テ鬱憂狂ニ罹レル者ニシテ其犯罪ノ當時ニ在リテハ全ク知覺精神ヲ喪失シタル者トス
右之通及鑑定候也

明治廿五年月日

山梨縣立病院長

醫學士 下平用彩

甲府地方裁判所豫審判事宛

鑑定書

在千葉 森 理 記

甲女毆打創傷被告事件ニ付キ明治二十五年某月某日某地方裁判所ニ於テ某豫審判事ヨリ左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨命ゼラル
一 被告人甲女ハ白痴者ナルヤ否ヤ、又ハ瘋癲ノアル者ナルヤ否ヤ
依テ某縣監獄署拘留監ニ於テ被告甲某ニ就キ數回諸種ノ検査ヲ行ナ
ヒ鑑定スルコト左ノ如シ

第一 問答摘要

問 「をまへ」ノ名ハ
答 某

問 苗字ハ

答 甲某

問 年齢ハ

答 三十六(被告ノ夫乙某ノ言ニ據レバ三十九才)

問 父アリヤ

答 アリ

問 何歳ナリヤ

答 五十歳位ナリヨクハ知ラヌ

問 母アリヤ

答 二人アリ生活シテ居レリ

問 生母アリヤ

答 生ミノ母ハ幼キ時死セリ(ト述べ來リテ頻リニ涕泣ス)

鑑定書

問 父ハ飲酒スルヤ

答 相手アレバ一升五合モ飲ム

問 兄弟アリヤ

答 同母ノ兄一人異母ノ兄弟三人アリ

問 兄弟ハ皆丈夫ナリヤ

答 兄一人アリ一文商ヲナセリ

問 何歳ノ時ヨリ月經アリシヤ

答 十五歳ノ五月ヨリ(次回ニハ十五才ノ八月ト述ベタリ)

問 月經ハ毎月アリヤ

答 沈黙ス

問 何歳ニテ結婚セシヤ

答 二十一歳次回ニハ二十五歳又ハ十九歳ト述ベタリ

問 子供アリヤ

答 頻リニ涕泣シツ、四人アリト答ヘタリ(次回ニハ三人又ハ一人ナリト述フ)此際女監取締某傍ヨリ被告人ニ對シ二三ノ言辭ヲ發スル

ヤ怫然色ヲ作シ起テ室ノ一隅ニ赴キ便器ニカ、リテ放尿セリ依テ

問 答ヲ中止ス

問 父母アリヤ

答 一人亡クナレリ

問 父カ母カ

答 父ナリ

問 父ハ何病ニテ死セルヤ

答 「てんび」ト云フ病ヲ持テリ

問 「てんび」トハ如何ナル摸樣ノ疾ナルヤ

答 床ノ上デモ何ンデモ發リテ夢中トナルナリト述ベ來リテ涕泣ス
蓋シ「てんむ」トハ癡癩ノ誤リナランカ

問 初メ何ト云ヘル家へ片付タルヤ

答 「エス」某ト云フ家ナリ

問 何故ニ離縁セシヤ

答 舅姑ノ機嫌ガトレナク我儘ニテ出タリ

問 「をまへ」ノ里即チ實家ハアリヤ

答 ナシ

問 何故ニ此監獄ニ來リタルヤ

答 人ニ誑サレ飯ヲ焚キテ子供等ニ喫ベサセントスルキ繩ヲ掛ケテ
引キ出サレタルナリ

問 亭主ト喧嘩セシトアリヤ

答 偶マニナセシトアリ

問 亭主ヲ打チタルトアリヤ

答 否ナアリマセン

問 眞ニ然ルヤ

答 元カラ話セハ打ヌナイト云フトモナキナリ

問 如何ナル場合ニ亭主ヲ打シヤ

答 亭主ノ酒ヲ飲ミテ横ニナリシ所ヲ頭部ヲ打チタリ

問 何ンデ打シヤ

答 鐵ノ棒ナリ

問 何故ニ亭主ヲ打シヤ

答 已レテ構ヒ呉レザル故ニ打シナリ(此時椅子ヲ離レ頻リニ諸方ヲ
見廻セリ)

問 亭主カ構ヒ吳レザルトハ何ナルトチ構ヒ吳レザリシヤ

答 夫レ切リナリト述ベテ椅子ヲ離レ身躰ヲ一度廻轉セリ此身躰ヲ
回轉スルハ問答中屢々ナリキ

問 「をまへ」ノ亭主ハ始終家ニ居ルヤ

答 他所ニ泊リニ行ク度々ナリ

問 何用ニテ他所ニ泊リニ行クヤ

答 女ノ所へ泊リニ行ク故ニ夫レデ鐵棒ニテ頭部ヲ打シナリ

問 乙某ハ「をまへ」ガ始終五月蠅キヲバカリテ云フ故ニ夕飯後直ク獨
リニテ納戸ニ入り「をまへ」ヲ其内へ入レザルヲアリシト述ベタルガ
左様ノヲアリシヤ

答 私バカリ入レタリ又チ乙某自身ガ這入タリシタリ

問 「をまへ」ハ乙某へ對シ晝夜ヲ問ハス五月蠅キヲ云フト云フガ眞

ナリヤ

答 然リ夫故喧嘩モシタリ

問 「をまへ」ハ他人ノ居ラサル所ハ屋外ニテモ乙某ニ五月蠅ク追ルト

云フガ果シ然ル歟

答 微笑ヲ含ミテ答ヘス

問 乙某ハ「をまへ」ヲ愛スルヤ

答 「そば」ニ居モシナイデ蓋シ目下傍ヲニ居ラザルヲ云フナラシ

問 乙某ヲ打シ前夜乙某ハ家ニ在リシヤ

答 三晩許泊リニ行キ人ト飲ンデ來タリ

問 「をまへ」ノ顔面ノ傷痕ハ如何セシヤ

答 昨年繼子ノ娘ニ杵ニテ打レタリ

問 頭部ノ癥痕ハ

答 母及乙某ニ打レタリ

問 如何シテ打レタルヤ

答 私ガ氣ガ短カキ故逆からひテ打レタリ

第二 參考人ノ陳述

明治廿五年某月某日某地方裁判所ニ於テ被告人甲某ガ夫乙某ニ就キ被告ガ既往ノ狀況ヲ尋問スルニ其答フル所次ノ如シ

問 「をまへ」ノ姓名ハ

答 乙某

問 「をまへ」ハ甲女ノ夫ナルヤ

答 甲女ハ私ノ後妻ナリ

問 甲女ハ今年何歳ナリヤ

答 三十九歳

問 甲女ハ何歳ニテ「をまへ」ノ所へ片付キタルヤ

答 三十歳ノ時ナリ

問 甲女ハ酒ヲ嗜ムヤ否ヤ

答 好マセシ

問 甲女ノ幼時ノコト知ルヤ

答 甲女ハ私ガ居村ヨリ二里許ヲ距テタル〇〇村ノモノニシテ一度他へ片付キ子供一人アリシモ離縁セラレタリ恐クハ好色ノ餘リしつこきガ故ナリシナラン私モ初メハ年ヲ取ルニ從ヒテ治スベシト思ヒシニ段々寡リテ晝夜ヲ問ハス三度モ四度モ迫レリ而シテ私カ之ヲ他家へ避クルルキハ其所迄尋テ來リ自分ノ言フコトヲ聽カザレバ「ちんぼ」モ「きんたま」モ切テ仕舞ト云フ私ハ餘リ五月蠅キニ堪へ兼テ夜食后納戸ニ入り内ヨリ鍵ヲカケ十四五日間獨臥セシモ其効ナカリ

シ是レ然ラザルキハ晝夜迫ラル、ヲ以テナリ若シ求メニ應シ夜分四五回晝間兩三度モナスキハ能ク働作スルモ然ラザレバ少シ許リノ百姓モナサズ又タ或ル時近所ノ若者ニ酒ヲ買ヒテ依頼シ私ハ避ケテ他ノ家ニ泊リシコアレモ他人ニ對シテハ迫ルコナク只ク私シノミニ迫ラル、ヲ以テ甚ダ困却スルナリ

問 甲女ハ平生氣ノ違ヒタルガ如キ様子ナカリシカ

答 ナシ只求メニ應ゼザルキハ自己ノ物モ自由ニナラスト云ヒテ泣クモ之ニ應スレバ直ク機嫌直リ其他ニハ可笑キコナシ誰レデモ御座レデヤレバ私が大ニ樂ナレモ左様デナキ故ニ家業モ出來ザルナリ

問 甲女ノ親戚中ニハ氣違ナキヤ

答 聞キマセン

問 甲女トノ間ニ子供アリヤ

答 三人アリ

問 甲女ハ病氣ニ罹リタルコトナキヤ

答 私ノ家へ來テカラハナシ

問 甲女ノ實家ノ様子ヲ知ルヤ

答 馬喰ニテ今ハ絶家セリ甲女ニハ兄弟三人アリ其内一人ハ古血ノ

滯リニテ一年モ病ミテ死亡セリ

問 今回負傷セル當時ノ模様ハ如何

答 他ノ客ト對酌四合ノ焼酎ヲ用キ醉臥セル所ヲ鉄棒ニテ打レタリ六日間許ハ何事モ覺ヘサリシ是ヨリ先キ三十日程前ニモ手ト足トヲ打レタリ其時ハ甲女ノ求メニ應ゼザリシ爲メナリ而シテ手足ニ受傷セルニ關ハラズ尙ホ五月蠅ク迫ルヲ以テ北條病院へ逃ゲ行キテ

廿五六日モ治療ヲ受ケタリ
 今度モ受傷ノ前夜餘リしつこき故他家へ宿シ歸途要用アル人ニ遇
 ヒ相伴フテ宅へ歸リタルナリ平時ニテモ他家へ泊スルカ或ハ晝間
 ニテモ少ク長ク他家ニ在ルキハ人ノ婦人ト通セシナラント疑ヒ而
 シ若シ他ノ婦人ニ通セザルナラバ直チニ自己ノ求メニ應スベシト
 迫ルヲ常トセリ
 又タ其淫事ヲ求ムル當ニ家屋内ニ於ケルノミニ止マラズ耕耘ニ從
 事スル間ニテモ近圍ニ人ナケレバ迫リ來リテ人ノ遠方ヨリ望見ス
 ル等ニハ關スルヲナシ而シテ彼レハ何人モ之ヲ行ハザルモノナケ
 レバ構ハヌト云ヒ居レリ

第三 身体的及ヒ精神的検査

甲 身体的検査

一 自覺的症候 身長四尺六寸三分、体重十一貫百目、營養狀態ハ佳良
 ナラスノ肌膚蒼白色ヲ帶ヒ呼吸二十四、脈搏九十七、体温三十七度二
 分ヲ算ス
 頭部、頸頂部ヨリ后頭部へカケ壹仙迷乃至三仙迷ノ癍痕九ヶ所前額
 部ニ同大ノ癍痕三個アリ
 顔貌、一種痴呆狀ニシテ常ニ眉間ヲ蹙縮スルノ僻アリ
 眼、兩眼結膜ハ共ニ充血シ瞳孔中等大ニシテ其反應著シカラズ視力ニ
 ハ狀異ナキガ如シ
 鼻、口腔齒列、双耳道頸部ニ異狀ヲ認メズ
 胸廓、打聽診上及ヒ呼吸運動ニ異狀ナク又心悸等ヲ見ズ
 腹部、背部共ニ異狀ナシ
 四肢、握力中等ニシテ膝蓋腱ノ反射兩側共ニ極メテ微弱ナリ

二 自覺的症候 頭痛眩暈アリ食慾不定ナルモ多クハ亢進ス幻覺等
ナク夢ハ屢々之ヲ見ルモ總ヘテ雜夢ナリ
大便一日一回利尿數回ナリ其他記載スベキ的症狀ヲ訴ヘズ

乙 精神的檢査

言語明晰ヲ缺キ聲音又々朗ナラズ
記憶力不充分ニシテ同一問題ニ對シ其應答屢々差異アリ
思考力亦タ充分ナラズ應答ニ當リ多少ノ時間ヲ要セリ
理解力道德上ノ一部即チ色欲上ニ於テ著シク缺損セルハ前段記載
セル問答摘要參考人ノ陳述及ヒ巡查某ノ報告書巡查部長某ノ調書
警察署長警部某ノ送致意見補足等ニヨリテ徵スヘク其他拘置監ニ
於テ同房中ナル被告人ニ屢々抵抗ヲナシ又々女監取締ニ對スル言
語穩當ナラザル等凡テ女子ニ對シテハ舉動穩當ヲ缺クト雖モ男子

ニ向テハ毫モ右等ノ所爲ナキヲ以テ知ルベシ
感情頗ル鋭敏ニシテ話次親子夫妻間ノ事ニ及ブキハ每常必ズ涕泣
ス

第四 鑑定

以上記載セル事實ヲ彼此參照シ鑑定スルハ左ノ如シ

- 一 被告人甲女ハ不完全白痴兼色情狂ニシテ情欲亢進發作スルニ當リ
テハ其行爲ノ是非ヲ辨識スルノ能力ヲ喪失スルモノト認ム
右及鑑定候也

裁判醫學鑑定實例

醫學士 芳賀榮次郎 述

左ノ裁判鑑定ハ明治廿三年九月ノ事ニシテ或ル男子他ノ一人之ニ

副タリ其密婦ヲ謀殺セシコハ非ラサルカノ疑アル變死事件ニシテ
當時當地新聞紙上ニモ顯ハレ一時落着セシモ后再ヒ憲兵ノ告發ス
ル處ロトナリ法庭ノ一問題トナリ久シク判決ノ運ニ至ラザリシ者
ナリシカ遂ニ昨明治廿四年十月長崎控訴院公廷ニ於テ第二審ノ裁
判ヲ言渡サレケリ

余明治二十三年十二月當地ニ來リ其當時ノ情况ヲ詳ニセザルモ熊
本地方裁判府判事某ヨリ其當時或ル醫師ノ提出セル檢按書ニ就キ
鑑定ヲ命セラレシヲ以テ考察書(第一回)并ニ鑑定書(第二回)ヲ提出セ
リ

判事某ヨリ鑑定ヲ要求スル文ニ曰ク

別紙檢按書ニ於ケル如キ變死人アリ書中記スル所ノ各種ノ景狀アル
時ハ學理上ニ於テ溺死者ノ徵候ヲ具備スル者ト云フヲ得ベキヤ(第一

問)若シ之ヲ具備スルモノト云フヲ得ズトセバ此他如何ナル事項ヲ討
究スルヲ要スルヤ(第二問)又々其討究ハ屍体解剖ニ依リ判明スルヲ得
ベキヤ如何(第三問)

熊本地方裁判所

判事某

明治二十三年十二月二十五日

熊本病院御中

檢案書

飽田郡合力村字白藤村某番地

平民某長女

何 十七年 誰

右ノ者明治二十三年九月二十七日午前十一時當川尻警察署詰巡査某
殿ト立會シ檢按スルヲ左ノ如シ

密婦謀殺事件考察并ニ鑑定書

(1) 死屍ノ親父ニ向ヒ本屍其生前ニ病症アルヤ又何月何日當屋敷ヲ出デ他ニ至リシヤヲ質スニ病症ナク健全ニシテ昨二十六日午后三時頃川尻岡町ノ佳某氏ノ宅ニ所用アリトテ出テタル儘歸宅セサルト云フ

(2) 死屍現場 同郡中縁村掛天明新川ナル字江越ノ堤防ノ南側ヨリ沈水シタル形跡アリ即チ同堤防ニ日傘一本並ニ兩足ノ下駄整置シアリ又タ同堤防ノ近傍ニ生シタル小サキ竹ニ死屍衣服ノ袖ニ拳手大ノ小石ヲ投入シタルモノ繫レリ爾他近傍ニセハ何モ依ルヘキ跡狀ナシ但シ死屍ノ投存ヘル水中ハ深サ三尺計リニシテ水底ハ石礫ノミニテ河流ハ最モ緩流ナリ

(3) 死屍ヲ點檢スルニ体格高等榮養佳良ナリメリヤスノ半身襦袢ヲ着シ上ニ上州縮ノ單衣ヲ着シ黒縹子ト紅キ唐縮緬ノ打合セ帶ヲ纏

ヒ左袖中ニ亦拳手大ノ礫石投入スルヲ見ル而シテ左手腕關節ノ上部ヲ前垂ノ紐ニテ堅ク結束シ下脚モ亦足關節ノ上部ノ双方ヲ束子幅二寸長二尺許ナル唐縮緬ノ片ヲ以テ緩ク結縛セリ特ニ上手結縛ノ部ハ皮下ニ紐狀溢血アリ下脚ハ詳ナラス○頭部ハ結髮中等ニ乱レ前髮際ニ長サ一寸深サ筋ニ達セル挫創アリテ血液溢出セリ○前額 左上方ニ皮膚打撲痕アリテ皮下溢血ヲ見ル○顔面 ハ苦悶狀ヲ呈セズ皮膚色澤暗赤色ヲ呈シ右眼瞼少シク哆開シ左眼ハ閉鎖シ瞳孔ハ左右共ニ散大シ角膜光澤ヲ失セリ瞳孔ヨリ泡沫含有ノ水液ヲ流出ス口唇ハ哆開シ上下齒ハ舌尖ニ接シ舌ハ齒端ヨリ少シク脱出ス而シテ右上眼瞼及ヒ上口唇ハ表皮剝挫セルモノ各一個アリ耳ハ變化ナシ○上肢 ハ左手腕ニ前ニ述ベタル線狀皮下溢血点アリ手指ハ左右共ニ稍ヤ彎曲ス○頸部及胸部 共ニ前方即チ下側ト

ナリタル部皮膚ノ色澤暗赤色ヲ呈シ其他打診觸診ニ變化ナシ○腹部
部ハ最モ膨滿振水音アリ他ニ變化ナシ○背部 異狀ナシ○陰部
變化ナシ○肛門 ハ少シク哆開シ大便漏出セリ○下肢 著シキ
變化ナシ但シ結束部ノ皮膚ハ上肢ニ於ケルカ如ク線狀皮下溢血等
ナシ○凡テ上下肢及背部腹部ノ皮膚色澤ハ蒼白ニシテ手足背面ハ
著シキ皺縮ヲ呈ス○爪甲 ハ凡テ蒼白色ナリ○死斑 ハ未ダ作ラ
ズ○各部ノ關節 ハ強直高度ナリ

(考按) 本屍強直ノ度ニ依レハ已ニ十時間以上ヲ經過シタルモノ、如
シ而シテ皮膚皺縮ヲ作り肛門稍ヤ緩弛シ腹部膨滿ヲ呈ス腹中水溢アリ
且ツ氣道即チ鼻口ヨリ泡沫含有ノ水分ヲ漏出シ顔貌苦悶ノ狀ヲ呈セ
ザル症狀等ハ死后水中ニ投シタル者ト認メラレス恐シハ水中投入后
多少生活機能ヲ具備シ迷ニ死ニ至リシ者ノ如シ又々頭部ノ挫創及前

額打撲痕ハ其投入ノ際水底ノ石礫ニテ之ヲ造爲シタルモノナラン然
ルニ猶之ヲ過誤ノ溺死ナルヤ將タ自企溺死ナルヤハ前ニ述ヘタル屍
死ノ形成セル各種ノ狀跡ヲ以テ見レハ過誤ナラスシテ自企タルヲ了
然タリ之ニ依リ之ヲ觀レハ本屍ハ死後水中ニ投入シタルモノナラズ
且ツ過誤ニ出テズシテ自企溺ト認定セラレ
右ノ通り檢按ニ及候也

某郡某町某番地

醫師

何

某印

明治廿三年九月廿七日

右ノ檢按書ニ就キ余ハ左ノ考按ヲ下セリ

考按書

豫審第九〇四號ヲ以テ某判事ノ照會ニ對シ變死人檢按書ヲ審査説
明スルヲ左ノ如シ

法官第一ノ要求即チ溺死者ノ徵候ヲ具備スル者ト云フヲ得ベキヤ否
ヤノ問ハ生活中投水シテ死セシヤ將タ死後水中ニ投シタルモノナル
ヤノ疑問ナリト解釋シ檢按書ニ記スル事項ニ就キ其意見ヲ陳述スベ
シ

(二) 屍体ノ現存セル河流ノ堤防上ニ日傘下駄等ノ發見及左袖ノ礫石
等ハ決シテ溺死ノ徵ト云フヲ得ズ何トナレバ死后水中ニ投ズルモ
ノモ溺死ニ擬セントシテ故ラコ右ノ景況ヲ構造スルコト少ナカラザ
レバナリ

(三) 深サ三尺河流緩慢ナル水中ニ於テ大人健康ナルモノ、溺死シ得
ルヤ否ヤハ討究ヲ要スル件ナルモ溺死シ得サルノ限リニ非ス殊ニ
手足ヲ結束セシキハ之レナシト云フベカラズ

(三) 顔面ノ苦悶狀ヲ呈セザルハ溺死ノ徵候トシテ寸毫モ價值ナキ者

ナリ

(四) 顔面ノ皮膚暗赤色ヲ呈スルハ窒息ノ特徴ナレトモ直接ニ溺死ノ徵
候ト云フヲ得ズ何トナレバ窒息死ヲ水中ニ投スレハ同シハ此徵ア
ルヲ以テナリ

(五) 鼻孔ヨリ泡沫含有ノ液ヲ漏出スルハ溺死ニ屢々發見スル徵ナル
モ又タ他ノ原因ニ由リテ生ズルコトアルヲ以テ死体剖檢ニ由リテ氣管
及肺中ニ泡沫含有液ヲ檢出セザル以上ハ唯々ニ窒息ノ一徵タルベキ
モ溺死ノ特徴ト云フヲ得ズ

(六) 上下齒舌尖ニ接シ舌ハ齒端ヨリ少シク脱出スル等ハ窒息ノ徵ニ
シテ又タ溺死ニ發見スルコトアルモ其特征ト云フヲ得ズ

(七) 右上眼瞼表皮剝挫ハ水底ノ礫石摩擦ニ由リテ生スルヲ得ベシ然
レモ其生前水ニ入リテ生セシヤ又タ死后ニ之ヲ生セシヤハ分明ナ

ラズ

(八) 上肢ハ左手腕ニ溢血ヲ呈ス前垂レノ紐ヲ以テ左手腕部ヲ結束スルハ生前ノ者ナリ何トナレハ溢血ハ死后生シ得ザレハナリ而シテ其溢血ヲ生シタルハ投水前後如何ハ疑問ヲ生ズルハ當然ノ理ニシテ若シ別項ニ記シアル前額ノ挫創ヲシテ投水ノ際岩石巨材等ニ觸レ生ゼシ者トスルキハ手腕ノ溢血ハ投水前ニアリ何トナレバ投水ノ際前記ノ如キ頭部創傷ヲ受クルキハ直チニ昏朦ヲ來タシ失神シテ人事不肖ニ陥リ煩悶スルヲ得ズ手腕溢血ヲ生シ得ザレハナリ下肢ノ溢血又々然リ若シ又投水后煩悶セシトナサンカ頭部ノ創傷ヲ説明スル益々困難ナルヲ如何セン投水后煩悶轉倒シ河流ニ沿フテ流レ或ハ岩石巨材ニ觸レテ頭部ヲ傷ルトナシト云フベカラズ然レ檢案書ニ由ルニ死体ハ投水セル提防ノ近傍ニ在リ又水底礫石ニソ

岩石巨材ノ記載ナキニ於テハ其然ラザルヲ推察セシムルニ足ル

(九) 檢案書ニ由ルニ胸部ニ打診上變狀ナシト是レ溺水ノ反証ナリ生前投水セル者ナレバ肺中ニ水ヲ吸息スルヲ以テ打診上變化ナカルベカラズ

(十) 上下肢蒼白及皺襞ヲ呈セルハ屍体ノ水中ニ在リシ徵ナリ其生前或ハ死后投水セシカチ証スルヲ得ズ又果シテ生前投水セシモノト爲サンカ顔面モ共ニ蒼白ナルヘキニ其獨リ暗赤色ヲ呈スルハ顔ル疑ハシ是レ既ニ投水前ニ生シタル者ト言ハサルヲ得ズ則チ語ヲ換ユレハ投水ノ際既ニ絶息セシモノタラサルベカラス

(十一) 腹部膨滿振水音アリ 若シ果シテ然ラハ是レ溺水ノ特徴ナリ然レ其果シテ水ナルヤ又胃中ニ存スルヤ將タ腸内ニ存スルヤハ剖檢ニ非サルヨリハ決スルヲ得ス又タ水液ハ果ノ河水ナルヤ將タ他

ノ液体ナルヤハ液ヲ檢セサレハ知ルヲ得ズ是ニ反シテ腹腔内ノ出血等ニ由リテ類症ヲ發シ得ヘシ又タ他ニ疾患アリシヤモ知ルヘカラズ加之水ヲ胃中ニ飲ミシ者ナレバ其際同時ニ肺中ニ吸引スヘキノ理ナリ然ルニ檢按書ニ由ルルハ肺部變狀ヲシト呼吸セスシテ水ヲ嚥下スルハ殆ント爲シ能ハサルナリ

(十二) 前頭髮部ノ挫創及前頭左上方打撲痕ハ檢按書中最モ注意ヲ要スル點ニシテ此創ハ生前投水ノ際生モル者ナルヤ將又投水前之ヲ發シタル者ナルカヲ判別スルハ蓋シ最モ緊要ナリト爲ス前述セル如ク溺水ノ際岩石巨材ニ觸レタリトセバ前記ノ創傷ヲシト云フベカラズ若シ夫是アリトセンカ忽チ失神卒倒シテ窒息ニ陥リ一滴ノ水ダモ吸引セズシテ死スルヲ得ベシ此ノ如キ死ハ學理上死后投水セシ者ト同一視スルヲ得ルナリ故ニ投セシ現場水底ノ關係等ニ由

テ之カ考按チ下ク前記ノ創傷ヲ生シ得ルト假定センカ溺死ノ特徵ヲ具備セサルモ可ナリ溺死セシ者ナリ而ノ果シテ是アリトセンカ手腕ノ溢血ヲ如何セン投水ノ際頭部ヲ損傷シ早ク已ニ失神セシ者ニ在テハ決シテ記載スル如キ溢血ヲ呈スル能ハザルナリ
前陳ニ由リ溺水ノ徵即チ生前投水ノ徵ハ更ニ之ヲ具備セリト云フ能ハス(第一問ニ對シ)况ンヤ其自企或ハ他企ニ於テオヤ之ヲ要スルニ其一般窒息ニ由テ致命セシ徵ヲ呈スル者ニシテ其溺水ナルヤ將タ他ノ原因ニ由ル者ナルヤハ其當時ニ在ルモ死体剖檢ニ非ラサルヨリハ明斷シ能ハサルナリ况ンヤ自企或ハ他企ニ於テオヤ然リ而テ檢按書中頭部創傷ハ最モ緊要ノ者ニシテ此点明カナルルハ他ハ從テ瞭然タルヲ得ベシ而シテ實驗上外部ハ唯タニ挫創ノ如キ觀アルモ内部ハ屢々頭骨ノ骨折及腦出血ヲ來タシ死因トナルヲ往々之レアリ故ニ今ニ至ル

モ死体ヲ剖檢シテ頭骨骨折ノ有無ヲ檢スルハ頗ル樞要ノトナリ蓋シ骨ノ變狀之アリトセハ今尙知ルヲ得ベケレハナリ而シテ骨ノ變狀ヲ發見センカ一參考トナルベシ又タ變狀ナシトセンカ決シテ前述ノ學理ヲ動カスニ足ラズ故ニ一言是ヲ畧陳セハ死体解剖ハ是非必要ナリ(第三問ノ質問ニ對シ)又死体發見ノ現場及ヒ堤防ノ關係等ヲ討究スルハ(第二問ノ質問ニ對シ)頗ル緊要ノモノタリ右之通檢按書ニ付及考察候也

明治廿四年二月廿八日

私立熊本病院醫長

醫學士 芳賀榮次郎

右ノ考察ニ由リ余ハ本年三月五日既ニ埋葬シタル被害人之死體ヲ解剖シ其致命ノ原因ヲ鑑定スルコトヲ命セラル依テ余ハ同日醫員内田

貞知ヲ隨ヘ合力村墓地ニ臨ミ屍体ヲ發掘剖檢シ次テ變死セル現場ヲ視察ノ上左ノ鑑定書ヲ提出セリ

鑑定書

屍体剖見記事

飽田郡合力村大字白藤

大竹 十 七 年

明治廿三年九月廿七日埋葬明治廿四年三月五日飽田郡合力村大字白藤小字北田墓地ニ於テ熊本地方裁判所判事某全檢事某全書記某憲兵中尉某警察署長某立會ノ上剖見スルモノナリ三月五日半曇午後二時穴ヲ堀ルハ大凡百九十仙迷ニシテ一個ノ箱棺ヲ出セリ其形ハ四角形ニシテ其高徑ハ七十四仙迷幅五十五仙迷ナリ其棺板ノ厚サハ〇、八仙迷ニシテ板質ハ杉ナリ

午後二時十五分棺蓋ヲ開クニ棺中ニハ藁ヲ紙ニテ被包シタル枕ヲ以テ屍ヲ固定シアリシ而シテ棺壁及藁枕ハ悉皆白色ノ微ヲ以テ被ハル臭氣ハ比較的ニ少カリシ

先ツ藁枕ヨリ取り出セシニ其數二十一個ナリ屍体ノ位置ハ半坐半臥ニシテ屍体ノ頭首ハ棺ノ半迄ニ達ス下肢ハ股關節及膝關節ニ於テ屈曲シ其上肢ハ肘關節ニ於テ鈍角ノ屈曲ヲナシ兩手腕ハ胸前ニ於テ所謂合掌ノ位置ヲ取レリ而シテ右ヲ少シク下ニセリ

之ヲ剖觀セントスルニ先テ棺箱壁ヲ四方ニ開キシニ棺箱底ニ少量ノ黑色液ヲ存シ球數ト花竿及髮飾アリタリ屍体ハ頭首ニ白巾ヲ被ムラセ身体ニ白衣ヲ着セタリ故ニ白巾ヲ拔キ白衣ヲ缺斷シテ屍体ヲ仰臥ノ位置トナサシメタリ皮膚ハ一般ニ不潔ニシテ灰白色ナル部アリ或ハ暗汚糜爛スル部アリ尙ホ進テ各部ヲ熟見スルニ頭髮ハ短切シ皮膚

ハ未タ完全ナルモ唯左頤顚部ニ於テ皮膚欠損シ白骨現ハル眼球ハ突出シ鼻ハ其形狀ヲ存スト雖モ鼻梁ハ陥没シテ殆ント平坦ナラントス口唇ハ少シク開キ齒ヲ現ハセリ其門齒ハ上顎ノ者ヲ欠クテ以テ口腔ヲ窺フヘシ而シテ其落齒ハ口腔前ニアリ一般ニ顔面ノ皮膚ハ不潔ニシテ眼瞼周圍及頰部ノ近圍ニ於テ暗黑色ヲ呈スル部アリ下テ頸部ヲ檢スルニ格別記スヘキモノナシ胸部ハ左右ノ乳腺共ニ未タ膨起シテ乳房ナルヲ明カニ認ムルヲ得ヘシ腹部ハ陥没シテ腹壁上ニ少許ノ液体ヲ滯留セリ陰阜ニハ現局性ノ陰毛ヲ存シ大陰唇及小陰唇ハ現然トシテ形ヲ存シ臍ハ弛緩ノ開キ屍体ノ女性ナルヲ確証スルニ足レリ屍体ヲ剖檢スルニ當リ頭部ヨリ始メ法ノ如ク皮膚ニ切線ヲ下スト一方ノ乳頭突起ヨリ起リ他方ニ達セシメ皮膚ヲ剝離スルニ容易ク骨ヨリ剝離シ皮膚及筋層ハ殆ント石鹼化セリ以上ノ軟部ヲ開キ頭骨ヲ檢

スルニ骨及骨縫共ニ異常ナク次テ頭骨ヲ前頭結節ト眉毛弓ノ間ニ於テ鋸線ヲ入レ頭骨ヲ横ニ廻テ后頭外結節ノ處ニ鋸線ヲ合シ頭蓋骨ヲ除キ頭腔ヲ開クニ頭蓋骨ニ於テハ裏面及骨縫ニモ異常ナシ然ルニ左顛頂骨ノ下縁ト顛顚骨鱗樣部トノ縫合スル處即乳樣縫合部ニ於テ骨縫容易ニ分離セリ次ニ硬腦膜ヲ檢スルニ頭蓋骨ト容易ニ剝離シ他部ハ異常ナキモ左顛顚部ニ於テ母指頭大ヨリ示指頭大數個ハ圓形孔ヲ存ス

腦ハ一般ニ萎少シテ硬腦膜ヲ切開スルニ腦質軟化シテ汚灰綠色ノ軟泥狀トナレリ全ク各部分ヲ判明スル克ハス其腦髓ヲ取出シ頭蓋底ヲ檢スルニ特記スヘキ者ナシ口腔ヲ檢スルニ齒ハ總數二十八個ニシテ上顎ハ門齒犬齒及小白齒ハ拔テ口腔内ニアリ下顎骨ハ齒全ク存セリ舌ハ稍ヤ形ヲ存シ筋質ヲ殘セリ次ニ腮下ヨリ喉頭部ヲ經テ胸部ヲ過

キ耻骨ヨリ上部ニ至ル迄皮膚ヲ切開シ喉頭ヨリ檢スルニ喉頭ハ稍ヤ其痕跡ヲ有スルハミ胸部ヲ開クニ皮膚石炭化シ筋肉亦然リ而シテ其色ハ淡紅色ナル部アリ或ハ灰白色ナル部アリ進テ助軟骨ヲ切り胸腔ヲ開クニ横隔膜ハ左右共ニ第四肋ニ至ル右胸ニハ大凡二百瓦余ノ血性液ヲ含蓄シ右肺ハ一般ニ萎縮シテ扁平形トナレリ之ヲ取出シ切開スルニ肺組織ヲ認ムルヲ得左胸ニハ大凡二十瓦余ノ液ヲ含蓄シ左肺ハ全ク萎縮ス
心臓ハ心嚢ヲ切開スルニ大凡一瓦余ノ血性液ヲ含有シ心臓筋質柔軟トナルモ未タ全ク變質セス之ヲ切開スルニ心室現然トシテ各室内部狀況ハ少シモ變セス辨膜及乳嘴筋等依然タリ
腹腔ヲ切開スルニ腹壁ハ比較的ニ石炭化スルコトナク肝臓ハ非常ニ萎縮シテ手掌大トナリ色澤ハ暗褐色トナレリ胃ヲ切開スルニ胃壁ノ粘

膜ニハ格別變色ナク尙能ク脉管ヲ認ムルヲ得其内容ハ未タ全ク糜粥トナラス肉眼的ニ刺身(鯛)及十二指腸下部ニサボン「サボン」トハ九州地ヲ認方ニ産スル果物ナリ知シ得タリ腸モ亦現然タル形ヲ存シ粘膜亦血色ヲ有セリ十二指腸ヨリ順ヲ追テ切開スルニ小腸ノ上部ニ於テハ胃ノ内容ト大同小異ノ内容ヲ存シ次第ニ下行スルニ從ヒ全ク糜粥狀ノ者ヲ含有シ結腸部ニ至レハ黃綠色ノ便ヲ含蓄セリ脾臟ニハ色澤變シテ汚白色トナリ之ヲ切開スルモ亦然リトス腎臟ハ被膜及周圍ノ脂肪變シテ灰白色ノ汚狀ニ化セリ腎臟ヲ切開スルニ質ハ柔軟ニシテ色ハ格別ノ變狀ナシ子宮ヲ切取スルニ其狀ハ現存シ臍部及子宮口モ現然タリ子宮ヲ切開スルニ粘膜ハ淡紅色ナリ

四肢ノ右上肢ハ手腕關節ニ於テ脫離セリ左上肢ニハ左ルヲナシ下肢ハ右下肢前面ニ於テ筋肉ハ淡紅色ヲ呈シ骨膜ハ未タ健全ナリ左

下肢モ亦同様ニノ他ハ格別記載スニキナシ

以上剖觀シ終ルニ同日午后四時五分ナリ

(備考墓地土質ハ濕潤ナリシ)

鑑定

右之剖見中特ニ注意スヘキハ頭部ナリトス則チ左前額ノ皮膚缺損シ白骨暴露スト雖凡骨質ニ變狀ナシ獨リ左顛頂骨ノ下縁ト顛顛骨鱗樣部トノ縫合スル處即チ鱗樣縫合部(鱗樣部ニ異狀性骨縫ヲ存セリ)ニ於テ骨縫ハ之ヲ右側ニ比スレハ頗ル容易ニ分離セリ次ニ頭蓋腔ヲ開キテ硬腦膜ヲ檢スルニ他部ハ異狀ナキモ左顛顛部ニ於テ硬腦膜比較的非薄ニシテ拇指頭大ヨリ示指頭大ノ圓孔數個ヲ存セリ蓋シ他側ニ比シハ一層速ニ崩潰ニ歸セシハ徵ナリ而シテ該處ハ檢按書ニ由ルニ長サ三寸深サ筋ニ達スル挫創ノ存セシ處ニシテ最モ考案ヲ要スルノ燒點

ナリ
 是ニ由リテ之ヲ觀レハ左前額ニ暴力ノ來加シタルハ疑フベカラサル
 事實ニシテ其當時皮膚ヲ破リテ筋ニ達セシモ骨ニ變狀ヲ呈スルニ至
 ラサリシナリ而シテ古來ノ實驗ニ徴スルニ急暴ノ外力ニ遇ヒ頭骨
 破レサルモ頭腔内ニ變化ヲ來シ屬々腦出血ヲ生スルヲアリ加之如斯
 頭部損傷ニ遇フモハ通常腦震蕩症ヲ併發シ人事不肖ニ陥ルモノトス
 又腦出血ナキモ腦質震動ニ由リテ腦震蕩ヲ生スルハ決シテ稀有ノト
 ニ非ラサルナリ
 今ヤ屍体ヲ剖見スルニ既ニ五ヶ月餘ヲ經過スルヲ以テ腦質腐敗軟泥
 化シ變狀甚ク詳カナラサルモ腦膜非薄ニシテ數多ノ圓孔ヲ有スルハ
 當時或ハ腦出血ヲ生シ爲メニ該部速ニ崩潰穿孔シタルナランカヲ推
 測セシムルニ足ル殊ニ骨縫弛緩セル如キハ該部ニ暴力ノ加ハワリシ

ヲ證スルノ一助タリ然リ而シテ其暴力ノ如何ナル種類ナルカ即チ自企
 ナルカ他企ナルカ將タ如何ナル原因ニ由リテ生シタルカ等ヲ判別ス
 ルハ頗ル難キ所ナリ獨リ古來ノ實驗ニ徴スルニ頭部ノ創傷ノ左側ニ
 アルハ他人ノ手ニナルヲ證スルノ一徵ナリトス如何トナレハ茲ニ一
 人アリテ他ノ一人之ニ對立シ彼ニ暴力ヲ加フルモハ其左前額ヲ損傷
 スルヲ多ケレハナリ加之熱々現場ヲ察スルニ三尺許高キ堤防ヨリ飛
 下シテ前陳ノ如キ創傷ヲ生スルハ殆ント推測シ能ハサル所ナリ之ヲ
 要スルニ左前額ニ暴力ノ加ハワリシハ疑フヘカラサル事實ニシテ其
 腦震蕩症ヲ發起スルニ足ル者ナリシヤ亦疑フベカラサルナリ故ニ前
 記剖檢ニ依リ頭部變狀ハ其當時腦震蕩ヲ發起スルニ足ルノ暴力ニ由
 リテ來リシ者ト鑑定ス
 其他胃中ニ刺身ノ一片現存シ既ニ五ヶ月餘ヲ經過セシ埋沒屍体中ニ

在リテ猶其形狀、肉纖維ヲ保持セルハ、絶命時二、三時間ニ喫食セシ者ナ
ルヲ推知シ得ヘシ、而シテ胃液防腐ノ効著シ且其當時或ハ酒精ヲ飲用
セシニ由リ一層肉片ノ腐敗ヲ妨ケタルナランカノ憶測ヲ生セシムル
ニ足ル

右之通及鑑定候也

私立熊本病院醫長

明治廿四年三月廿八日 醫學士 芳賀榮次郎

因ニ記ス被告人前田光治ハ熊本地方裁判所ニ於テ無期徒刑ノ宣
告ヲ受ケシガ不服ヲ唱ヘテ長崎控訴院ニ控訴セシモ遂ニ左ノ通
リ第二審ノ裁判ヲ宣告セラレタリ

裁判言渡書

熊本縣飽田郡合力村大字白藤

平民農光治事

被告 前田 光治
二十四年一ヶ月

右前田光治ノ謀殺被告事件ニ付明治廿四年七月九日熊本地方裁判所
ニ於テ言渡シタル裁判ニ對シ被告ノ控訴ヲ受ケ遂審理タル處被告光
治ハ居村平民大竹利平長女ツ子ト今ヲ距ル一五年前ヨリ馴染シテ往
々夫妻タランコトヲ誓ヒシニ明治廿三年九月中ツ子ガ山鹿温泉ニ立
越シ湯治中他ノ男子ニ情ヲ通シタルヲ探知シ疑念ヲ抱キシ折柄全
年全月廿六日居村字八幡ナル若宮祠前ニツ子ト他ノ男ガ談合スルヲ
認メシヨリツ子ヲ誘ヒ其事ヲ詰リツ、全日暮方飽田郡中緑村大字中
無田字江越ト稱フル人家ヲ離レシ天明新川邊ナル小藪ノ中ニ到リシ
處果シテ其實ヲ知リシヨリ嫉妬ノ念禁ズル能ハス忽チツ子ヲ殺害セ
ント決シ全人ノ腰帶或ハ前掛ノ紐等ヲ採テ其手足ヲ縛シ硬物ヲ以テ

其頭部ヲ歐打シ遂ニ死ニ致シ其屍ヲ水中ニ投シ其場ヲ立去リタルモノト認定ス

其事實ハ大竹利平ノ告訴狀豫審判事ノ臨檢調書証人大竹利平大竹チモ園田和作藤村末次木村清次郎金澤富喜堀川實太福田泰記木戸和平次坂野太郎七渡邊甚四郎松岡壽太郎堀内永喜江口永太郎田代龜太郎田代八百彦田代マツ平田龜彦上田ムラ松本トシ及參考人東忠七等ノ豫審調書醫學士芳賀榮次郎ノ考察書押収シタル衣類被告カ當公庭ニ於ケル供述ノ情況ニ徴シ証憑充分ナリ

右所爲ハ之ヲ法律ニ照スニ刑法第二百九十四條ニ該ルヲ以テ無期徒刑ニ處ス可キ者ナルモ所犯情狀原諒スヘキモノアルヲ以テ同法第八十九條同第九十條ニ則リ本刑ニ一等ヲ減シ有期徒刑十二年以上十五年以下ノ範圍ニ於テ處斷スヘキモノトス

然ルニ原裁判ニ於テ被告光治ノ所爲ニ對シ刑法第二百九十二條ニ則リ處斷シタルハ其當ヲ得サルニ付刑事訴訟法第二百六十一條ニ基キ原裁判言渡ヲ取消テ更ニ當院ニ於テ判定スル左ノ如シ

被告ノ前田光治ヲ有[○]期[○]徒[○]刑[○]十[○]五[○]年[○]ニ處ス

證據品トシテ押収シタル單衣前掛ケ及ヒ腰帶ハ大竹利平ニ還付ス手拭二筋ハ其所有主不分明ニ付官沒ス

明治廿四年十月廿九日長崎控訴院公廷ニ於テ檢事近藤昂藏立會第二審ノ裁判ヲ言渡ス

裁判長	判事	富田某
	判事	師岡某
	判事	石田某
	判事	竹中某

判事 田上 某

裁判所書記 富永 某

右原本ヲ騰寫ス

明治廿四年十一月二日

裁判所書記 富永 某

鑑定書

千葉縣市原郡○○村○○○他一名ノ嬰兒壓殺被告事件ニ付キ千葉
 地方裁判所豫審判事○○○同裁判所書記○○○ト共ニ明治二十
 四年十一月八日午後零時三十分被告居宅ニ至リ被告○○○ガ産出セル
 初生兒ノ死屍ニ就キ其ノ致命ノ原因ヲ鑑定スルノ如シ

現場所見

屍体埋葬地ハ居宅ノ西方四間許木小屋ヲ距テ、大ナル樺樹ノ傍ラニ
 在リテ其ノ上ニ長サ六尺巾一尺ノ松板二枚ヲ列ラベ更ニ大人頭大ノ
 石ヲ載置セリ蓋シ埋葬後數日ヲ經タルモノナルトハ板上ノ塵埃及ヒ
 周圍ノ模様等由リテ知ラレタリ先ツ石及板ヲ除去スルニ全ク平坦ニ
 シテ之レヲ發掘スルニ其地質ハ貝壳ヲ混セル眞土ニシテ大約十六仙
 迷ノ深サニ至リテ衣類片ヲ露出ス形ヲ圓ク東西二十六仙迷南北二十
 八仙迷長經ノ物体ヲ見ハシ甚シキ腐敗臭ヲ放テリ茲ニ於テ之ヲ土中
 ヲリ取出ス其際下面ヨリ臍帶様ノモノ長ク懸垂セルヲ以テ其部ノ土
 質ヲ檢スルニ小兒頭大ノ地面汚穢灰白色ニ變色セルヲ見ル而シテ該
 物体ハ其儘板上ニ反轉シ以テ檢査ノ便ニ供セリ

屍体外表所見

第一條 屍体ハ左下肢及陰部ヲ露出スルノ外皆古キ綿花及ヒ襪襪ヲ

以テ被包セリ依テ之ヲ剪除シ見体ヲ全ク暴露スルニ表皮ハ所々ニ於テ布片ト共ニ剝離ス(イ)男性ノ初生兒ニシテ体格營養等ハ腐敗高度ノ爲メ不明ナリ而シテ仰臥位ヲ取レリ(元位ハ復位ナリシモノ)

第二條 全身表面ハ一般ニ腐敗軟化シテ赤色紫色紫藍色等ノ大小不同ノ斑ヲ呈シ又所々ニ表皮ノ剝脫部及ヒ表皮ト真皮トノ間ニ生セル大氣胞ヲ見ル之レヲ撮擧スレバ直チニ破壊ス

第三條 頭首ハ強ク右方ニ傾キ頤部ハ左方ニ后頭稍ヤ前方ニ向フ
第四條 右上肢ハ肘關節ニテ充分屈曲シテ脇側ニ接シ手先右肩胛ニ達シ左上肢モ亦屈曲シテ手先左耳下ニ達ス

第五條 右下肢ハ屈曲シテ足先后方ニ向ヒ左下肢ハ直角ニ屈曲シテ其足先右方ニ向フ

第六條 身長四十七仙迷

第七條 体重二千二百五十瓦

第八條 頭部ハ前方ヨリ后方ニ壓排セラレ(イ)頭左右經八仙迷(ロ)矢狀經十仙迷(ハ)大針經線十四五仙迷(ニ)前額門ノ最短經二五仙迷(ホ)頭髮ノ長サ二仙迷弱(ヘ)左側顳額部ニ黃色纖維様ノ汚物附着セリ

第九條 顔面(イ)眼瞼ハ兩側閉鎖シ(ロ)鼻口共ニ左上方ニ壓排セラレ(ハ)舌ハ齒齦ヨリ凡ソ半仙迷許挺出シ(ニ)耳モ亦兩側共壓平セラレタリ

第十條 頸部胸部異狀ナシ
第十一條 腹部ハ著シク膨滿シ臍帶(現場所見ニ見タル臍帶様物即チ之レナリ)ノ長サ三十三仙迷ニシテ其間結節及先端切斷ノ徵ナク且先端腐敗ノ徵ヲ呈ス

第十二條 陰部(イ)陰莖異常ナシ(ロ)陰囊ハ浮腫狀ニ膨脹シテ鶏卵大ヲナシ中ニ兩顆丸アルヲ認ム(ハ)肛門ヨリ胎兒便ヲ漏シ下肢及ヒ被服

ヲ汚染セリ

第十三條 背部臀部等異常ナシ

第十四條 (イ)上肢左右共ニ異狀ナク爪甲ハ漸ク指端ニ達ス(ロ)下肢亦左右異狀ナク爪甲ハ指尖ニ及バズ

屍体内部所見

第十五條 頤下ニ刀ヲ起シ胸腹前面ノ皮膚ヲ耻骨縫際ニ至ル迄縦切スルニ(イ)筋肉ノ發育佳良ナリ

第十六條 三角形切除ニ由テ胸腔ヲ開クニ(イ)鳩卵大ノ胸腺心嚢現ハレ肺ハ僅カニ右肺上部ヲ見ルニ止マル(ロ)横隔膜ハ第六肋間ノ高ニ在リ(ハ)尚ホ胸壁ヲ擴開シテ檢スルニ左肺ノ前縁ハ漸ク后腋窩腺部ニ達スルヲ認ム右肺ノ下葉ハ左肺ニ同シク上中葉ノ前縁ハ大凡乳線部ニ在リ(ニ)全肺ノ前表面帽鉞頭大乃至豌豆大ノ氣胞ヲ以テ被

ハル

第十七條 心嚢ヲ切開スルニ少量ノ褐色液ヲ含有シ裡面滑澤ナリ

第十八條 喉頭ノ下部ニ於テ氣管ヲ結紮シ横隔膜ノ上ニ於テ食道ヲ結紮シ之レヲ各結紮ノ上部ヨリ切斷シテ外部ニ取出シ詳細ニ檢スルニ全肺暗赤褐色ニシテ全部稍々其色ヲ同フス只右肺上中兩垂ハ微ニ淡色ナルヲ認ム

第十九條 右肺前面ハ稍ヤ滑澤ニシテ縁ニハ小氣泡アリ左肺亦右肺外見ニ同シ后面ニハ豌豆大乃至蠶豆大ノ氣泡數個アリ肺縁ハ鈍角ヲ呈スルモ試ミニ一部ニ於テ氣泡ヲ壓スルニハ銳角トナル

第二十條 喉頭及氣管ハ全部ニ異狀ナシ

第二十一條 心臟ト共ニ全肺ヲ桶水中ニ投入スルニ能ク浮遊シ全氣胞ヲ押シ破リシ后モ亦能ク浮遊ス右肺上下葉共ニ之ヲ切開スルニ

其面淡褐赤色ヲ呈シ壓迫スルキハ血液ヲ混シタル泡沫ヲ生ズ左肺下葉ヲ切割スルニ暗赤色ヲ呈シ壓迫スルニ血液多ク氣泡少ナク按壓スレハ肉様ノ感アリ上葉ハ右肺所見ニ同シキモ氣泡少ナキヲ認ム各葉切片ヲ更ニ水中ニ投スルニ各容易ニ浮遊ス

第二十二條 心臟ハ小鷄卵大ニ被膜筋質ニ異狀ナク左右室共ニ暗赤色ノ流動液含有ス

第二十三條 腹腔ヲ開クニ(イ)多量ノ腐敗瓦斯ヲ放出シ(ロ)肝臟ハ暗黒色崩壞シテ其元形ヲ失ヒ周圍器臟之レガ爲ニ盡ク汚染セラレ

第二十四條 胃腑内ニハ粘液様赤褐色ノ少量液ヲ含有シ空氣ノ存在スルヲ認メズ

第二十五條 小腸ハ氣體ヲ含ムノミニ(イ)大腸内ニハ胎兒便充滿セリ

第二十六條 脾臟膀胱等異常ナシ

第二十七條 頭蓋后部ノ皮膚ヲ切開スルニ多量ノ汚穢褐色ノ液ヲ漏ラス蓋シ該液ハ皮下ニ蓄積セシモノナリ頭蓋内腔ハ全ク頽壞シテ腦ハ汚色流動性トナルヲ以テ(イ)頭蓋炎部ヲ切開セリ(ロ)其ノ如何ヲ辨識スル能ハズ腦膜ニハ仮令變狀アルモ既ニ辨識スル能ハズト推考スルヲ以テ頭蓋ヲ鋸斷シテ内部ヲ檢セズノ止ム

第二十八條 左右大腿骨下端ニ化骨點ヲ見ズ

第二十九條 左右距骨部ニハ小豆大ノ化骨點アリ

右終ルノ后屍体外表所見第八條(ヘ)ノ纖維様汚物ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ黄色暗色等ノ顆粒及ヒ不正纖維様物ヲ認ム

茲ニ於テ檢査ヲ終リ屍体ヲ繼理ス于時午后一時四十分ナリ

說明

第一條 外表所見第八條ノ(ヘ)纖維様物ハ顯微鏡所見ニ由テ其何物ヲ

ルヲ認ムル能ハズト雖ヒ恐クハ母体ノ糞便ナラントチ推考ス

第二條 外表所見第十一條臍帶ノ存在同第十二條(ハ)ノ胎兒便附着内
部所見第二十四條前段及外表所見第八條(ニ)ノ纖維様物ヲ説明第一
條ニ照セハ屍体ハ全クノ初生兒ニシテ分娩後適當ノ手當ヲセサリシ
者トス而シテ現場見所臍帶ニ適應スル部ノ地面ノ變色ハ胎盤ノ臍
帶ニ附着シアリテ腐敗セル爲メニ生セルモノナラント思惟ス

第三條 屍体ハ外表所見第六條同第七條同第八條(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)同十
四條(イ)(ロ)及ヒ内部所見第二十八條同第二十九條等ニ由テ屍体ハ未
タ成熟期ニ至ラサルモ凡ソ大陰曆九ケ月ニハ至リタルモノト認ム
附言ス前條ノ中第六條ノ身長ハ第八條(ハ)ノ腐敗ノ爲メ諸部弛緩
セタルト頭部ノ前後ニ壓排セラレタルトニ由リ實際ヨリハ幾何
カ測定上増加セル者ト認ム又同第十八條(ホ)ノ頭髮ハ余カ經驗ニ

由レル本邦人成熟初生兒ニ在テハ平均ニ三仙迷以上三仙迷以下ナ
リ又外表所見第七條体重ノ少キハ恐ラシ腐敗ニ由テ体内ノ水分
多少外部ニ滲出セル爲ナラント推考ス

第四條 外表所見第三條第四條第五條及ヒ第九條(ロ)(ハ)(ニ)ハ共ニ
埋葬セル際壓迫ノ爲ニ生セシモノトス

第五條 外表所見第二條同第十一條前項同第十二條(ロ)前項内部所見
第十六條(ニ)同第十九條ノ氣泡同第二十二條暗赤色流動液云々同第
二十三條(イ)(ロ)同第二十七條ハ皆腐敗ノ徵候トス而シテ腐敗ノ度ヲ
測ルニ少クモ一週以上ノ時日ヲ經過セシモノトス

第六條 内部所見第二十七條前段ハ所謂頭血腫ニシテ死后沈墜ノ爲
メ増大セルモノトス

第七條 内部所見第十六條(ロ)(ニ)同第十八條及ヒ第二十一條ノ所見ヲ

以テ按スルニ肺ハ兩側共各葉多少ノ空氣ヲ吸入セルモノトスルモ充分ノ呼吸ハ營爲セサリシモノトス而シテ

第八條 充分ナル呼吸ヲ妨ケタルノ原因ハ生后臍帶ヲ結紮セザル爲充分ナル肺呼吸ヲ喚起セサル故カ或ハ又他ノ病的若クハ人工的ノ障礙ナルカ腐敗高度ノ爲確知シ難シ

第九條 内部所見第二十四條肺内ニ空氣ノ存在セサルハ剖檢ノ際小腸へ壓排シタルヤモ計リ難キモ恐ラクハ全ク存在セサリシモノナラン然ラバ之レ又完全ナル呼吸作用ノ發生セサリシ一徵候タルベシ同第二十五條腸ノ氣體ハ恐ク腐敗ノ爲メ發生セシモノナラン

鑑定

右ノ説明ニ由リ

第一條 該屍体ハ成熟期ニ至ラズノ分娩シタルモノトス

第二條 右ハ産出后相當ノ手當ヲ受ケサリシモノトス

第三條 多少ノ空氣ハ吸入シタルモ完全ナル呼吸ハ營爲セサリシモノトス

第四條 腐敗高度ノ爲其死因ハ判然タラズ右及鑑定候也

明治廿四年〇月〇日

縣立千葉病院司療醫長

醫學士 萩 生 錄 造

同

醫 員 今 野 英

鑑定書

毆打創傷被告事件鑑定書

明治某年十月二十日某輕罪裁判所判事補某ヨリ左ノ命令ヲ領受セリ
 某國某郡某村毆打創傷被告事件ニ付同郡同村某ノ創傷ハ廢疾ニ至
 ルベキモノナルヲ否鑑定ヲ命ズ

依テ鑑定スル所左ノ如シ

被害者某及ヒ同人實母某ニ就キ其既往ノ症候ヲ尋問スルニ被害者ハ
 明治某年六月八日午後十時頃船中ニ在リテ舵上ニ踞坐スル處被告某
 ノ爲メニ杉丸太ノ船掉ヲ以テ右肩胛部顛頂部后頭部頸部ノ后側及ヒ
 背部ヲ連打セラレ遂ニ昏倒人事ヲ省セザルニ至レリ同舟人ニ幫扶セ
 ラレ歸家ノ后大約二時間餘ニ少ク醒覺シ翌九日午前ニハ看護者ニ
 扶ケラレ戶外ニ放尿ノ爲メ出ツルヲ得タルモ同夜ヨリ体温著シク
 亢進シ眼花閃發精神痴呆狀トナリ譫言妄語シ右側上下肢ハタヘズ甚
 ダ振顛シ毫モ身体ヲ動かス能ハズ而シテ受傷部即チ顛頂部后頭部頸部

ノ后側ニ各一個處背部ノ中央ニ二個所腫起ヲ呈スルモ皮膚ノ變色等
 ナキガ故ニ家人ハ傷部ハ甚ダシカラザルモノト思惟シ其痴呆妄語等
 ナ以テ狐憑ノ所爲カト疑訝セリ其少ク醒覺時ニ於テ談話スルヤ言語
 音調ヲ變シ四五日ヲ經ルニ及ンデ吃訥シ全ク談話シ難キニ至レリ且
 ツ胸部頻ニ窘迫ヲ覺ヘ兩脇攣痛シ次テ一種ノ咳嗽ヲ頻發シ食機欠乏
 少ク米粥葛湯ヲ用ユルモ直チニ嘔吐ス而シテ時々殊ニ夜間ニ於テ精神
 昏憤ニ陥リ四肢ヲ緊張シ齒牙ヲ咬噬シ家人ヲシテ殆ント死ニ就クカチ
 危疑セシムルヲアリ視聽ノ爾覺言語不明ナルガ爲メ判然セザルモ多
 少障礙セラレタルガ如シ受傷后大約二週日許ニ諸症少シク緩解シ
 爾來日子ヲ閱スルニ從ヒ諸症益減退言語モ稍ヤ聽取スヘキニ至レリ
 ト云フ

明治某年八月十日某病院ニ於テ診察セル當時ノ他覺症候及ビ經過左

ノ如シ

体格中等營養稍ヤ不長ニシテ首ハ左方ニ傾歪シ顛頂部ヨリ後頸部ヘ
 カケ分界分明ナラザル輕度ノ腫起ヲ呈セリ然レモ全頭蓋ノ皮膚變色
 及ビ創傷等ノ痕跡ナク按診スルモ亦タ骨質破折ノ徵ナシ聽覺ハ其右
 耳ニ於テ少ク減殺ヲ覺ユルモ視覺嗅覺味覺及ビ舌ノ運動ニ障礙ナシ
 言語ハ一種吃訥シ熟聽スルコアラズンハ判知シ難ク且ツ少ク長話ス
 ルキハ顔面潮紅シ流汗淋漓トノ困苦ノ狀態推知スルニ足ル右肩胛ハ
 上方ニ亢擧シ右傾セル頭首ト殆ント相接セントス之カ爲メニ軀体ハ
 平均性ノ彎曲ヲ取り左肩及ヒ左腰部ハ左方ニ彎凸シ右脇胸部ハ右方
 ニ彎凸セリ且ツ右肩胛關節ニ疼痛ヲ訴ヘ同上肢ヲ運動セシムルト困
 難ナリ又右骨盤ハ少ク擧上シ同膝關節ハ微ニ彎曲シ展伸ヲ試ムル
 時ハ製痛スト云フ故ニ足尖漸リ地上ニ接ノ跛行ヲナシ左足僅カニ胡

座シ得ルモ右足ハ膝ヲ屈スル能ハズ而シテ頭部及ビ右上下肢ハ共ニ
 甚タ顛振セリ因テ入院ヲ命シ適症ノ療法ヲ施セシニ諸症大ニ輕快シ
 頭部及ビ右肩胛ノ歪傾軀体ノ平均性彎曲ハ正位ニ復シ右膝關節モ屈
 曲ノ殆ント坐位ヲ取り得ベシ然レモ右上肢ノ機能未ダ全ク常ニ復セ
 ズ又言語吃訥及ヒ右側ノ骨盤擧上シ同下頭顛振シ且ツ假性短縮ヲ發
 シ跛行ヲナスノ諸症ヲ殘シテ之ヲ當時ニ比スレバ僅カニ幾分ノ緩解
 ヲ得ルノミ而シテ此ノ諸症ハ被害者ノ主ナル症候ニシテ其預后ヲ推
 究スルハ乃チ本件ヲ鑑定スルノ主要ナリトス
 以上既往症及ヒ他覺症ニ依リ言語吃訥及ビ上下頭ノ異常等ヲ發セシ
 理由及預后ヲ學理上ニ參照證明スルコト左ノ如シ
 第一 被害者ハ頭部ニ鈍体ノ打撃ヲ受ク之レガ爲メ腦振蓋症及ビ頭
 蓋腔内ノ溢血ヲ惹起セシモノト認ム何トナレバ被害者受傷當時

人事不省ニ陥リシハ乃チ腦振盪症ヲ發セシニ由ルモノト認メ(口)被害者一時聊カ醒覺セシモ十數時ノ后再ヒ昏慣ニ陥リシハ受傷ノ當時腦血管破綻シテ溢血セシモノ漸次蓄積シテ腦ヲ壓迫スルニ由ルモノト認ムルヲ以テナリ

第二 言語吃訥及ヒ右上下肢ニ機能障害ヲ發スルハ前記壓迫力ノ大腦左半規形ヲ侵スニ由ルモノト認ム何トナレバ大腦左半規形ハ言語ヲ整理スル部ヲ有シ大腦半規形ノ損傷ハ四肢ニ交叉性ノ機能障礙(左半規形ヲ侵スキハ右下肢ニ右半規形ナレハ左上下肢ノ知覺及運動障礙ヲ發スルガ如シ)ヲ發スルモノナレハナリ

以上説明セシ理由ニ依リ

被害者某ハ頭部ノ打撲症ニ罹リ爲メニ言語吃訥及ヒ右上下肢ノ機能障害等ヲ來セルモノニシテ爾后多少ノ輕快ヲ得ベキモ全癒シ難

キモノト及鑑定候也

明治某年十一月某日

醫學士 何

某

鑑定書

明治廿二年十一月四日富山裁判所ノ命ヲ蒙リ變死者富山市辰己町卅一番地見村ヌイ(年齢七十二三年)致死ノ原因ヲ探究スル爲メ其ノ死体ヲ剖見シテ之レヲ鑑定スル左ノ如シ
屍体ハ死后凡ソ三十八時間ヲ經過シタルモノ、如ク死後強直殆ント溶解シテ只兩肘關節ノミ尙全ク弛緩セス屍体ハ之レヲ測定スルニ其長サ百五十仙迷アリテ其ノ骨格ノ構成中等ニ位シ年齢ニ對比スルニ全身榮養佳良ニシテ脂肪ニ富ミ筋肉ノ發生又頗ル活潑ナリ

(甲) 屍体外表視診上ノ發見

(頭部)頭髮ハ甚タ薄ク疎生シ其ノ長大約弱一密迷アリテ半過白色ヲ呈
メルノ他變狀ヲ認メス只左側耳后顛顛部ニ於テ死斑ヲ呈シ且ツ同部
ニ小創面アリテ一ノ瘻管ヲ認メ其ノ周圍組織ハ硬化ス之レヲ切割シ
テ檢スルコ汚穢ノ結組織腐片沈着ス之レ恐クハ生前ノ病的變狀ニシ
テ被害ノ爲メニ由來セシモノニハ非ルカ如シ

(顔面)ハ一般ニ藍色ヲ呈シ殊ニ眼瞼ノ皮膚ハ鬱血甚ク開瞼シテ眼球
ヲ檢スルニ濁渾セシ角膜透見シテ虹彩鬱血ノ爲メ暗紅色ヲ呈スルヲ
認ムヘク結膜ニモ又輕度ノ充血アリ鼻腔ハ其左側ニ於テ凝血ヲ以テ
壅塞セラレ且ツ左鼻口ヨリ出血シテ其ノ周圍及ヒ口圍ハ凝血ヲ以テ
汚染ス開口器ヲ以テ口門ヲ開キ鉗子ヲ以テ舌ヲ牽出シ口腔内ヲ窺フ
ニ現著ノ變狀ヲ認メス只タ齒牙皆脱落シテ爲メニ義齒ヲ裝フヲ見ル

ノミ耳鏡ニテ耳内ヲ窺フニ鼓膜ノ混濁ヲ認ムノ他著シキ變狀ナシ
(頸部)前頸部ニハ鬱血甚ク甲狀軟骨ノ周圍及ヒ兩胸鎖乳頭筋間ニ於
テ所々ニ大小種々ノ紫黑斑ヲ呈ス其數大約七八個アリテ其大サ大豆
大ヨリ葡萄大ニ達シ其ノ他三個ノ皮膚剝脫創アリ今此ノ黑斑ハ生前
ノ病的產生物ナルヤ或ハ被害ノ爲メニ起因セシ血液滲漏ナルヤ或ハ
死后ノ死斑ナルヤヲ判別スルハ本件鑑定上頗ル價值ヲ有スルヲ以テ
試ミニニ刀ヲ以テ之レヲ切割セシニ凝血ヲ排出セルヲ以テ外傷ニ起因
スル皮下溢血ナルヲ察知シ得ヘキニ足ル

(胸部及ヒ背部)ニハ記載スヘキノ變狀ナシ只タ所々ニ死斑ヲ呈スルノ
ミ
(腹部)ニモ亦變狀ナク只タ腹壁ハ脂肪沈着ノ爲メ著シク膨滿スルノミ
(肛門)ハ少シク哆開スルモ糞便ヲ漏泄セス

(陰部)ニモ又異常ヲ認ムルヲナシ
(上肢下肢)共ニ變狀ヲ認メス只々所々ニ死斑ヲ呈スルノミ手指爪端ハ
少許ノ凝血ヲ染着セリ殊ニ右側ニ於テ然リトス

(乙) 屍体内部ノ解剖上ノ發見

法ノ如ク刀ヲ頭部ニ下シ剖觀スルニ帽狀腱膜及ヒ骨膜ハ著シク鬱血
シ殊ニ此ノ鬱血ハ左側ノ顳頰筋ニ著シク后頭部ニ於テハ漿液少シク
血管外ニ滲出スルニ至ル肢蓋ヲ鋸斷シ内景ヲ窺フニ硬軟二膜ノ血管
著シク怒張シ細枝別ニ至ルマテ悉ク凝血ヲ以テ充盈シ兩膜間ニ血液
滲漏ス靜脈竇モ又著シク血液ニ富ミ蜘蛛膜腔ニハ漿液ノ滲漏甚シク
腦底諸動脈及ヒ肢蓋骨質ニモ鬱血甚シク爲メニ暗紅色ヲ呈ス腦質ヲ
抽出シテ之レヲ切割シ檢スルニ大小兩腦共ニ鬱血甚シク所々ニ帽針
頭大ノ無數ノ点狀溢血アリ「ハロリ」橋及ヒ第四腦室共ニ著明ノ鬱血ヲ

認ム

以上諸部ノ血管ハ殆ント皆灰白變生シ硬化シテ彈力ヲ生シ容易ニ破
碎シ易シ

頭蓋及ヒ頭蓋底ノ骨質ハ健全ニシテ損傷部無キカ如シ

刀ヲ下顎ノ中央ヨリ下方ニ下シ胸骨手柄部マテ皮膚ヲ切割シ更ニ上
切端ヨリ下顎体ニ沿ヒ左右ニ切割ヲ延長シ皮膚及ヒ筋膜ヲ剝離シ層
ヲ追ヒ解剖シテ二腹頰筋ノ前腹ヲ切斷シ此ノ部ヲ檢視スルニ顎舌骨
筋頰舌骨筋及ヒ頤舌筋等ノ如キ口腔底ヲ構成スル諸筋ハ著シク鬱血
シ其ノ組織間ニ凝血ヲ沈着スルヲ認ム喉頭ヲ切割シテ其内面ヲ窺フ
ニ粘膜面ニ所々ニ小血点ヲ呈ストイハレ喉頭ヲ構成スル諸軟骨及舌
骨等ニハ損傷ナキカ如シ

(胸腔)ヲ開キ其内景ヲ檢スルニ肋膜ハ左第二肋間ニ於テ乳線部ニ當リ

四仙迷余胸壁ト癒着シ右側ニ於テモ又第四及ヒ第五肋間ニ於テ各二仙迷余ノ癒着ヲ見ル

(肺臟)ハ大ニ充血シテ暗紅色ヲ呈シ左右共ニ葉間各癒着シ之ヲ切割スルニ切面ニ所々ニ點狀出血アリテ各部非常ニ血液ニ富ミ容易ニ出血セントスルノ徴アリ

(心臟)ハ脂肪沈着ノ爲メ少シク肥大シ殊ニ左室ニ於テハ肥大著明ナリトイヘ他ハ殆ント尋常ノ大ニシテ筋肉及ヒ辨膜等ハ變狀ナク大動脈及ヒ諸靜脈等此部ニ出入ノ大血管ヲ切割シ之レヲ檢スルニ悉ク石灰變性ノ徴ヲ呈ス

(腹腔諸臟)ノ剖見ハ本件鑑定上必用少キヲ以テ着手セザリシ以上掲載セル諸徴候ニヨリ被害者致死ノ原因ヲ搜索スルニ其ノ前頸部ノ皮表ニ於テ數多ノ血斑ヲ呈シ加之此ノ部筋組織間等出血アルヲ

以テ見レハ被害者ハ前頸部ヲ強壓セラレ爲メニ窒息ニ陥リ致命セシ者ナラント及診斷候也

此ノ鑑定ハ判官檢察官及ヒ警官立會ノ上富山警察署構内ニ於テ之レヲ施行シ明治二十二年十一月某日午后二時ヨリ初メ同五時ニ終ルモノトス

富山縣公立新婦病院長

明治廿二年十一月某日

醫學士

池邊棟四郎

渡邊ミ子死体鑑定書

明治廿一年二月十四日午前九時司法省構内解剖所ニ於テ別紙東京輕罪裁判所豫審判事山邊庸輔發スル所ノ鑑定命令書ノ件々ヲ剖檢スル其體狀左ノ如シ

但該検査ハ午前九時ニ始メ正午十二時ニ終ル

生前ノ來歴

第一 ミ子ハ現今寡婦ニシテ貧困原籍ヲ淺草區西仲町十番地市川某ニ托シ身ハ人ノ雇トナリテ生活シ來リタルヲ以テ遺傳惡血族病歴遠因近因等ヲ索知スルニ由ナク僅ニ當時ノ疾病ニ於ケル症狀ヲ聞知スルヲ得ルノミ

第二 ミネハ明治廿年三四月頃發病多量ノ食物及湯水ヲ好ミ尿量增多シ動モスレバ尿ヲ漏シ不潔甚シク攝生スルコト凡ソ二ヶ月許ニシテ快癒シ雇奉公ニ出テシガ猶ホ充分治癒セサリシト見ヘ時々主家ニ於テ尿ヲ漏シ爲メニ一月許ニシテ雇ヲ解カレ又他ニ奉公スレバ同シク漏尿スルヲ以テ僅カニシテ雇ヲ解カル然ルニ昨年十月ヨリ石田某方ヘ雇ハレ子守奉公中病一層増進シ漏尿不潔甚シキヲ以テ

同十二月八日宿主市川某方ニ引取リタリト云フ

第三 ミネハ多量ニ食物ヲ欲シタリ飽食スルキハ必ス病氣ニ障リアルト見ヘ身体漸々枯瘦セリ然ルニ石田某方ニ於テ病氣増進セシキハ猥リニ水ヲ飲ミシト見ヘ顔面ニ浮腫ヲ來タシ此浮腫大凡十四五日ニシテ減退セリト云フ

第四 ミ子ハ昨年十二月八日宿主市川方ニテ引取リタルモ動モスレバ多量ノ尿ヲ漏シ不潔惡臭甚シク逆テモ座中ニ置キ難キ以テ椽側ニ明俵ヲ敷キ其上ハ敷布ヲ敷キ四布蒲團一枚ヲ掛ケ置キ食物ハ麥ヲ軟ニ煮テ之ヲ與ヘ時々鶏卵等ヲ與ヘタリト云フ

第五 同年十二月廿八九日頃ニ至リ不潔惡臭甚シキヲ以テ不得止物置ノ中ニ入レ食物及飲水ヲ與フルコト以前ノ如クナリシト云フ

第六 ミ子ハ物置ニ入レラル、ヤ甘ンシテ入ル者ノ如ク漏尿不潔ハ

以前ニ異ルヲナキモ時々庭前抔運動セリト云フ但シ此歩行ハ死日
前七八日迄ハ爲ストヲ得タリト云フ

第七 ミチ昨年十二月八日ヨリ廿一年二月十一日ニ至ル迄麥二升雞
卵十二三個蜜柑三箇煎餅三十葉許ヲ與フルノミ外更ニ他物ヲ與ハ
ズ最モ死日前五日許ハ食物ヲ欲セス啻ニ湯水ノミヲ飲ミタリト云
フ

第八 ミネノ寢處ナリト云フ物置ヲ見ルニ奥行二尺五寸許間口三尺
高サ六尺許アルモ大凡四尺高ノ處ヨリ一二ノ棚アリ且ツ土間ニ明
俵二枚許ヲ敷キ其俵糞尿ノ爲メニ濕潤シ汚惡近ク可ラサリシ

第九 ミチノ寢具ナリシト云フヲ見ルニ極メラ薄キ四布蒲團ニシテ
心綿處々ニ凝結シ且ツ汚染濕潤甚シ身ニハ襦袢一枚拾一葉綿入半
粘一枚ヲ着セリ

外 狀

第十 身長一メートル半ヲ有シ身体羸瘦骨立シ眼窩陷没シ恰モ餓鬼
ノ如ク皮膚乾燥シテ垢色ヲ呈ス

第十一 死直ハ全身己ニ去リ死斑全身著シカラズ只背部ニ於テ輕キ
下垂充血ヲ見ルノミ

第十二 左右肩胛骨部臀部等ニ於テ瘰癧アリ

第十三 陰腔ヨリ白色ノ液汁ヲ流出ス

第十四 胸郭前面ニ於テハ左側少シク萎縮シ右側膨大ノ觀ヲ呈ス

内 狀

第十五 筋肉ハ枯瘦シテ黯色ヲ呈シ且ツ乾燥ス皮下脂肪組織甚シク
削瘦セリ

第十六 左肺ハ縮少シ左胸膜癒着ヲ見ル右肺ハ膨脹シ胸膜異狀ナシ

又肺質及心囊心臟等ニ於テモ異狀アルヲ見ズ

第十七 肝臟ハ少シク充血肥大シ脾ハ少シク萎縮シ膽囊ニハ膽汁充盈シテ隣位ノ器關ヲ染色セリ

第十八 脾及腎ハ異狀ナシ輸尿管膀胱尿道等ニ加答兒症アルヲ見ル

第十九 陰具即チ子宮卵巢等ハ萎縮シ腔内粘膜炎減少シ子宮頸管及腔粘膜ニ加答兒症アルノ外異狀ナシ

第二十 胃縮少シテ其壁質厚ク且ツ慢性加答兒ヲ見ル其内容物ハ僅ニ四〇瓦許粘滑膠狀ノ液ノミニシテ更ニ食物ヲ有セズ

第二十一 腸ハ著シキ變化ナク且ツ内容物ナク直腸ニ於テ硬糞塊アリ

第二十二 腦及延髓等ニ於テモ著シキ變化ナシ

第二十三 心右房ニ於テ凝血ヲ見ルモ血液ハ一般ニ減少セリ

第二十四 血液、尿及胃ノ内容物ヲ分析掛警察醫細井脩吾ニ送り鑑定ヲ囑托セシニ別紙鑑定書ヲ得タリ(鑑定書ハ略之)

鑑定

以上渡邊ミネ生前ノ來歴解剖上所見及ヒ細井脩吾ノ鑑定書等ヲ學理ニ參照シ理由ヲ附シ鑑定スルヲ左ノ如シ

一 ミネハ死后已ニ四十八時間以上ヲ經過シタル者ナルヘシ何トナレバ死直ノ去ルヤ通常三十六時間乃至四十八時間ニ於テスル者ナレバナリ

一 ミネハ蜜尿病ヲ固有スルヲ明ナリ何トナレバ生前病歴解剖上所見及分析上ノ鑑定等總テ本病ニ於ケル症狀顯著ナレバナリ

一 ミチ子ナル者致命ノ原因ハ固有ノ疾病ニアリ何トナレバ彼ノ蜜尿病ナル病疾ハ多クハ死ヲ來スモノニシテ且ツミチ子ノ如キ貧困者自ラ滋養攝生ヲ爲ス能ハサルノミナラズ醫治ノ必要ヲモ欠クモノナリ

一ミネノ固有有病ハ充全ノ藥料手術ヲ施スモ平癒スル者稀ナリトス何
トナレバ蜜尿病ナル者ハ難治ノ症ニシテ且ツ病理治術未ダ精確ナラ
サレバナリ

一ミ子ノ死ヲ致スヤ固有ノ疾病ニ加フルニ苛酷ノ取扱ヲ爲シ一層死
期ヲ早カラシメタル者トス何トナレバ生前ノ來歴ニ於ケル食物寢
衣及居處等ハ仮令健康ノ人身ニ於テモ害ヲ來スヘキニ况乎此寒天
風雪ノ時季ニミ子ノ如キ病体ニ於テ乎又病歴及解剖上所見ニ由
ルモ前條ノ如キ苛酷ノ取扱ナカリセハ其死期尙ホ遷延スルモノナ
ルベシ

一ミ子ノ死后ヤ毒物其他致死スヘキ物品ヲ與ヘタルニ原因スル者ニ
アテサルヘシ何トナレバ解剖上所見并ニ分析上鑑定ニ於テ其疑團
ヲ起スヘキ現症ナケレバナリ

右ノ通鑑定候也

警察醫兼司法省御用掛

安藤卓爾

解剖検査記録

東京市赤坂區新町五丁目四十番地

平民大工職荒木徳次郎三女

無名女兒

右者明治廿五年二月七日午前三時頃前記荒木徳次郎ノ妻せんガ自宅
ニ於テ分娩シ其父鈴木勘三郎ガ取上タルモノニシテ九日午前八時死
亡セリト云フ警察醫〇〇〇〇〇〇之レテ臨檢スルニ鼻孔ヨリ出血アリ
依テ鼻口ヲ壓迫シテ死ニ至ラシメタルニアラザルヤノ疑ヒアルヲ以

初生兒死因鑑定書

テ其死因認定ノ爲メ同月十二日午前九時卅分ヨリ司法省構内解剖所ニ於テ檢事藤井集美立會ノ上〇〇〇〇執刀解剖シ〇〇〇〇之レヲ補助ス其所見左ノ如シ

第一 外表檢査

- 一 一女兒屍、身長四四〇仙迷、體重一九三〇〇瓦、榮養不良ナリ
- 二 死后強直ナシ
- 三 身后前面ノ皮色ハ帶青淡紫赤色ヲ呈シ脊面ヨリ少シク紫赤色ニ富ム
- 四 頭ノ縱一〇〇仙迷、橫徑八、五仙迷、大斜徑一二〇仙迷、周圍三〇〇仙迷アリ頭髮ハ密生シ長サ一、五乃至七五仙迷ヲ算ス頭皮ニ損傷及ヒ其他ノ異常ナシ
- 五 顔面ニ損傷ナク左右ノ上下眼瞼結膜淡紅、角膜少シク溷濁シ瞳孔

稍ヤ狭ク左右同大ナリ鼻圍、頬及ヒ上唇ニハ乾血ヲ附着シ外鼻ヲ壓スレバ血色ノ泡沫液漏出ス上下唇縁ハ乾固シテ黑赤色ヲ呈スト雖

此之ニ濕潤ヲ與フレバ更ニ異狀ナキヲ見レ舌ハ齒齦ノ后方ニ在リ口腔耳道異常ナク耳殼及ヒ鼻軟骨ハ僅ニ觸知ス

六 頸部、胸部、腹部共ニ特筆ス可キ變狀ナク臍ニハ己ニ乾固シテ脱落期近キニアル短キ臍帶附着ス其斷端ハ殆ント正銳ニシテ麻糸ヲ以テ結紮シ綿ニテ纏包ス

七 外陰部損傷ナク大陰唇ハ接合セズシテ其間ニ小陰唇著シク露出シ乳色ノ汚液之ニ附着ス肛門少シク哆開シ少許ノ胎便ヲ漏ス脊面ニハ一般ニ毳毛アリ殊ニ肩胛間部ニ密生ス他ニ異狀ナシ

八 肩幅一一〇仙迷、髓幅七、五仙迷、腋窩肘關節ノ屈側及ヒ鼠蹊部ニ胎垢附着ス左右上下肢損傷ナク指爪ハ指端ヲ超ヘ趾爪ハ未タ趾尖ニ

達セズ

九 大腿骨下端ニハ右五、〇密迷、左四、〇密迷ノ化骨點アリ、跟骨ノモノハ左右共ニ七、〇密迷ナリ

第二 内景検査

甲 頭腔開檢

十 式ニ從ヒ頭皮ヲ切開剝離シテ内面ヲ檢スルニ皮下組織一般ニ淡紫赤色ヲ呈シ後頭部ハ其色較ヤ濃ナリ

十一 前頭額門ノ大サ一、七仙迷、頭蓋骨冠部外面ノ骨膜下ニ出血ナシ矢狀竇内ニハ暗色ノ軟凝血ヲ充ツ穹窿部硬腦膜ハ淡暗赤色ニシテ靜脈網著ルシ内面ハ滑澤ナリ、硬腦膜ヲ剝離シ頭蓋骨冠部ヲ檢スルニ損傷ナク質内血量多シ

十二 穹窿部軟腦膜ハ赤色ニシテ血管著シク努張ス、溷濁ナク腦質ヨ

リ剝離シ易シ底面軟腦膜亦同シ

十三 左右側室ヲ開クニ内容ナク壁面溷濁セズ脈絡叢ハ血液ニ富ム第三室第四室共ニ異常ナシ左右大腦半球ハ質軟ク断面淡紅ニシテ血点稍多シ小腦、大神經節、ワロル氏橋、延髓ノ性状總テ大腦半球ニ同シ

十四 底面硬腦膜ノ所見穹窿部ニ同シ横竇ヲ開クニ暗色ノ軟凝血ヲ含ム頭蓋底ニ骨傷ナシ

乙 胸腹腔開檢

十五 頸胸及ヒ腹部ノ皮下脂肪層稍ヤ薄ク筋肉ノ發育不良其色淡ナリ
十六 横隔膜ノ高サハ左右共ニ第五肋骨ニ在リ腹腔臟器ノ位置異常ナク腸管ノ上向面ハ淡赤色ニシテ一部胆汁色ニ染ミタリ腹膜面滑

澤小骨盤内ニ少許ノ血色液アリ

其一 胸腔臟器

十七 胸廓前壁ヲ除クニ右肺ノ前縁露出ス左肺ハ見ヘズ前縦隔ノ上半部ニ胸線アリ下半部ハ心囊之ヲ顯ス左右肋膜面滑澤ニシテ癒着ナク各肋膜腔ニ少許ノ淡血色液ヲ容ル

十八 心囊ヲ開クニ少量ノ淡血色液アリ内面ハ淡紅滑澤ナリ

十九 心ノ大サ當屍ノ手拳ニ等シ表面滑澤血管亢漲シ所々ニ小溢血点アリ心室部ヲ横斷スルニ左右腔内ヨリ殆ト同量ノ暗色軟凝血多量ニ流出ス瓣膜軟靱内膜滑澤肉柱乳頭筋異常ナシ卵圓孔及ヒボクリ氏動脈管未ク全ク閉鎖セス

二十 左肺ハ稍ヤ大ニシテ其縁鈍圓其面滑澤帶青暗褐色ニシテ之ヲ觸ルニ抵抗強ク緊滿ノ感著シ爆發ナシ全肺及ヒ各葉共ニ冷水中

ニ沈降ス断面ノ色表面ニ同シク血量及ヒ水分ニ富ム試ニ此部ヲ壓シ或ハ刀腹ヲ以テ擦過スルニ更ニ泡沫ヲ出サズ小氣管枝内ニハ汚赤色ノ粘稠液少許アリ各葉ヲ更ニ細切シテ冷水中ニ投スルニ上葉ノ二三片浮上スルノミニシテ他ハ盡ク沈降ス

右肺ハ外表略ホ左肺ニ同シクレモ淡赤褐色ノ斑紋ヲ呈シ且ツ爆發スル部アリ殊ニ上中二葉ニ多シ全肺ヲ冷水中ニ投スルニ能ク浮揚ス各葉ヲ分試スルニ上葉及ヒ中葉ハ善ク浮揚シ下葉ハ困難セリ断面ハ血量多ク且ツ水分ニ富ミ壓スルニ泡沫ノ沸出スルコト上中二葉ハ多ク下葉ハ甚ク少ナシ其細切片ハ下葉ノモノハ過半沈降シ上中二葉ノモノ多クハ浮上シ指壓スレバ其内數個ハ沈降ス

廿一 舌咽頭異常ナク食道ノ粘膜淡暗赤色ニシテ血管網著明ナリ異物ナシ喉頭氣管内ニハ淡血色ノ粘稠液少許アリ粘膜淡紫紅色ナリ

廿二 胸腺ハ二葉ヲ爲シ表面滑澤淡紅褐色ニシテ數個ノ小溢血點アリ上下徑三、五仙迷、横徑三、〇仙迷、厚徑一、〇仙迷、重量五、〇瓦ナリ

其二 腹腔臟器

廿三 脾ハ四、五―二、五―一、〇仙迷ノ徑ヲ有シ表面滑澤黑褐色硬シ中等断面血液ニ富ミ色表面ニ同シ脾材脾髓ノ別明カナリ

廿四 左腎ハ莢膜剝離シ易ク直徑四、〇―二、五―一、二仙迷アリ表面滑澤紫紅色、質尋常ナリ断面ノ色表面ニ同シ血量中等乳頭部ハ細尿管中ニ尿酸鹽填塞ノ白色放線狀ヲ爲ス皮質、髓質ノ區別明カナリ右腎ハ四、〇―二、八―一、四仙迷徑ニシテ所見一切左腎ニ同シ

廿五 膀胱ヲ開クニ少量ノ尿アリ内面滑澤淡紅色ナリ

廿六 腔、子宮、喇叭管、卵巢常異ナシ

廿七 胃中ニハ血色ヲ帶ベル粘稠液少許アリ他ニ異狀ナシ粘膜平滑

ニシテ汚穢淡赤褐色ナリ十二指腸ニハ殆ント内容ナク粘膜帶黃淡褐色ナリ

廿八 小腸ハ冷水中ニ浮揚シ汚黃色ノ粘稠物少シク存シ大腸ノ下部ニハ胎便ヲ盈ツ粘膜ハ通シテ淡紅色ナリ

廿九 肝ノ大サ九、〇―五、〇―三、〇仙迷表面滑澤暗紫褐色質稍ヤ硬シ断面少シク黃色ヲ帶ビ血管ノ斷口ヨリ濃稠ノ暗色血流出ス

小葉ノ別稍ヤ不明アリ

右ニテ解剖檢査終ハル干時全日午前十時三十五分ナリ
以上

鑑定

前記解剖所見ニ基ツキ之レガ鑑定ヲ下ス左ノ如シ

一 本兒ハ凡ソ胎生九ヶ月ニシテ未ダ充分成熟ニ至ラズト雖モ既ニ

生活機能ヲ有スル時期ニ達セルモノナリ

二 本見ハ分娩后呼吸ヲ致シタルモノナリト雖ヒ極メテ不十分ナリ
キ

三 本見ハ肺炎(記録ヲ廿項)ニ起因セル呼吸不利ノ爲ニ窒死セルモノ
ナリ故ニ病死ナリ

四 本見ノ体中他ヨリ暴行ヲ受ケ或ハ其死ヲ幫助シタル等ノ証跡ヲ
發見セス

右之通り鑑定ニ及ヒ候也

明治廿五年二月二十五日

某地方裁判所醫務囑託員

鑑定人 ○ ○ ○ ○ 印

某地方裁判所醫務囑託員

鑑定人 ○ ○ ○ ○ 印

某地方裁判所醫務囑託員

筆記人 ○ ○ ○ ○ 印

溺死体剖檢記録及ヒ鑑定書

醫科大學助教授 山本 梁 松 述

溺死カ變死中ノ多數ヲ占ムルハ各國ノ是レニ關スル統計ニ依テ明
カナリトス、頃日刊行ノ我日本帝國第十統計年鑑ヲ繙クニ最近六年
間ニ於ケル日本全國ノ自殺者中溺死ニ依ルモノ實ニ左表ノ如キ多
數ニシテ

明治	自殺者 總數	溺死
17	5603	1378
18	7232	2319
19	7125	2268
20	5829	1879
21	5256	不明
22	5852	1989

歐洲ニ於テモ亦類似ノ事實アルヲ見ル、即チ千八百八十八年ヨリ千八百九十年ニ至ル三年間ニ獨國伯林府モルグヘ到達セル死体總數ト溺死死体數ノ割合ハ左ニ記スルカ如シ

年	死体 總數	溺死
1888	733	89
1889	774	92
1890	857	94

溺死ノ多キヲ實ニ斯ノ如シ故ニ古來或ハ動物試驗ヲ行ヒ或ハ溺没セル人体ニ就テ此レカ探究ヲナセル人枚舉ニ遑アラズ從テ今時ニ至テハ其死体所見モ頗ル確實トナレリ、今其主徵ヲ舉クレバ溺死ハ窒息死ノ一ナルカ故ニ窒息死ノ一般徵候ヲ呈スルハ論ヲ俟タズ、又ソノ他液質肺、胃腸等ニ竄入シ肺ハ是レガ爲メニ著ク増容且ツ緊張シ断面ヨリハ白色ノ泡沫液多量ニ流出シ加之竄入液多量ナルキハ氣管内ニモ同上ノ液ヲ存シ胸廓若クハ肺ヲ壓スレハ益々多ク湧出スルヲ見ル、胃(小腸)中ニモ多量ノ水様液アリ又溺没ノ際胃腸ノ空虚ナルキハ殆ント水ノミヲ容ル、トアリ、而シテ液質ノ肺胃中ニ竄入スルヤ其液中ニ混セル植物成分或ハ土砂等ヲ共ニ吸入若クハ嚥下スルカ故ニ肺胃中ニモ往々是ヲノ異物ヲ檢出シ是レニ因テゾノ死体ハ如何ナル液中ニ溺没シタルカヲ判定シ得ルコアリ

以上述へタルノ他外表検査ニ就テ尙ホ記スベキコトアリト雖モ何レモ溺死ノ確徴ニ非サルカ故ニ繁ク避ケ之ヲ略ス

人若シ次ニ掲クル所ノ死体解剖検査記録ヲ讀ハ其記事前記ノ徴候ト殆ント符合スルヲ知ラシ然レモ溺死死体ノ所見毎回必ラス斯ノ如ク著明ナルニ非ス竄入液極メテ少量ナルハ是レカ判別ニ苦ム
ト又少シトセス
岡本梁松識

解剖検査記録

族籍住所姓名年齢未詳一男屍

右ハ明治廿〇年七月〇日午前六時三十分頃〇〇市〇區〇〇丁目〇〇番地先海岸ニ於テ退潮ノ后泥上ニ發見セル屍体ニシテ警察醫〇〇〇掛リ警察官警部〇〇〇ト共ニ臨場檢視スルニ頭及大腿等ニ損傷ノ跡痕アルモ其死因不明ナルヲ以テ之ヲ確認スル爲メ同日午後零時三十分ヨリ檢事〇〇〇〇立會ノ上〇〇〇〇〇〇解剖所ニ於テ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇之ヲ補助ス其所見左ノ如シ

第一 外表検査

- 一 一男屍 身長百五十二仙迷、全身ノ表面ニハ海草土砂貝殻ノ碎片ヲ附着ス骨格營養共ニ良、身體前面ノ皮色尋常、背面ハ一般ニ淡紫紅色ニシテ特ニ濃色ノ部ナシ
- 二 咀嚼筋及四肢ノ諸關節ニ屍体強直アリ
- 三 左右顱頂顱顫部及后頭上部ハ血液ニ染ミ觸ルニ少シク泥樣ノ感アリ洗滌シテ先ツ頭毛ヲ檢スルニ其長サ僅カニ一密迷ヲ算シ少ク白髮ヲ交ユ后頭部ニハ稍多シ、顱顫部及后頭部ノ皮膚ニハ所々表皮剝脫アリ其大サ米粒大乃至小豆大ニシテ底面紅色ヲ呈シ周邊ニ變色ナシ切開スルニ何レモ皮下組織間ニハ血液ノ溢出ヲ見ス

四 顔面ハ所々血液ニ染ミ且ツ米粒大ノ表皮剝脱散在シ其性状ハ頭部ノモノニ同シ右上眼瞼ノ外縁ニシテ眉毛外端ノ下部ニ接シ蠶豆大ノ隆起アリテ其中央ハ帶紫綠色ナリ切開スルニ皮下組織間ニ多量ノ暗色凝血アリ左右眼瞼結膜淡紅ニシテ眼球結膜稍々腫起ス角膜ニ濁濁ナク瞳孔ノ大サ中等ナリ鼻腔中ニハ土砂海草貝殻ノ碎片アリ口唇ハ血液ニ染ミ米粒大ノ表皮剝脱數個アリ其性状ハ顔面ニ散在スルモノニ同シ齒ハ上下顎共ニ十四枚ニノ齶齒填塞齒等ナリ舌ハ其後方ニ位シ齒列前ニ異物ナシ耳殼及外聽道ハ血液ヲ附着シ之ヲ拭去スルモ左耳ヨリハ尙血液ノ流出スルヲ見ル他ニ異物ナシ

五 頸部ハ所々表皮剝脱ス大サ性状共ニ顔面ノモノニ全シ

六 右胸側前腋線部ニシテ第八肋間ニ一仙迷徑ノ淡紅色班アリ之ヲ切開スルニ皮下組織間ニ出血アリ腹壁變色ヲ呈セスソノ胸腹ノ皮

膚ニハ記スヘキノ異常ナシ

七 外陰部損傷ナク脊面亦然リ肛門ハ能ク閉鎖ス

八 左上膊ニハ損傷ナシ肘關節ノ内側ニ一錢銅貨大ノ紅色班アリ細檢スルニ數多ノ米粒大ノ表皮剝脱ヨリ成リ切開スルニ皮下ニ出血ナシ又肘關節ノ屈面ニ一五仙迷長大畧〇五仙迷幅ノ斜走セル輕微ノ表皮剝脱アリ切開スルニ其部ノ皮下脂肪層ハ周圍ヨリ稍赤シ前膊及ヒ手ニハ傷損ナク手掌面ハ稍白色ニシテ少シク皺襞ヲ呈ス上膊骨頭ヲ縱斷スルニ頭ト幹トノ接線微ニ存ス

右上膊ニハ損傷ナク前膊伸面ノ中部及手腕關節ノ外側ニ豌豆大ノ表皮剝脱アリ環指第二節ノ伸面及ヒ小指伸面ノ指爪ニ接スル部ニ米粒大ノ表皮剝脱アリ性状ハ凡テ顔面ノモノニ同シ手掌面ノ性質ハ左側ノ如シ

九 左大腿ノ前後及ヒ内側ノ中部ニ手掌大ノ淡褐斑アリ表皮存在ス
 切開スルニ稍々硬靭ニシテ皮下ニ出血ナシ又大轉子ヨリ下方六仙
 迷ノ所ニ左右徑二、五仙迷上下徑二仙迷ノ表皮剝脱アリ底面赤色ニ
 シテ周圍ニ變色ナク切開スルニ皮下ニ出血ナシ足蹠面ハ稍白色ナ
 リ
 右大腿外側ノ中部ニ左右徑一、〇仙迷上下徑二、〇仙迷大又々同后側
 ノ中部ニ左右徑五、〇仙迷上下徑四、〇仙迷大ノ表皮剝脱アリ其性質
 ハ凡テ左側ノ如シ足蹠面ノ性状ハ左足ニ同シ

第二 内景検査

甲 頭腔開檢

十 式ノ如ク軟部ヲ切開剝離スルニ多量ノ血色液流出ス更ニ凝固物
 ナ交エス軟部ハ一般ニ赤色ニ富ムト雖モ后頭上部及ヒ左右顛頂后
 部ニ一米粒大ノ溢血點數個アリ又々右眉毛外端ト髮際ノ中間及ヒ
 ソレヨリ稍々上方ニシテ眉毛ヨリ五仙迷ヲ隔テ各一仙迷徑ノ組織
 間出血アルノ他骨膜下及ヒ其他ノ軟部中ニ出血等特ニ記ス可キ異
 常ナシ右顛顫筋内ニ蠶豆大ノ出血アリ

十一 頭蓋骨ヲ鋸斷スルノ際頭腔ヨリ多量ノ流動血流出ス頭蓋骨ニ
 損傷ナク左右同形ニシテ〇、五仙迷ノ厚サヲ有シ板障血内量多ク
 矢狀縫合冠處縫合三角縫合ハ内外面共ニ明カニ見ルヲ得

十二 縱竇ハ少許ノ流動血ヲ容レ穹窿硬腦膜ノ内面ハ淡紅滑澤ナリ
 穹窿軟腦膜ハ紅色ニ富ミ血管網明カニシテ溷濁ナク底面軟腦膜ハ
 穹窿部ニ全ク基礎動脈ハ空虚ニシテ軟韌ナリ軟腦膜ハ一般ニ剝離
 容易ナリ

十三 左右腦側室内ニハ異常ノ内容ナク壁面ノ血管充盈シ脈絡叢血

量多シ

- 十四 大脳半球ノ硬サ常ノ如ク断面ニハ數多ノ血點ヲ見ル
- 十五 第三及ヒ第四腦室内ニハ異常ノ内容ナシ小腦大脳神經節ワロル氏橋延髓ノ所見ハ略ホ大脳半球ニ全シ
- 十六 横竇ハ少許ノ流動血ヲ含ミ底面硬腦膜ハ室窿部ノ如ク頭蓋底ニ骨傷ナシ蝴蝶骨ニ后頭骨基礎部ト全ク相癒合ス在顛顛骨岩様部ヲ穿開精査スルニ内ニ出血其他ノ異常ナシ

乙 胸腹腔開檢

- 十七 胸腹前面ノ皮膚ヲ正中線ニ沿フテ切開スルニ筋肉脂肪層長ク發育シ腹腔ノ臓器ハ常ノ位置ニ存シ腸管ハ一般ニ赤色ニ富ミ癒着ナシ腹腔内ニハ淡黄色液小許アリ
- 横隔膜ノ高サハ左第六肋骨右第五肋骨ノ下縁ニアリ

其一 胸腔開檢

- 十八 胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除スルニ肋軟骨ニ化骨ナク左右肺共ニ稍々膨大シ左右肋膜ニ癒着ナク腔内ニ淡黄色ノ液アリ其量左側ニ十二立方仙迷右側二十四立方仙迷ナリ
- 十九 氣管ヲ常位ニ於テ前方ヨリ切開スルニ内ニ淡血色ノ泡沫液アリ試ニ兩肺ヲ押壓スルニ同液多量湧出ス
- 廿 心嚢内ニハ鮮黄色ノ液四十立方仙迷アリ内面滑澤ナリ
- 廿一 心臟ハ當屍ノ手拳ヨリ微シク大コシテ右心ハ暗色流動ノ血液少許ヲ入レ左心ハ殆ント空虚ナリ房室間孔ハ左右共ニ容易ニ二指ヲ通ス大動脈及ヒ肺動脈ニ水ヲ灌クニ其瓣膜能ク閉鎖ス心臟ノ内面ハ淡褐赤色ニシテ諸瓣膜乳頭筋腱索ニ異常ナシ心壁ノ厚サハ左室一五乃至二〇仙迷右室〇五仙迷ナリ

廿二 左肺ハ一般ニ膨大緊張シ表面ハ帶褐紫色滑澤ニシテ小溢血點散在ス觸ルニ各部能ク嚙發ス氣管枝ヲ開檢スルニ内ニ淡血色ノ泡沫多量アリ肺ヲ壓スレハ益々多ク湧出ス尙ホ精査スルニ中ニ土砂及ヒ暗綠色扁平ノ小片ヲ海草ニ混ス氣管枝粘膜ハ淡紅ナリ肺ノ断面ハ褐赤色ニ血液ニ富ミ小氣管枝ノ斷端ヨリハ少シク壓スレハ多量ノ泡沫液ヲ漏出シ其色淡血色ニ氣管枝内ニアリタル如キ異物ヲ混ス之ヲ鏡檢スルニ植物性纖維微小ノ砂粒等ヨリ成ル右肺ノ所見凡テ左肺ニ全シ

廿三 喉頭及ヒ氣管ノ所見ハ殆ント氣管枝ニ同シク咽頭及ヒ食道内ニモ砂粒及ヒ暗綠色ノ小片アリ其性質ハ氣管枝内ノモノニ同シ

其二 腹腔開檢

廿四 脾ハ殆ント二葉ニ分レ十二、〇—九、〇—四、五仙迷ノ徑ヲ有ス表面滑澤帶紫褐色ニノ質軟ク断面血量中等脾材明カナリ

廿五 左腎ハ十一、〇—四、一—三、〇仙迷徑ニシテ莢膜剝離シ易ク硬サ尋常断面赤色ニ富ミ少ク溷濁ヲ呈ス皮髓兩質ノ分界稍々不明ナリ右腎ノ所見ハ凡テ左腎ニ全シ

廿六 膀胱ハ琥珀黃色ノ透明尿少許ヲ容レ粘膜滑澤ナリ

廿七 胃中ニハ殆ント無色ニシテ少シク溷濁セル水様液八十五立方仙迷アリ且ツ其中ニ氣管枝内ニアリタル如キ砂粒及ヒ植物性纖維ヲ混ス粘膜ハ少シク腫起シ一般ニ汚赤色ナリ

廿八 大小腸共ニ多量ノ水様液ヲ含ミ其性質ハ畧ホ胃内容物ニ同シ内ニ五條ノ蛔虫アリ小腸内面ニハ所々白色ノ絮狀物ヲ附着シ粘膜ノ血管ハ著シク灌注シ粘膜少シク腫起ス大腸ノ粘膜ニハ特記スヘキノ異常ナシ

廿九 肝ハ二十八〇―十七〇―八五仙迷ノ徑ヲ有シ表面滑澤帶紫褐色ニシテ解剖檢査ヲ終ル時ニ午后三時廿分ナリ

鑑定

前記解剖檢査ノ所見ニ據リ之レカ鑑定ヲ下ス左ノ如シ
第一 本屍ハ植物性ノ物質及ヒ土砂等ヲ混セル汚水中ニ溺没シ之レカ爲メニ窒息セルモノナリ
第二 右上眼右前額右腦側ニアル皮下出血及ヒ頭蓋帽狀腱膜下ニ滯溜シアル血液(記錄第四六及ヒ十項)ハ死因トハ直接ノ關係ヲ有スルモノニ非ス
第三 本屍ハ死后大畧一日許ヲ經タルモノナリ
第四 本屍ノ年齢ハ廿三四年前后ナリ

右之通り鑑定ニ及ヒ候也

明治廿〇年七月〇日

鑑定人	○	○	○	○	○	○
全	○	○	○	○	○	○
筆記人	○	○	○	○	○	○

鑑定書

京橋區新富町二丁目五番地
海老澤トメ方寄留
神奈川平民

田中 鈴次郎

三十二年三月

右者本月七日午後七時過京橋區炭町ヲ通行之際突然他人ノ爲メ腰部

ヲ銃撃セラレ同九日ニ至リ死去セシヲ以テ檢事之命ニ依リ同十一日
午前九時東京始審裁判所解剖室ニ於テ解剖ヲ執行スル左ノ如シ

外表檢査

体格強壯營養佳良ノ男ニシテ死後強直稍ヤ緩解シ全身皮膚黃胆色ヲ發
シ四肢屍斑ヲ呈シ左手背及頤部ニ皮膚剝脫痕ヲ認ムルノ他腰部第一
第二腰椎右側凡一寸許ノ處ニ於テ長サ三寸許ノ縱切創アリ該創ハ
丸射入口ヲ縱切シタルモノニシテ其創孔ヨリ指ヲ送入スレハ推骨ニ達
ス

内部檢査

腰椎棘狀突起直上ニ於テ皮膚ヲ縱割シ漸次其軟部ヲ切除スルニ恰モ
第一第二腰椎間ノ右側椎開孔部ニ於テ該孔周縁ノ骨片挫碎スルヲ見
ル茲ニ於テ更ニ胸腹部ヲ切開シ先ツ腹内臓ヲ摘出シ腰椎ヲ露出シテ

第一ヨリ第三ニ至ル三個ノ腰椎ヲ摘出シ更ニ第一第二腰椎關節ヲ離
開スルニ全椎ノ中間殊ニ第二腰椎ニ偏倚シテ椎體ノ前右側骨質内ニ
彈丸ノ筈入スルヲ發見セリ但シ彈丸ハ第一腰椎后右側ヨリ射入シ第
二椎間孔ヲ經テ脊髓ヲ穿行シ上記ノ椎體骨質内ニ達シタルモノニシ
其部ノ髓質ハ殆ント全斷スルニ至レリ又彈丸ハ直徑三分ヲ有シ椎實
狀ヲナシテ基底ハ變化ナキモ尖端ハ膨大シテ不正ノ形狀ヲナス其他
胸腹諸内臓ニハ著明ノ變化ナシ只胃及腸ノ胆嚢ニ接近スル部ニ於テ
ハ著シキ胆汁ノ着色アルヲ見ルノミ

說明

一 右死體ノ全身ニ黃胆色ヲ發セシハ彈丸ヲ以テ腰椎ヲ射撃シタル爲
メ神經感動ヲ起シタルニ由ルモノナラン
一 彈道ノ方向ニ依テ考フレハ該銃創ハ本人歩行ノ際其右彼側ニ在テ

射撃シタル彈丸ノ爲メニ起リシモノニ該傷ハ脊髓ヲ斷裂スルヲ以テ固ヨリ致命傷トスルニ足ル

一右彈丸ハ其大サト形狀トニ依テ見レハ蓋シ「ピストル」銃丸ナリトス

鑑定

一以上ノ理由ニ基ツキ本人致命ノ原因ハ腰髓ノ銃創ニ在リトス
右之通鑑定候也

明治廿〇年一月十一日

F. N.
R. Y.

因ニ云本件ハ腰部銃創ノ致命傷トナスヘキヤ否ヲ鑑定スルニ止マルノ命ナリシヲ以テ局部ノ剖檢ニ止マリ全身ノ剖檢ヲナサ、リシナリ

致命原因鑑定書

〇〇縣〇〇郡〇〇村平民

〇本〇吉祖母

何 某

六十年

〇〇控訴院評定官ノ依頼ニ據リ裁判調書及ヒ醫師診斷書ヲ參照シ右
〇本某致命ノ原因ヲ考察スルニ以上書類中ニハ其病歴并ニ死前ノ症
狀殆ント缺如シ死体剖檢録アルモ死後既ニ二週余日ヲ經過シタル後
ニ解剖シタルモノナルヲ以テ主要ノ諸臟器甚シク腐敗ニ陥リ居ルカ
故ニ其致命ノ原因ヲ鑑定スル甚タ困難ナリトス然レモ以上書類中實
子〇作其他證人等口供ノ要点ト解剖所見トヲ學理ニ參照シ説明ヲ下
ス一左ノ如シ
但シ右何某致命ノ原因ヲ鑑定スルニ方リ第一ニ研究スベキハ前鑑定

致命原因鑑定書

醫カ陳述ノ如ク其死因頸胸兩部ノ變常ニ在ルカ或ハ從來所患ノ疾病ニ在ルカノ二點ニ在リトス依リテ以下條ヲ設ケテ其理由ヲ開陳ス可シ

第一條 ○本〇作同妻及ヒ証人等ノ陳述ニ依レハ本人ハ豫テ子宮病ニ罹リ或ハ「セウカチ」ニ罹リ或ハ永血ニ罹ル云々又剖檢錄第一章第十六項第二章二十七及二十八款ニ依レハ腔粘膜淡赤色腔後壁腐敗ノ爲メ破潰シテ直腸ト貫通シ便汁ニ汚染セラレテ黑色ヲ呈シ子宮ハ其實質ニハ異常ナキモ子宮口及子宮内粘膜ハ便汁ニ汚染セラレテ帶黒赤色ヲ呈ス云々以上記載ニ依レハ本人ハ從來腔直腸癭ニ罹リタルモノナルカ或ハ証人ノ永血ニ罹ルト云フト年齢ノ高老ナルト腔後壁ノ破潰等ニ由テ考フレハ平素腔癭ニ罹リ居リタルモノナルカモ圖リ難シト雖モ既往症狀明瞭ナラザルヲ以テ判然區別シ能ハス然レモ生存中腔疾患アリタルヤ明瞭ナリトス然ルニ今該病ヲ以テ致命ノ原因トナサンカ証人ノ口供ニ依ルニ死三日前迄ハ病中ナカラ紡績等ノ業ヲ營ミ居リタリト云フヲ以テ見レハ仮令腔癭ナリトスルモ未ダ速ニ死ヲ致スノ高度ニ達シタルモノニ非ラサルヤ知ルベキナリ是ヲ以テ本人致命ノ原因ハ該疾患ニ非ラサルモノトス

剖檢錄中外傷ト認ム可キモノ、中胸頸兩部ノ損傷ヲ除クノ他ハ輕易ナルヲ以テ以下右兩傷ニ就テ論スベシ

第二條 胸部損傷、○倉〇智ノ口供ニ依レハ胸骨ノ中央ニ方リ表皮帶黑色ニ變シタル處アリ云々剖檢錄第一章十三項胸窩ヨリ下方ニ三角形ヲナシタル部分ハ青藍色ヲ呈ス其基礎部ハ(胸窩ヲ中央トシ左右ハ鎖骨胸骨端ニルヲ)右ヨリ左ニ「十二仙迷」三角形尖端迄「十三仙迷」第二章五款青藍色

三角形部ノ皮膚實質皮膚結締織及筋肉溢血甚クシテ帶黒赤色ヲ呈ス云々以上三角形變化ヲ説明スルニ剖檢醫ハ襟間露出部ニ刺衝性流動物ヲ撒布シタル故ニ生シタリト云フト雖モ鑑定醫〇生〇造カ陳述ノ如ク刺衝性流動物ヲ撒布スルハ必スヤ齊然三角形ヲ劃セシテ現時身體ノ位置ニ從ヒ後方或ハ下方ニ流下セザルヲ得ズ加之筋層ニ至ル迄溢血ヲ呈スル程ノ烈シキ刺衝物ヲ撒布スルハ單ニ皮膚ノ色澤ヲ變スルノミナラズ水泡ヲ形成シ或ハ壞疽ヲ生スルヲ常トス然ルニ今此等ノ變化ヲ呈セザルヲ以テ見レハ其原因刺衝性流動物ニアラスシテ恐ラクハ鈍形体ヲ以テ襟間ノ抗抵少キ部ヲ押壓若クハ打撲シタル爲メニ起リタルモノナラン而シテ齊然三角形ヲ呈スル所以ハ衣服ノ狀態ヲ詳ニセサルヲ以テ明辨シ難シト雖モ襟間ノ三角形ヲナス部ハ最モ空氣ニ曝露シ腐敗迅速ナル故ニ

斯ノ如キ三角形ヲ形成シタルモノナラン尤モ是ノ胸部ノ變化ヲ押壓若シクハ打撲ノ爲メニ起リタルモノトスルトキハ本人ハ殊ニ老年ナルヲ以テ胸骨或ハ肋骨ノ骨傷ヲ起スヘキ筈ナルニ今之ヲ欲クハ稍疑フヘキニ似タリト雖モ押壓若シクハ打撲ニ由テ生スルモノトスルノ他未ダ曾テ之ニ恰適スルノ疾病アルヲ見ザルナリ蓋シ該胸部變化ハ部位貴重ナルヲ以テ押壓若シクハ打撲ヲ加ヘタルモノトスルトキハ或ハ「シヨック」等ヲ起スノ恐レナキニ非ラザレドモ單ニ皮膚筋肉ノ溢血ニ留マルヲ以テ見レハ未ダ本人致命ノ原因トナスニハ足ラサルモノトス

第三條 頸部損傷〇倉〇智ノ陳供ニ依レハ咽喉部ニ鶏卵大固結物アリテ黒斑ヲ呈ス云々剖檢錄第一章第十二項前頸部及ヒ鎖骨上部帶青黒色ニシテ表皮剝脫シ指壓スルニ前頸部一種ノ感覺ヲ帶フル彈

カヲ呈ス第三章第一款前頸部皮膚ヲ縱横ニ切開スルニ皮膚實質及皮下結締織帶青黑色ヲナシ其筋肉帶紫淡赤色ヲ呈ス全第二第三款四款左右頸動靜脈喉頭五軟骨異常ナシ云々第六第七款左右耳下ヨリ胸部左右側ヲ下行シ鎖骨上緣ニ至ル迄ノ皮肉ヲ縱切シ溢血部ノ分界ヲ檢スルニ前頸部ト后頸部ノ界緣ニ於テ溢血部劃然分界セリ云々

以上頸部變化ハ既ニ表皮剝脫アリ區畫判然タル溢血アル以上ハ自然ノ痛腫或ハ皮下蜂窠織炎等ノ病的變化ニ非ラスシテ外部ヨリ押壓若クハ打撲ヲ加ヘタルモノナルヲ甚々明了ナリトス

蓋シ通例死ヲ致ス程ノ強力ヲ前頸部ニ加フルトキハ甲状軟骨環狀軟骨舌骨等ノ折傷且ツ多クハ仰臥位ニアルヲ以テ肩胛部項部ノ表皮剝脫及挫傷等ヲ發シ又前頸部ニ壓迫ヲ施シ即死スルハ窒息或ハ

腦症ノ爲メニシテ稍時間ヲ經テ死スルハ喉頭水腫或ハ腦症ニ由テ死スルモノトス然ルニ本人ニ於テハ遺憾ニモ主要ノ鑑定材料ニ供スヘキ肺及腦甚シク腐敗ニ陥リ居ルヲ以テ到底其死因ヲ辨明シ難キモノトス

以上説明スルカ如キ理由ナルヲ以テ本人致命ノ原因ハ明了ナラサルモノト及鑑定候也

明治〇〇〇年〇月〇〇日

F.

Z.

死体鑑定書

山口縣

西野 文太郎

慶應三年生

右者明治廿二年二月十一日傷死シ同年二月十一日神田區今川小路二

死体鑑定書

丁目七番地見玉佐一宅ニ於テ檢視ナルニ其證左ノ如シ

第一 体格營養共ニ中等ニ身長五尺五分ヲ有ス

第二 全身垢色ヲ呈シ死直己ニ去リテ冰冷ス

第三 背部ノ左右ニ於テ一刀下ニ生シタル者ノ如キ觀テナシタル創傷アリ而シテ右背部ノ傷ハ長サ三寸五分ニシテ肩峯部ヲ距ル二寸五分許ノ處ヨリ稍々斜メニ左下方ニ向ヘリ而シテ其深サハ筋肉ニ切入シ上方ヨリハ下方ニ於テ稍深シ又左背部ノ創傷ハ右背部創傷ノ端ヨリ稍斜メニ二寸二分許ヲ距タリタル處ヨリ斜ニ左下方ニ向ヒ長サ四寸許深サ上方ニ於テ筋肉ニ切入シ下方ニ於テハ肩胛骨ニ切入セリ

第四 右顳顬有毛部ニ於テ圓形ニシテ前下方遊離シタル剝切創アリテ其大サ圓圍ニ從テ之ヲ計ルニ二寸五分ニシテ下方ヨリ上方ニ向ヘリ

第五 顳頂部ニ於テ斜ニ前後ニ亘リ圓圍ニ從テ之ヲ計ルニ長サ四寸二分深サ腦質ニ切入シタル創傷アリテ其方向ハ左方ヨリ稍々斜ニ右下方ニ向ヘリ

第六 項頸部ニ於テ右側ハ下顎角ヲ距ル五分許ノ所ヨリ斜ニ上方ニ向ヒ左胸鎖乳頭筋ノ后縁ニ切入シタル創傷ヨリ其周圍ニ從テ之ヲ計ルニ長サ六寸二分許リ深サ稍々斜メニ前上方ニ向テ頸推ヲ斷切ス

第七 行傷器ナリト云フヲ見ルニ日本刀ニシテ最モ銳利ナルモノ、如シ

鑑定

以上數項ノ証狀ヲ學理ニ參照シ鑑定スルト左ノ如シ

(傷ノ輕重第五項第四項ノ創傷ハ敢テ危命傷トヒズ第五項第六項ノ創

傷ハ致命傷トス而ノ其頸部ノ創傷ハ頭部ノ創傷ヨリ重シトス
 (傷ノ方向)該死体ハ一旦埋葬汚土シ且ツ日子ヲ經ルノミナラズ或ハ創
 部ヲ動シ或ハ創口ヲ縫緘シタル等ヲ以テ其証狀著明ナラザルモ受傷
 ノ即日檢視シタル警察醫川俣某ノ檢斷書并ニ其傷ノ形狀位地深淺等
 ニ由リ考フルニ第三項ノ創傷ハ行者左側ニ在ツテ背部ヨリ切入シタ
 ル者ノ如シ第四項ノ創傷ハ前下方ヨリ上方ニ切入シタルモノ、如シ
 第五項ノ創傷ハ前上方ヨリ下方ニ切入シタルモノ、如シ第六項ノ創
 傷ハ后右下方ヨリ前左上方ニ切入シタルモノ、如シ
 (傷ノ性質)銳利ナル器具ノ切創ニシテ行傷器ナリト云フ日本刀ニ由テ
 生シタルモノトスルモ恰モ適切ナリ
 (傷ノ順序)第三項ノ創傷ハ第一創ニシテ第四項第五項之ニ次キ其六項
 ノ創傷ヲ以テ終リタルモノ、如シ

明治廿二年二月

警察醫兼司法省御用掛

安藤卓爾

解剖檢查記錄

族籍住所姓名年齡不詳 男屍

右者明治〇〇年二月廿六日午后四時三十分〇〇市〇〇區〇〇町〇番
 地ノ明家中ニ發見シタル死体ニシテ全日午后九時三十分檢事〇〇〇
 ○警察醫〇〇〇〇ト共ニ現場ニ臨檢セシニ死体ハ裸体ニシテ顔面
 及ビ左大腿等ニ損傷アリ外表檢査ノミニテハ其死因不明ナルニ付之
 ヲ認定スル爲メ全月廿七日午后一時ヨリ〇〇〇〇構内解剖所ニ於テ檢
 事〇〇〇〇立會ノ上を、執刀解剖シ、之ヲ補助ス其所見左ノ如シ

第一 外表檢査

死体鑑定書

- 一 一男屍身長一四五〇仙迷骨格榮養共ニ中等ナリ
- 二 死後強直ナシ
- 三 全身ノ皮膚乾燥シ塵埃ヲ附着ス体ノ前面ハ一般ニ蒼白ニシテ脊面ハ少シク紅色ヲ帶フ
- 四 頭髮ハ漆黒稍ヤ粗生ニシテ長サ二五乃至三二仙迷アリ左顳顬部ヨリ左額骨部ニ涉リ血色乾着ス有毛頭皮ニ損傷ナシ
- 五 右眉ノ外端ヨリ上方五〇仙迷ノ處ニ拇指頭大ノ表皮缺損アリ皮膚ノ乳頭層露出シ其面褐色ナリ左眼外眥及ヒ内眥ニ各一個ノ拇指頭大ノ實質缺損アリ赤褐ニシテ其邊緣及ヒ底面極メテ不正ナリ之ヲ切開スルニ外眥部ノモノハ組織間ニ少許ノ凝血アリ内眥部ノモノハ毫モ變狀ナシ又上眼瞼ノ全下緣ニ沿フテ實質少シク缺損ス性狀ハ内眥ノモノニ同シ左側ノ眼瞼結膜及ヒ眼球結膜ハ共ニ鮮紅色

ヲ呈シ右側ノモノハ淡紅ナリ眼球ハ左右共ニ軟カク角膜潤濁シ左
 右瞳孔ノ廣サ四〇密迷ナリ外鼻右側ノ下半部及ヒ左内側下三分一
 部ハ實質全ク缺損シ鼻中隔露出ス其緣及ヒ而ハ共ニ不正ニ赤褐
 色ヲ呈ス之レヲ切開スルニ組織間ニ出血ヲ見ス左耳殼ノ耳輪耳垂
 及ヒ對耳角全ク缺損ス其邊緣及ヒ底面ノ性質之ヲ切開セシ所見皆
 鼻部ニ同シ又右耳殼モ左耳殼ト殆ト同一ノ部實質缺損シ其性狀亦
 前者ニ異ナルヲナシ鼻下及ヒ下顎部ニハ一〇仙迷長ノ鬚髯粗生ス
 下唇ハ乾燥シ暗紫色ナリ之レニ濕潤ヲ與フレハ常態ニ復ス舌ハ齒
 列ノ後方ニ在リ鼻腔外聽道及ヒ口腔中異物ナシ齒列整然全數二十
 八葉ニシテ智齒ハ四葉共ニ無ク齶齒咀嚼面少シク磨滅ス齶齒及填
 齒ナシ

六 頸胸及ヒ腹部ノ皮膚ニ變狀ナク肚腹ハ少シク凹陷ヒリ

七 陰莖ノ端尖ハ帶紫褐色ニシテ尿道外口ノ上縁大約〇七仙迷ノ部ハ實質淺ク缺損シ其面不正ニシテ暗赤色ナリ其他外陰部ニ損傷ナシ肛門ハ少シク哆開シ周圍清潔ナリ背面ニ特筆スヘキ異常ナシ

八 右上肢ニ於テ肩峰突起ノ外端ニ左右經三、〇仙迷、上下經一、五仙迷ノ褐色乾固斑アリ之レヲ切開スルニ皮下ニ出血ナシ之レヨリ外下方三、〇仙迷ノ處ニ上下經三、五仙迷左右經二、五仙迷ノ斑一ヶ所又上膊外側ノ上三分一ノ部ニ長サ七、〇仙迷幅〇、五仙迷ノ斑一個鷺嘴突起ノ外側ニ上下經八、〇仙迷左右經四、〇仙迷ノ斑一個アリ其所見皆ナ前ニ同シ其他ノ各部ニハ異常ナシ左上肢ニハ上膊前外側ノ中央ニ「叶」ノ割青アリ小指末端ノ皮膚ハ表皮全ク缺損ス其面及ヒ縁ノ性質ハ顔面ニ在ル實質缺損ニ同シ其他ニ變狀ナシ

九 右下肢大腿骨大轉子ニ當タレル部ニ二錢銅貨大淡褐色ノ乾固斑アリ又其后端ヨリ起リテ大腿ノ後側ヲ地平ニ走レル同様斑アリ其幅大約小指橫徑ナリ膝蓋骨ノ外下部ニモ一厘銅貨大乃至二錢銅貨大暗褐色乾固斑四個アリ此レ等ヲ一々切開スルニ何レモ皮下ニ溢血ナシ足跟ノ外側鷄卵大ノ部ハ皮膚缺損シ紅灰色ニシテ其面及ヒ縁共ニ不正ナリ切開スルニ組織間ニ出血ナシ

左下肢ニ於テハ上ハプーバルト氏靱帶ノ中央部ヨリ起リ大腿ノ前側ヲ經テ膝關節前面ノ中央部ニ至リテ終レル創傷アリ長サ三一、〇仙迷ニシテ一、三乃至五、〇仙迷哆開シ加之ヲナス創ノ兩側ノ皮膚ハ尙ホ廣ク剝離シテ瓣狀ヲナシ其外側ノモノハ三角形ニシテ上方ハ狹ク下端幅九、〇仙迷ヲ算ス内側ノモノハ畧ホ長方形ニシテ幅六、〇仙迷ナリ又創ノ下端六、〇仙迷ノ處ヨリ外方ニ短狹ノ一皮裂ヲ岐出ス皮創ノ縁ハ一般ニ極メテ不規則皮瓣ノ内面ハ頗ル不平ニシテ創

面ニハ筋膜直露シ塵埃附着ス且ツ創面ノ上半部ニ更ラニ三个ノ深
 洞上下ニ排列ス其上在ノモノハ橢圓形ヲ呈シ上下徑七〇仙迷左右
 徑二仙迷ニシテ深サ殆ト骨ニ達シ血管及ヒ神經上ヨリ下ニ向テ橋
 架ス下在ノ二个ハ一錢銅貨大許ニシテ前者ヨリ淺シ三个共ニ其面
 不正ニシテ稍ヤ乾燥シ周圍ノ組織ニハ毫モ出血及ヒ其他ノ異常ヲ
 認メス膝蓋骨下縁ニ沿ヒ馬蹄鉄狀ノ褐色乾固斑アリ性狀右下肢膝
 蓋骨ノ外下部ニ存セル斑ト同様ナリ全跡趾ノ内側ヨリ其跛面ニ涉
 リテ皮膚ノ缺損アリ其性狀右足跟ノ外側ニ在ルモノト同シ
 十 上膊骨ノ上部ヲ縦割シテ檢スルニ骨頭ト骨幹トノ接合全ク見ヘ
 ス

第二 内景検査

甲 頭腔開檢

- 十一 式ニ從テ頭蓋軟部ヲ切開剝離シ其内面ヲ檢スルニ一般ニ淡紅
 ニシテ組織間ニ溢血ナシ
- 十二 頭蓋骨冠部ニ損傷ナク左右同形質内ノ血量中等厚サ〇二乃至
 一〇仙迷アリ冠狀縫合矢狀縫合及ヒ三角縫合共ニ外面ヨリ明視シ
 内面ヨリハ冠狀縫合及ヒ三角縫合幽カニ見ヘ矢狀縫合ハ全ク見ヘ
 ス且ツ其部粗糙ニシテ白色ナリ
- 十三 縱竇ヲ開クニ内ニ血液ヲ含マス穹窿部硬腦膜ノ内面ハ淡紅滑
 澤ナリ
- 十四 穹窿部軟腦膜ハ一般ニ淡紅ニシテ血管網著ルシク其經路ニ沿
 フテ微ニ溷濁アリ底面軟腦膜ニハ溷濁ナク他ハ全ク穹窿部ニ同シ
 基礎動脈ハ軟靱ニシテ流動血少許ヲ容ル軟腦膜ハ一般ニ腦質ヨリ
 剝離シ易シ

十五 側腦室ヲ開クニ左右共ニ琥珀黃色ノ液少シク存ス壁間溷濁ナク脈絡叢ノ血量ハ中等ナリ第三及ヒ第四腦室ニハ内容ナシ大脳半球ノ實質ハ稍ヤ硬ク断面淡紅細血管ノ斷端明視スレモ壓スルモ血點ヲ出サス小腦、大神經節、四疊體及ヒワロル氏橋ノ断面特記ス可キ變狀ナク性狀大脳半球ニ同シ延髓ハ軟クシテ断面ノ性質充分明カナラサレモ出血竈等ヲ發見セズ

十六 橫竇内ニハ少許ノ流動血アリ底面破腦膜ノ質穹窿部ニ同シ頭蓋底ニ骨傷ナシ胡蝶骨體ト後頭骨基礎部トノ接合線ハ全ク見ヘス

乙 胸腹腔開檢

十七 頸胸及ヒ腹部ノ皮下脂肪層及ヒ筋肉厚ク筋色尋常ナリ

十八 大網膜ハ脂肪中等腹腔臟器ノ位置異常ナク腸管ハ淡紅灰色ニシテ少シク青色ヲ帶ヒ胃ノ幽門部ニ近キ部ハ胆汁ニ染ミテ著ルシ

ク暗綠色ナリ腹膜滑澤小骨盤内ニ液質ナシ
 横隔膜ノ高サハ右第四肋間左第五肋骨ニ達ス

其一 胸腔臟器

十九 第二肋軟骨以下ハ刀ヲ以テシ第一肋軟骨ハ骨缺ヲ以テシテ胸廓前壁ヲ切除スルニ右肺ノ前縁ハ少シク露出シ左肺ハ見ヘス左肺ノ上葉ト下葉トノ接際部及ヒ右肺ノ上後部ハ少シク胸壁ト癒着ス兩肋膜腔ニ内容ナシ

二十 心嚢ヲ開クニ内ニ透明琥珀黃色ノ液二〇、〇立方仙迷ヲ含ム内面ハ淡紅滑澤ナリ

二十一 心臟ハ本屍ノ手拳ヨリ稍ヤ大ナリ右心ハ軟クシテ内ニ血液ハ充盈セルヲ見ル左心ハ硬シ右心ヲ刀開スルニ内ニ凝固物ヲ交ヘタル暗色濃厚ノ血液一〇、〇立方仙迷アリ左心内ニハ暗色ノ軟凝

血少許ヲ含ム房室間孔ニハ左右共ニ二指ヲ通ス心ヲ摘出スル際附
 屬ノ血管ヨリ軟凝ノ血液多量ニ流出ス水ヲ動脈ニ注入スルニ其瓣
 膜閉合セスシテ直ニ漏下ス肺動脈瓣ハヨク閉鎖ス右心ノ内膜蒼白
 三尖瓣及ヒ半月狀瓣共ニ軟韌肉柱乳頭筋腱索異常ナシ左心ヲ檢ス
 ルニ大動脈口ノミ半月狀瓣中右及ヒ後ノ二葉相癒着シ著シク肥厚
 シ且ツ短縮シ左葉モ亦少シク厚ク僧帽瓣及ヒ之ニ屬スル腱索ハ共
 ニ稍ヤ強硬ナリ他ノ所見ハ右心ニ同シ筋質少ク軟ク色稍ヤ暗色ヲ
 帶フ厚サ左室一、五乃至二、〇仙迷右室〇、六仙迷ナリ大動脈ノ起根部
 ニ肥厚シテ稍ヤ硬キ黄色斑紋アリ

二十二 左肺ハ表面一般ニ淡鮮紅色ヲ呈シ滑澤ニシテ少シク凹凸アリ葉間互ニ癒着ス断面ハ鮮紅ニシテ各部ヨリ空氣ヲ含ミ血量中等氣管枝内ニハ少許ノ血色粘稠液アリ粘膜面ハ淡紅ナリ右肺ノ上中

二葉ハ帶青淡紅色下葉ハ暗淡赤色ナリ各葉互ニ癒着ス断面畧左肺ニ同シク上葉及ヒ中葉ヲ下葉ニ比スレハ赤色稍ヤ淡ナリ氣管枝内空虚其粘膜面ハ左肺ノモノニ同シ

二十三 舌異常ナク咽頭ノ粘膜ハ較ヤ暗赤色ニシテ少シク腫脹ス食道ニ内容ナク粘膜面ノ上部ハ淡赤灰色下部ハ帶紅紫色ニシテ血管網著明ナリ喉頭及ヒ氣管内ニハ汚赤灰色ノ粘稠液少シク存シ粘膜ハ稍ヤ粗糙ニシテ赤色ナリ

其二 腹腔臟器

二十四 脾ノ大サ一〇、〇―六、〇―二、一仙迷表面滑澤帶青暗紫色質少シク軟ナリ断面血量中等脾材脾髓ノ區別明カナリ

二十五 右腎ノ被囊脂肪ニ富ミ莢膜稍ヤ剝離シ難ク直徑八、五―五、三―二、五仙迷質較ヤ硬ク表面少シク粗糙ニシテ後面ノ外方ニ大約小

鶏卵大ノ不正ナル微凹陥アリ(癥痕)断面血量稍ヤ多ク皮質部狭クシ
テ一般ニ黄色ヲ帶フ

左腎ハ九、〇―六、〇―三二仙迷ノ徑ヲ有シ表面ニ癥痕ナキノ他所見
全ク右腎ニ同シ

二十六 膀胱ハ緊満シ琥珀色透明ノ尿三〇〇〇立方仙迷ヲ容レ内面
淡紅滑澤ナリ

二十七 胃中ニハ胆汁色ノ粘稠液少許アリ粘膜ハ平滑淡紅灰色ニシ
テ小彎部ニ黒褐色細長ノ斑數个アリ長サ一、〇乃至二、〇仙迷ニシテ
之レヲ切開スルニ其色粘膜實質ニ達ス十二指腸ハ空虚ニシテ内面
ノ色胃ニ同シ

二十八 小腸内ニハ帶青灰白色ノ粘稠液少シク存シ下部ニ至ルニ從
ヒ黄色ヲ帶ヒ大腸内ニハ常色ノ軟便アリ粘膜ハ小腸ノ上部ニ於テ

ハ少シク腫脹シ淡暗赤色ニシテ血管網明視シ下方ハ漸々減退シ大
腸ニ至レハ淡紅ナリ

二十九 肝ノ直徑二二、〇―一四、〇―六、〇仙迷表面滑澤帶黃褐色質軟
脆ニシテ粉泥ニ觸ル、ノ感アリ断面血量中等一般ニ黄色ヲ帶ヒ光
輝アリ小葉ノ周圍ハ黄色中央ハ淡褐色ナリ

三十 脾ノ断面異常ナク腸間膜ハ脂肪ニ富ミ腺ノ腫脹ナシ

三十一 胸腹ノ大動脈ヲ開檢スルニ内ニ少許ノ流動血アリ殊ニ上部
ニハ纖維素ノ凝固塊アリ壁質軟韌内面滑澤ナリ

第三 血液検査

三十二 心臟ヨリ得タル血液少許ヲ試験管ニ取リ蒸溜水ヲ以テ適宜
ニ稀釋シ光像鏡ヲ以テ檢スルニ酸化「ヘモグロビン」ニ固有ナル二條
ノ吸収線アリ之レニ硫化「アウモン」ヲ加ヘ暫時ヲ經テ更テニ覗フニ

前記ノ吸収線變シテ一條トナル還元ヘモクロビンノ吸収線又試験管ニ同血液數滴ヲ取リ蒸溜水ヲ以テ稀釋シ之レニ血液ト同量ノ橙黄色硫化[アムモン]ヲ滴シ更ラニ稀醋酸ヲ加フルニ汚緑灰色ヲ呈シ全ク赤色ヲ帯ヒズ

以上ノ二試験法ハ各二回行ヘリ

右ニテ解剖検査終ハル干時全日午後三時三十分ナリ

鑑定

前記解剖所見ニ基キ之ガ鑑定ヲ下ス左ノ如シ

一 本屍ノ死因ハ大動脈口瓣ノ閉鎖不全(記録第二十一項)ニ由ル心臟麻痺ニ在リ故ニ病死ナリ

二 記録第五項左眼ノ内外眦上眼瞼ノ全下縁、外鼻、左右耳殼全第七項陰莖ノ尖端全第八項左手小指ノ末端、全第九項右足跟ノ外側、左大腿

ノ前側及ヒ全跣趾ノ内側ヨリ其蹠面ニ涉リテ存スル諸實質欲損ハ皆テ死後動物ノ咬蝕ニヨリテ生シタルモノナリ獨リ記録第五項左眼外眦ニ在ル少許ノ組織間溢血ハ生前鈍器ニ生シタルモノナレバ極メテ輕微ナルモノトス

三 本屍ノ体中暴行ニヨリテ死ヲ致シ或ハ之ヲ幫助シクル証跡ヲ發見セズ

四 本屍ノ年齢ハ三十才以上ナリ

五 本屍ハ死後四五日以上ヲ經タルモノナリ右之通り鑑定ニ及ヒ候也

明治〇〇年月日

鑑定人 〇、

同 〇、

筆記人 乙

(附言)本屍ニ就テ特ニ血液検査ヲ行ヒタルハ記録第二十二項肺ノ
断面鮮紅色ナルヲ以テ爲念酸化炭素ノ存否ヲ確メンガ爲ナリ

法醫學的鑑定ノ一例

公立小樽病院長

醫學士 渡邊文治述

鑑定書

秋田縣南秋田郡舟川村平民

當時北海道後志國忍路郡鹽谷村

寄留大工職

宮崎 某
二十八年七月

右者明治廿四年十二月十四日午後五時頃酒宴ノ際割木ヲ以テ頭部ヲ
歐打セラレ同十五日午前八時頃人事不省ニ陥リ居リシヲ某ノ發見ス
ル所トナリ此際醫師川畑某ノ差出シタル診斷書ニ由レハ歐打ノ爲メ
ニ來ル頭蓋内損傷カ將々尋常ノ卒中症カ死後剖檢スルニ非サレバ確
定ナラズト云フニアリ遂ニ同十六日午前十時頃死亡セシヲ以テ札幌
地方裁判所豫審判事某ヨリ之カ鑑定ヲ囑托ヒラレ同十八日午後二時
右屍體ノ存在所忍路郡鹽谷村宮崎某方ニ於テ札幌地方裁判所豫審判
事某同書記某小樽警察署詰警部松宮某鹽谷駐在所巡查某立會ノ上之
カ鑑定ヲナスト左ノ如シ

屍ノ狀態

屍ハ木綿衣服ヲ着ケタル儘其屍體ヲ蒲團ニテ纏ヒ稍々左ニ傾テ側臥
シ兩手ハ之ヲ合掌シテ胸上ニ置キ兩下肢ハ股膝兩關節ニ於テ屈曲シ

兩肩胛關節及兩肘關節ヲ除クノ他ハ硬ク強直シ體格營養共ニ善良ニシテ未ク全ク腐敗ノ兆候ヲ認メサル一男屍ナリ

頭部

全頭一寸許ノ黒キ毛髮ヲ密生シ外見上異狀ヲ認メ難シ

顔面

前額中央ニ二三ノ屍斑ヲ呈シ兩眼ハ共ニ瞑シ之ヲ開ケバ角膜ハ稍溼濁スルモ猶ホ瞳孔ノ散大シ居ルヲ透見シ得ベク結膜ニ異狀ナク左鼻孔ヨリ少ク出血ノ痕ヲ止メ口ハ閉鎖シテ下顎關節強直シ齒列異狀ナク兩耳共外傷出血等ノ痕ヲ認メズ

軀幹

全背殊ニ肩胛下隅ヨリ以上頂部ニ至ル迄著シク屍斑ヲ呈シ其間多ク暗赤色ノ線狀ヲナスモノアリ試ニ之ヲ切開スルモ組織内血液ノ滲出

セルヲ見ズ以下臀部ニモ亦數個ノ屍斑ヲ見ル

胸部ハ胸骨手柄部ニ二三ノ屍斑ヲ呈シ腹部ハ其膨滿ノ度尋常ニシテ他ニ異狀ヲ認メス陰莖及ヒ肛門ニモ亦變常ナシ

四肢

上肢ハ兩側共上膊ノ内面ニ屍斑ヲ呈シ左拇指ノ背部ニ三角形ノ皮膚ノ剝離面アリテ暗赤色ヲ呈ス

下肢モ亦兩側共大腿内面ニ蔓延性ノ大ナル屍斑ヲ呈シ其周縁赤色ナリ下脚後面ニモ亦小屍斑ヲ見ル

以上外部ノ所見ニ據リテハ外傷ノ以テ死ヲ致スニ足ルガ如キモノヲ發見セスト雖モ左鼻孔ノ出血痕及ヒ醫師川畑才之丞生前診斷書ニ據リテ其死因ヲ頭蓋内ニ索ムルノ要アルノミナラズ事實ノ審問ニ頭部ヲ歐打セラレシ云々アルヲ以テ本屍ノ解剖ヲ先ツ頭部ヨリ始ムルヲ

トナス

解剖所見

先ツ頭髮ヲ剃去シ頭蓋表面ヲ精細ニ檢スルニ左顛頂骨ノ后縁ニ近キ部ニ於テ二ヶノ少ク赤色ヲ呈スル部アリテ其中間少ク腫起スルヲ見ルノ他外傷ノ認ム可キモノナシ式ノ如ク頭蓋軟部ヲ切開シ骨膜ト共剝離シ檢スルニ上記ノ腫起赤色ヲ呈スル部ニ通スル所ハ唯骨膜及ヒ軟組織内ニ少ク充血スルノミニ著シキ變化ヲ呈セズ之ニ反シ前頭骨ト顛頂骨ノ間即チ冠狀縫合ノ經過ト一致線ニ於テ頭蓋骨ノ甚シク破裂スルヲ見ル此骨ノ破裂ハ右ハ下リテ同側ノ顛骨後縁ニ達シ左ハ同側ノ蝴蝶骨大翼ノ後縁ニ迄及ホシ此間僅ニ左顛頂骨前縁ニ於テ一寸許ノ骨ノ連續ヲ遺スノミ他ハ悉ク破裂ス而シテ右顛頂骨ノ前縁ノ破裂ニ適スル部ニ於テ多量ノ骨膜下出血アリテ其大サ天保錢大ノ暗赤

色ヲ呈ス其他頭蓋骨外面ニハ異常ヲ認メズ頭蓋骨ヲ鋸斷シ之ヲ剝離スルニ頭蓋骨内面モ外面ニ均一ナル骨ノ破裂ヲ有シ其他ニ變化ヲ認メズト雖モ硬腦膜ト頭蓋骨ノ間ニ於テ右側大腦ノ顛葉ノ前上部同前頭葉ノ后下部同顛頂葉ノ前上部ニ跨ル處ノ多量ノ暗赤色ノ凝血塊アリ其大サ殆ンド手掌大ニ達シ其血塊ノ最厚徑七分餘ナリ又之ニ適當スル腦ノ表面ハ爲メニ壓迫セラレ皿狀ニ陥沒ス而シテ此血塊ノ下界ト殆ンド前頭蓋窩ノ底部ニ迄達ス其他硬腦膜及大腦ノ表面ニ血管ノ怒張スルヲ見ル又顛葉ノ前部ニ於テ腦實質ノ挫傷ヲ呈シ其大サ小指頭大ナリ其他小腦膜及延髓ニハ異常ヲ認メズ

以上所見ノ變化ニ據リ既ニ死因ノ明瞭ナル旨申告シ豫審判事ノ同意ヲ得テ此解剖ヲ終了シ腦質ヲ還納シ頭蓋ヲ縫合ス時ニ同日午後三時四十分ナリ

右ノ解剖變化ヲ以テ本屍ノ死因ハ外襲ノ異力ニ因ル頭蓋骨々折及ヒ之ニ續發スル處ノ中硬腦膜動脈ノ出血ニ由リ腦壓迫症ヲ起シ以テ死ヲ致シタルモノトス
右鑑定ニ及ヒ候也

公立小樽病院長

醫學士 渡邊文治 印

附記ス加害者ハ札幌地方裁判所ニ於テ輕微役七年ニ處セラレタル由ナリ

檢案書(絞殺)

在千葉 森理記

某郡某村平民漁師S某(三十五年)ガ溺死事件ニ付キ明治二十年某月某

日午前九時某縣警部代理巡查某H某ト共ニ同村某番地B某方へ臨就シ該屍体檢案スルコト左ノ如シ

甲 現場所見

第一條 屍体ハB某ガ居宅ノ裏手井戸ニ沿ヒタル汚溝(溝ノ大サ大約方三尺八寸地面ヨリ水上迄五寸水ノ深サ一尺七寸汚泥ノ深サ五寸ノ東側ニ在リ而シテ溝圍數十尺ノ間ハ平坦ニシテ亦タ樹木等ヲ見ス
第二條 屍体ハ藁藁二葉ヲ以テ之ヲ被ヒ僅カニ其兩足ヲ露出セリ即チ該藁ヲ除去スルニ屍体ハ俯臥ノ位ヲ取り頭首ハ汚溝ノ縁ニ枕シ顔面ヲ左方ニ傾ケ其上膊ヲ同脇胸ニ接シ前膊ハ直角ニ上方ニ向テ屈曲ス左上肢ハ胸廓ノ下位ニ在ルヲ以テ之ヲ見ル能ハズ軀体ニハ單衣ヲ着シ腰部ヨリ以下ハ袴ノ長襦袢ヲ以テ之ヲ被ヘリ該襦袢ヲ除去スルニ腰部ニ於テ三尺帶ヲ纏ヒ而シテ是ヨリ下部ノ單衣ハ翻

轉シテ此部ニ卷キ付ケアルヲ以テ臀部ヨリ以下ハ尽ク裸露シ(但シ
襪鼻輝ヲ纏フ)兩下肢ハ相併メテ之ヲ展伸セリ單衣ノ下ニハ盲縞ノ
腹掛ヲ着シ而シテ該腹掛及ヒ單衣ハ盡ク滋潤シ且ツ單衣ニハ所々
ニ汚泥附麗ス又々左右ノ腰部ニ接シ麻裏草履各一個存在スルヲ見
ル

乙 屍体外表所見

第三條 軀幹長大營養佳其皮膚ハ帶褐銅赤色ニ一見其力役者ナル
ヲ徴知ス可シ

第四條 頭部斬髮ニシテ濕潤且ツ甚シク汚泥附着スルノ他異狀ナシ

第五條 顔面(イ)顔面ハ全部霽血シテ帶紫紅色ヲ呈シ且ツ處々ニ汚泥
附着セリ
(ロ)前額中央ヨリ稍ヤ右側ニ偏シ髮際ヨリ下方一仙迷ノ部及ヒ右眉

毛外端ノ直上部ニ米粒大ナル損傷各一ヶ所アリ共ニ少ク出血セリ

(ハ)兩眼ハ鎖閉セリ而シテ左右共ニ瞳孔散大シ上下眼瞼及ヒ眼球結膜
下ニ數個ノ帽針頭大ナル出血点アリ殊ニ下眼瞼結膜下ニ於テ著シ

(ニ)双鼻腔ハ汚泥ヲ以テ填充セラル而シテ腔内殊ニ深部ノ粘膜著ク赤
色ヲ呈セリ

(ホ)口唇ハ帶紫赤色ニシテ其上下唇間ニ舌尖ヲ含啣シ舌ハ尖端ヲ距
ツル十六密迷ノ部ニ於テ兩齒列間ニ緊縮セラレ之ガ爲メ其尖端少

シク膨大シテ紫黑色ヲ呈シ且ツ緊縮セル部(左側)ニ於テ長サ十二密
迷ノ損傷アリ之ヨリ血液流出シ左頰面ニ附着スルヲ見ル而シテ齒列

ヨリ内腔ハ之ヲ検査スル能ハズ
(ハ)双耳腔ニ異常ナシ

第六條 頸部甲狀軟骨結節部ヨリ右方ハ右耳垂下五仙迷ノ部ヲ通過

レテ頂部ノ髮際ニ至リ左方ハ左耳垂下七仙迷ノ部ヲ通過シ同ク項部髮際ニ至ル即チ頸部ヲ殆ント水平ニ輪匝セル長サ三十四仙迷頸圍四十一仙迷ノ内頸椎棘狀突起部ヨリ左方三仙迷右方四仙迷即チ七仙迷ノ間ハ異狀ヲ認メス但シ同突起部ハ其兩側ノ筋肉著ク發育セルガ爲メ陷凹ヲ呈セリ幅二仙迷乃至一仙迷ノ絞溝アリ溝内ノ皮膚ハ乾燥堅韌トナリ淡紫褐赤色皮下溢血ヲ呈ス殊ニ甲狀軟骨ノ左側ヨリ同側胸鎖乳嘴筋ノ間ニ甚クシテ該部ノ表皮剝脱スルヲ見ル而シテ左右共ニ項部ニ移行スルニ從テ漸々稀薄トナレリ

第七條 上肢(イ)左上膊前面ノ上部ニ於テ長サ五仙迷巾二仙ノ皮下溢血アリ淡紫紅色ヲ呈ス

(ロ)左臂關節ノ後面ニ方四仙迷ノ表皮剝脱アリ

(ハ)兩手ハ共ニ半握位ニシテ掌面清潔又々皺襞ヲ認メズ

第八條 胸骨把柄部ノ下方ニ於テ長サ一仙迷半巾八密迷ノ溢血アリ淡紫紅色ヲ呈シ且ツ其表皮剝脱ス又々同部ヨリ下方一仙迷半ヲ距ア、長サ三仙迷巾一仙迷ノ皮下溢血アリ淡紫紅色ヲ呈ス

第九條 胸部打診スルニ清音ヲ放ツ

第十條 腹部胃窩毫モ膨滿セズ打診上鼓音ヲ聽ク

第十一條 背部全背刺繡ヲ見ルノ他異狀ナシ

第十二條 生殖器尿道口ノ左側六密迷ノ部ニ於テ方三密迷ノ損傷アリ

第十三條 肛門ノ周圍及ヒ犢鼻禪ニ僅微ノ糞便附着セリ

第十四條 下肢左右共ニ異狀ナシ

丙 説明

第一款 第二條衣服ノ滋潤第四條第五條(イ)ノ末項同條(ニ)ノ初項及ヒ

第七條(ハ)ノ末項等ニ據レハ屍体ハ少時汚水中ニ在リシモノニシテ其頭首ニ汚泥甚シク附着スルモ下肢ニ之ナキヲ以テ見レハ頭首ヲ下ニシ即チ倒マニ水中ニ在リシモノト認ム然レモ第九條第十條等ニ據レハ水液ヲ吸飲セル憑証ニ乏ク又泥土ノ爲メ窒息セシモノトナサノ歟第三條ニ記スルカ如キ強健ノ身ヲ以テ假令ヒ或原因(例之酩酊等)アリトナスモ多少其泥土中ヨリ脱出セントセル狀況若クハ煩悶セル状態ナカル可カラス然ルニ屍体ノ墜落シアリシト云ヘル汚溝及ヒ其周邊ニ於テ毫モ其徴ヲ檢出シ能ハザルノミナラズ第七條(ハ)ノ初項ニ掲タル如ク双手共ニ泥土等ヲ把握セシ狀ナキト及ヒ他ニ著明死因存スルトチ彼此参照スルキハ蓋シ生前水中ニ陥リシモノ即チ溺死ノ疑ヒテ解クニ足ラン歟

第二款 第五條(イ)ノ初項(ハ)ニ(ロ)ノ末項(ホ)及ヒ第六條ノ諸徴ニ據リ生前

紐索ヲ以テ頸部ヲ絞殺シ之カ爲メ窒息致命セルモノト認ム而シテ此絞殺ハ自己ノ所爲ナルヤ或ハ他人ノ行爲ニ出ツルヤヲ鑑別センニ自己ノ所爲ニ於テ多ク見ル所ノモノハ吊死ナレモ此屍体ニ於テハ吊死ニ必要ナル紐索ヲ懸垂スベキ樹木其他之ニ稱フ所ノ裝置ヲ欠クノミナラス絞溝ノ水平ニ輪匝セルヲ以テ吊死ノ疑ハ消滅スヘシ又チ紐索ヲ取リテ自ラ絞殺スルハ稀有ニ屬スルノミナラス此ノ如キ場合ニ於テハ通常其紐索頸部ニ纏絡シテ存在スルモノトス然ルニ此屍体ニ於テハ之ヲ欠クヲ以テ此疑モ亦チ消滅ス可シ由是觀之該絞殺ハ他人ノ行爲ニ出タルモノニシテ其絞溝及ヒ溢血部ノ左頸部ニ著キハ同部ニ於テ紐索ヲ強ク結締セルニ依リ項部ニ於テ絞溝ヲ見ザルハ絞殺ノ際該部ニ皺襞ヲ形成セルニ由ルモノト認ム

第三款 第五條ノ(ロ)第七條(イ)(ロ)第八條及ヒ第十二條ハ共ニ鈍体ニ抵

觸スルニ因スルモノニ就中胸骨部及ヒ上肢ノ損傷ハ恐クハ被害時抵抗セルニ原クモノナラン

丁 檢案

以上説明セル理由ニ依リ

第一 S 某ハ死後汚水中ニ陥落セシモノナリ

第二 S 某ハ頸部ノ絞縊ニ依リテ窒息死セルモノニ其絞縊ハ他人ノ行爲ニ出ツルモノトス

右及檢案候也

附言 被害者ハ當夜某樓ニ貪飲シ翌午前二時比泥酔ノ某樓ヲ辭去セリ然ルニ翌朝ニ至リ被害者ハ其情婦某ガ屋敷内ノ汚溝中ニ陥落シアリシヲ近傍ノモノ發見シ溺死ノ詔ヘテナセルモノナリト云フ而シテ該情婦ハ某男ト見ニ此嫌疑ニ依リ収監セラレタルモ遂ニ豫審

庭ニ於テ證據不充分ヲ以テ放還セラル

吾儕ガ本鑑定書ヲ作爲セル當時ニ於テハ死因明了タルヲ以テ剖驗ヲ要セズト思惟シ遂ニ之ヲ施サマリシモ今ニ之ヲ顧レバ遺憾轉タ少カラザルヲ覺ユ若シ該被告辨護人ニ於テ被害者ハ泥酔ノ餘飲料ヲ取ラント欲シ井邊ニ至リシニ誤テ汚溝中ニ墜落セシモ酩酊甚シキヲ以テ遂ニ其處ニ落命セシモノニ井水ハ必ナラズ之ヲ吸飲セシナラン只々其量少ナキガ故ニ外部ヨリ之ヲ徵知シ難キニハアラザル歟鑑定書ハ剖驗ヲ行ハスノ之ヲ吸飲セザルヲ斷言シ得ルヤト論セラル、此ハ之ガ爲メ該鑑定ヲ動サル、ガ如クナキモ鑑定書ノ價值ハ多少減殺セラル、ノ觀アリ而シテ其起因ハ當時剖驗ヲ行ハサリシニ職由ス豈ニ注意セザル可ケンヤ吾儕ハ茲ニ之ヲ悔告シ以テ自カラ戒ムト云爾

明治廿五年六月

森 理 記再識

鑑定書

東京市〇〇南〇〇町瀧野某私立
産婆女學校寄宿舎生徒

青 山 某 女
二十七年

右ハ明治二十〇年四月某日四ツ谷警察署ノ報知ニ係ルモノニノ全日
午前八時豫審判事〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇並ニ同署勤務警部〇〇
〇〇立會ノ上檢視スルニ左ノ如シ
一檢視ニ先チ右青山ハ一二月月前ヨリ妊娠セシト覺ユルヲ以テ之レヲ
墮胎セシメント欲シ之レニ使用ス可キ「カタイテル」並ニ墮胎后ノ用

意トシテ實母散ヲ坊間ニテ需ノ昨夜十二時前右ノ「カタイテル」ヲ自
ラ腔内ニ挿入セシヲ目撃シ其后某女ハ睡眠セシモ午前二時頃目ヲ
覺マセシニ右青山ハ今ヤ其状態ノ異常ナルヲ以テ驚起シ直ニ水ヲ
啣マセシニ毫モ嚙下セス上肢ノ痙攣ヲ發シテ遂ニ瞑目セリト而シ
テ青山ガ死去セル室ニ到リ視ルニ机上ニ二貼ノ實母散ト室ノ中央
壁ニ接スルニ處護謨製ノ「カタイテル」一本アリテ其周邊ニ衣服ヲ解
縫シテ爲シタル數片ノ弊布アルヲ認メリ
一死体ハ西南隅ノ一室ニ於テ蒲團上ニ仰臥セシメ其頭部ハ南方ニ向
ヘリ但シ檢視ニ先チ醫師鈴木某カ診察治療等ノ便ヲ得ンカ爲メニ
死去セル室ノ暗黒ナルヲ以テ故ヲニ命シテ此一室ニ擔致セシメテ
ルモノナリト云フ
一檢スルニ体格營養共ニ善良ニシテ顔面並ニ前頸部ハ稍帶赤紫色ニ

墮胎事件鑑定書

變シ殊ニ上下唇ハ共ニ黒紫色トナリ眼瞼閉鎖シ瞳孔ハ幾ソト中等大ニシテ眼瞼結膜ハ稍々充血シ鼻竅口内ヨリ少許ノ稀血色泡沫液ヲ流シ口ハ緊閉シ舌尖ハ齒牙ノ口蓋面ニ密接セリ其着用セル木綿綿綿入下着并ニ白禪ヲ剝キテ軀幹ヲ檢スルニ胸側背ノ中央其他臀部上下肢ノ所々ニ於テ淡赤色ニ變セルヲ見ル且ツ上肢殊ニ右上膊下半部ニ於テ數個ノ五厘乃至一錢銅貨大ニ至ル少シク腫起セル藍色斑アリ而シテ腹部ハ稍々膨隆シ肛門ハ少シク弛緩シ四肢強立シ死体ヨリ一種ノ臭氣ヲ放テリ

以上記載スル處ニ據ルニ其致命ノ因タル稍々刺戟物品ノ中毒ニ出ツルカ如キ疑ナキニ非ラスト雖モ確然タル特徴ナキヲ以テ概テ不明ナリト言ハザルヲ得ズ是ヲ以テ之ヲ確定セシニハ宜シク解剖ヲ行ヒ体内ノ含有液ヲ分析セサル可ラス於是右死体ヲ司法省構内解剖室ニ送

致シ臨檢豫審判事〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇ノ命ニ依リ其面前ニ於テ解剖セシニ其所處見ノ如シ

青山某女屍體解剖檢査錄

體園物件檢査

一 屍體ヲ運搬セル吊臺中ノ物件ヲ檢スルニ其着服類ニ半バ乾燥セル淡血色ノ染斑ヲ見ルト左ノ如シ

第一 敷蒲團

- (イ)枕部ノ左側ニ偏シテ一個アリ其縱徑三十二仙迷橫徑十五仙迷
- (ロ)前班ヨリ右下方ニ向フテ流走スル縱徑二十一仙迷幅徑一仙迷ノ長班アリ
- (ハ)班ノ下方十仙迷ヲ距ル處ニ縱徑六仙迷ノ班一個アリ

第二 屍體ノ上衣トノ着用セシ木綿綿綿入